

官報 號外

明治二十九年三月二十六日 木曜日 內閣官報局

第九回 貴族院議事速記録第四十二號

明治二十九年三月二十五日(水曜日)午前十時五十二分開議

議事日程 第四十二號 明治二十九年三月二十五日 午前十時開議

- 第一 請願委員長公費二條基弘君報告
第二 岐阜縣下郡廢置及郡界變更法律案
第三 愛媛縣下郡廢置法律案
第四 葉烟草專賣資金會計法案
第五 移民保護法案
第六 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計許可ニ關スル法律案(甲)
第七 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計許可ニ關スル法律案(乙)
第八 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計許可ニ關スル法律案(丙)
第九 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計許可ニ關スル法律案(丁)
第十 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計許可ニ關スル法律案(戊)
第十一 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計許可ニ關スル法律案(己)
第十二 森林法案
第十三 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十四 輸入羊毛海關稅免除法律案
第十五 鐵道敷設法中改正法律案

第十六 集會及政社法中刪除法律案
第十七 社寺上地林保管法案
第十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十九 國勢調査ニ關スル建議案
第二十 農商工會設置ニ關スル建議案
第二十一 神祇ニ關スル官衙設置ノ建議案
第二十二 國費ヲ以テ國學院ヲ保護スルノ建議案
議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 昨二十四日本院ニ於テ可決ニ爲リマシタル政府提出二十八年度特別會計歲入歲出豫算追加案(乙)號ハ即日內閣總理大臣ヲ經由シテ裁可ヲ奉請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知致シマシテゴザイマス、同日本院ニ於テ可決ニ相成リマシタル政府提出、會計檢査院法中改正法律案及修正議決ニ爲リマシタル政府提出、會計檢査院法中改正法律案ハ即日衆議院ニ送付致シマシタルゴザイマス、同日本院ニ於テ否決ニ爲リマシタル政府提出會計檢査院懲戒法案ハ即日內閣總理大臣ヲ經由シテ更ニ廟議ヲ盡サレシコトヲ奉請シ及否決ノ旨ヲ衆議院ニ通知致シマシテゴザイマス、同日本院ニ於テ修正議決ニ爲リマシタル福島縣下郡廢置法律案、靜岡縣下郡廢置法律案ハ即日衆議院ニ回付致シマシテゴザイマス、同日衆議院ヨリ政府提出、明治二十九年度歲入歲出總豫算追加案(戊)號、臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案、明治二十七年豫備金支出ノ件、明治二十七年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件、明治二十七年特別會計東京大阪兩砲兵工廠豫備費支出ノ件、明治二十七年各特別會計豫算超過及豫算外支出ノ件、衆議院提出、清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法案是ダケノ議案ヲ受領致シマシテゴザイマス、同日衆議院ヨリ政府提出、臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案ハ撤回サレマシタル旨ノ通牒ヲ受領致シマシテゴザイマス、昨日本院ニ於テ可決ニ爲リマシタル政府提出、牛馬買賣免許稅規則其他廢止法律案、醬油稅則中改正法律案、裁判所ノ設立及位置並管轄區域變更ニ關スル法律案、馬匹ノ調査及檢査ニ關スル法律案、銀行合併法案、大阪府下郡廢置法律案、兵庫縣下郡廢置及郡界變更法律案、埼玉縣下郡界變更及郡廢置法律案、群馬縣下郡廢置及郡界變更法律案、千葉縣下郡廢置法律案、茨城縣下郡廢置及郡界變更法律案、栃木縣下郡廢置法律案、巖手縣下郡廢置及郡界變更法律案、富山縣下郡廢置及郡界變更法律案、鳥取縣下郡廢置法律案、熊本縣下郡廢置法律案、鹿兒島縣下郡界變更及郡廢置法律案、岡山縣兵庫縣境界變更並福岡縣大分縣境界變更法律案、奈良縣下郡廢置法律案、三

重縣下郡廢置法律案、滋賀縣下郡界變更及郡廢置法律案、島根縣下郡廢置法律案、是ダケノ議案ハ本日內閣總理大臣ヲ經由シテ裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知致シマシテゴザイマス、本日ノ議事日程ニ移リマスル前唯今御報告ニ及ビマシタル豫算案デゴザイマスルガ是ノ審査期限ヲ定ムル件ヲ議事日程ヲ變更シテ議シタイト存シマス別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

別ニ御異議ナイト認メマスニ依ッテ然ラバ議事日程ヲ變更シテ此豫算案ノ審査期限ヲ定ムルノ件ヲ議シマス

○公爵近衛篤磨君 是ハ明日ノ午前十時マデニ審査ヲ終リマシテ報告ヲスルト云フコトニ定メタイト存シマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○子爵小笠原壽長君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 近衛公爵ノ動議ハ明日ノ午前十時マデヲ以テ審査期限トスル、是ニ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

然ラバ此事ニ決シマス、議事日程第一請願委員長公爵二條基弘君報告

(公爵二條基弘君演壇ニ登ル)

○公爵二條基弘君 請願委員會ノ御報告ヲ致シマス、本月六日以來本日マデ受領致シマシタル所ノ請願書ハ三百通デアリマシテ其中第七回ノ文書表ニ載セマシテ議院ノ會議ニ付スベシト議決致シマシタルモノハ二十七通デアリマス、其他ハ會議ニ付スルヲ要セズト致シマシタルモノハ八回文書表ニ載セマシタル中議院ノ會議ニ付スベシト致シマシタルモノハ三十通デアリマス、以上此五十七通ト云フノハ即チ會議ニ付スルコトニナリマシテ其他ハ會議ニ付スルヲ要セズト議決致シマシタル譯デアリマス、モウ既ニ會期ノ時日モ切迫シマシタルカテ請願委員會ニ於キマシテモ今日ハ開會ノ初メヨリシテ今日マデニ受領シマシタル總數ヲ申マスガ開會以來受領致シマシタル所ノ請願書ノ總數ハ九百七十七通其中區別別致シマスト議院ノ會議ニ付スベシト議決致シマシタルモノガ二百六十七通デアリマス、未ダ總會ノ議決ヲ經マセヌモノガ二百四十七通、ソレデ今日未ダ審査ヲ致サヌモノガ九十七通デアリマス、ソレカラ請願ノ規定ニ違フテ却下致シマシタルモノガ十一通デアリマス、右ノ通テゴザイマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 唯今御報告ニ及ビマシタル臺灣總督府ノ所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案、ソレカラ明治二十七年年度豫備金支出ノ件即チ承諾ヲ求ムルノ件デゴザイマス、明治二十七年年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件、是モ承諾ヲ求ムルノ件、明治二十七年年度特別會計東京大阪兩砲兵工廠豫備費支出ノ件、是モ同様デゴザイマス、明治二十七年年度各特別會計豫算超過及豫算支出ノ件是ダケノ案ハ最早會期切迫デゴザイマスニ依ッテ別ニ御異議ガナケレバ議事日程ヲ變更シテ直ニ第一讀會ヲ開キタイト存シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程變更ニ別ニ御異議ハナイト存シマス、然ラバ臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案、第一讀會ヲ開キマス

(子爵津輕承敏君) 議案ガマダ御廻シニナリマセヌト述フ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 配付シテゴザイマス、ドウモ聊カ手違ヒガゴザイマシテ配付シテアルコトニ承知シテ居タンデスケレドモ未ダ配付シナイサウデゴザイマス、其以上ハ唯今議事ルコトハ見合セマスコトニ致シマス、併ナガラ早速ニ配付スルコトガ出來ヤウト存シマスニ依ッテ午後ニ至ッテ尙ホ配付次第ニ議スルコトニ致シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 此岐阜縣ノ郡廢置及郡界變更法律案ハ委員會テ少シ修正ヲ致シマシタガ此修正ハ即チ政府ノ原案ニ復スルノデゴザンシテ、サウバカリモ言ヘマセヌガ衆議院ノ修正ノ中安八郡ノ一部ヲ割イテ海津郡ニ加ヘルト云フコトダケヲ衆議院ノ修正ヲ委員會テハ又修正致シテ政府ノ原案ノ如ク致シタノデ是ハクドクシク申上ゲルニモ及ビマセヌガ誠ニ見易イ修正デゴザイマシテ一日瞭然ニ分ッテ居リマスガ斯様ニ此河ノ一廓ダケヲ以テ海津郡ニヒヤウト云フノデゴザンズ、即チ水利ノ關係カラ實際ノ利害ハ其河ノ堤防ナリ岐阜縣デハ之ヲ輪中ト申スノデ其輪中ダケハ利害ヲ共ニシテ居ル、ソコニ此舊來安八郡ノ中僅ニ八箇所許リノ飛地ガ這入ッテ居ルノデ其飛地ノ分ダケヲ今般堤防内ノ方へ組入レルト云フノデ是ハ政府ノ原案ガ極ク適當ナ案デゴザイマシテ此土地ノ人民モ斯様ニナランコトヲ希望致シテ居ルノデ然ルニソレヲナゼ衆議院デ修正シタカト申シマスルニソレハ少シ事情アル事デゴザイマシテ衆議院ノ方ノ議員モ今日デハ却ッテ政府ノ原案ノ通ニナランコトヲ希望致シテ居リマスカラ是ハ當院デ委員會ノ修正通ニ御贊成下サスッテ衆議院ニ廻シマスレバ直ニ贊成ヲ致シマス、決シテ協議會ヲ開クヤウナ恐ハゴザイマセヌカラドウカ御安心下サスッテ修正ニ御贊成下サルヤウニ願ヒマス、其他ハ衆議院ノ修正通デ更ニ差支ゴザイマセヌ、ドウカ宜シク……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○公爵二條基弘君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○子爵林友幸君 贊成

○子爵鍋島直彬君 贊成

○子爵細川護成君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

二條公爵ノ勳議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、直ニ第二讀會ヲ開キマス、是ハ一箇條ノ修正デゴザイマスニ依ッテ全部ヲ問題ニ供シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)
岐阜縣美濃國厚見郡及各務郡ヲ廢シ其ノ區域ト方縣郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(木田村下尻毛村黒野村下鶴飼村御望村洞村交人村折立村今川村古市場村安食村彦坂村佐野村石谷村岩利村打越村城田寺村上土居村椿洞村正木村鷺山村下土居村長良村福光村雄總村志段見村古津村則武村)トヲ以テ稻葉郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國羽栗郡及中島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ羽島郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國海西郡及下石津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ海津郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國池田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ養老郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國多藝郡及上石津郡ヲ廢シ其ノ區域ト大野郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(揖斐町北方村上南方村房島村若松村樂極寺村清水村松山村瀨古村牛洞村中之元村豊木村稻富村上秋村古川村寺内村稻畑村黒野村六里村麻生村相羽村下方村公郷村大友斐村小衣斐村領家村杉野村加納村上磯村那家村木莊村下磯村西座倉村下座倉村五ノ里村下南方村長瀬村岐禮村高科村名禮村德積村大洞村深坂村横藏村)トヲ以テ揖斐郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國本巢郡及席田郡ヲ廢シ其ノ區域ト方縣郡ニ屬セシ區域ノ一部(河渡村寺田村曾我屋村一日市場村七郷村中西郷村上西郷村小野村中村網代村)ト大野郡ニ屬セシ區域ノ一部(政田村淺木村温井村海老村下福島村唐西木村木村七崎村田ノ上村宮田村大日村居食村古橋村呂久村中宮村横屋村寶江村西根尾村)トヲ以テ本巢郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國山縣郡ニ方縣郡ニ屬セシ區域ノ一部(粟野村岩崎村三田洞村)ヲ編入ス

附則
此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
(特別委員修正案)
岐阜縣美濃國厚見郡及各務郡ヲ廢シ其ノ區域ト方縣郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(木田村下尻毛村黒野村下鶴飼村御望村洞村交人村折立村今川村古市場村安食村彦坂村佐野村石谷村岩利村打越村城田寺村上土居村椿洞村正木村鷺山村下土居村長良村福光村雄總村志段見村古津村則武村)トヲ以テ稻葉郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國羽栗郡及中島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ羽島郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國海西郡及下石津郡ヲ廢シ其ノ區域ト安八郡ノ一部(今尾町高田村三郷村佛師川村平原村土倉村脇野村西島村)トヲ以テ海津郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國多藝郡及上石津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ養老郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國池田郡ヲ廢シ其ノ區域ト大野郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(揖斐町北方村上南方村房島村若松村樂極寺村清水村松山村瀨古村牛洞村中之元村豊木村稻富村上秋村古川村寺内村稻畑村黒野村六里村麻生村相羽村下方村公郷村大友斐村小衣斐村領家村杉野村加納村上磯

生村相羽村下方村公郷村大友斐村小衣斐村領家村杉野村加納村上磯

村郡家村木莊村下磯村西座倉村下座倉村五ノ里村下南方村長瀬村岐禮村高科村名禮村德積村大洞村深坂村横藏村)トヲ以テ揖斐郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國本巢郡及席田郡ヲ廢シ其ノ區域ト方縣郡ニ屬セシ區域ノ一部(河渡村寺田村曾我屋村一日市場村七郷村中西郷村上西郷村小野村中村網代村)ト大野郡ニ屬セシ區域ノ一部(政田村淺木村温井村海老村下福島村唐西木村木村七崎村田ノ上村宮田村大日村居食村古橋村呂久村中宮村横屋村寶江村西根尾村)トヲ以テ本巢郡ヲ置ク
岐阜縣美濃國山縣郡ニ方縣郡ニ屬セシ區域ノ一部(粟野村岩崎村三田洞村)ヲ編入ス

附則
此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
○議長(侯爵須賀茂韶君) 委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○子爵由利公正君 續イテ三讀會ヲ開カレマスコトヲ
○子爵鍋島直彬君 贊成
○伯爵大原重朝君 贊成
○子爵林友幸君 贊成
○議長(侯爵須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開クコトニ別ニ異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
○議長(侯爵須賀茂韶君) 然ラバ變更ニナリマス、シテ直ニ第三讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

(本案ハ第二讀會ニ於テ修正ナキヲ以テ略ス)
○議長(侯爵須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ愛媛縣下郡廢置法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(子爵鍋島直彬君演壇ニ登ル)
○子爵鍋島直彬君 委員會ノ結果ヲ報告致シマス、此案ニ向ッテ委員會デ一字ノ修正ガゴザイマシタツレハ即チ此ノ伊豫國越智郡及野間郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ越智郡ヲ置ク此二郡ノ内ノ一郡ノ名ニ原案ハナッテ居リマシツレヲ此修正ハ二郡ノ名ノ頭字ノ一字ツツヲ折衷致シテ新郡ニ名附クルト云フコトノ修正ヲ致シマシタノデ其理由ハ別ニ深イ理由モゴザイマセヌスノ如クナリマシタ方ガ人心ノ打合上ニ宜シト云フ單純ナル理由デ多數ヲ以テ斯ノ如ク此修正案ノ如ク決シマシタノデゴザイマス

○田中芳男君 一寸質問致シマス、唯今委員長カラ御報告ガゴザイマシテ了解致シマシタガは何ト讀ミマスノデゴザイマスカ、ソレヲ一應伺ヒマス、而シテ必ズ此二郡ヲ合併スルトキニハ其郡ノ字ヲ一字ツツ取ッテ附ケナケレバナラヌ、何時デモ三郡ヲ合併スレバ三字ヲ附ケナケレバナラヌト云フ習慣

ヲ付ケテヤルノハ面白クナイト思ヒマスガ尤モ茲ニハ三字ノガ有リマセヌカ
ラ……此二字ノ讀ミ方之ヲ伺ヒマス
○子爵鍋島直彬君 田中君ニ御答致シマス、多分サウ云フ御尋ガ出ルデアラ
ウト思ヒマシタカラ委員會ニ於テモ此修正ノ發議者ニ向ッテ訓讀ハ如何デア
ルカト云フコトヲ確メテ見マシタサウ致シマシタラバ「エツヤ」郡ト稱ヘ
ルサウデゴザイマス唯今尙ホ二郡ノ名ヲ折衷スルト云フノハ面白クナイト云
フ御説デゴザイマシタガソレハ御意見ニ屬シマスカラ本員カラ御答ハ致シマ
セヌ

〔政府委員木内重四郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(木内重四郎君) 是ハ越野ト強テ修正ニナル程ノ必要ハナカラウ
ト思ヒマス第一回ノ帝國議會ニ提出致シマシタ時ニ委員會ニ於テハ此越智
郡ト野間郡ヲ合シテ越智郡ガ大キイニ依ッテ越智郡ト云フ名稱ニシヤウト云
フコトニナリマシテ第二回ノ法案モ今度ノ法案モ同ジコトデアリマス、而シ
テ此越智郡ノ人口ハ十一万三千有リマス、餘程大キナ郡デアリマス、野間郡
ノ方ハ僅ニ二万八千有リマセヌ、越智郡ハ斯ノ如ク大郡デアリマスルカ
ラシテ獨立シテ自治體ヲ爲スコトガ出來ルデスケレドモ野間郡ガ小サクシテ
獨立ガ出來ヌ故ニ越智郡ニ合シタノデス、ソレデアリマスルカ強テ兩郡ノ
名稱ヲ折衷セズトモ大キイ所ノ越智郡ノ名稱ヲ其儘用ヒテ少シモ差支アリマ
セヌノデス、衆議院デモ多數ノ人ガ原案ニ贊成ヲ致シ會テ野間郡ノ一字ヲ取
ラウト云フ論モナカッタ有様デアリマス、而シテ此愛媛縣ノ郡廢置ノ中ニハ
獨リ此越智郡バカリデアハリマセヌデス、第一項ニ溫泉、久米、風早、和氣、
斯ノ如ク數郡ヲ合シテ何ト云フ名稱ニナッテ居ルカト申シマス、矢張其内
ノ大ナル溫泉ト云フ名稱ニナッテ居リマス、又仕舞ノ項ニ伊豫郡ト下浮穴郡
トヲ合シテ是モ伊豫郡ト云フコトニ致シテアリマス、ソレデハ必シモ兩郡ノ名
稱ヲ參互折衷シナケレバナラヌト云フコトニ致シテ或ハ有名ナ郡デアルトカ
或ハ大キナ郡デアルトカ色々ナ事情ニ依ッテ名稱モ撰定シナケレバナラヌ
デスカラ此一字ノタメニ民心ノ動搖ヲ來スト云フコトハ必ズアリマセヌ、
ウカ原案通御贊成アラフコトヲ希望致シマス

○田中芳男君 唯今政府委員カラモ御辯明ガゴザイマシテ分リマシテゴザイ
マスルガ抑、此郡名ト云フモノハ……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 田中君ハドウ云フ……大體ニ就イテ御説デス
カ

○田中芳男君 是ハ修正説ヲ提出シヤウト思ヒマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ暫ク御待ニナッテ第二讀會デ御述ニナル
ヤウ、第二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ヲ開クベシ
トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○男爵中川與長君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望
致シマス

○子爵鍋島直彬君 贊成

○子爵秋田映季君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 中川男爵ノ議事日程變更ノ動議ニハ別ニ御異議
ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者多シ〕

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開ク
コトニナリマス、是モ全部ヲ問題ニ供シマス、朗讀ハ省略致シマス

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕
愛媛縣伊豫國溫泉郡、久米郡、風早郡及和氣郡ヲ廢シ其ノ區域ト下浮穴郡ヲ
廢シ其ノ區域ノ一部(三内村、南吉井村、浮穴村、拜志村、荏原村、阪木村)ト伊
豫郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部(垣生村、余土村)トヲ以テ溫泉郡ヲ置ク
愛媛縣伊豫國越智郡及野間郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ越智郡ヲ置ク
愛媛縣伊豫國周布郡及桑村郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ周桑郡ヲ置ク
愛媛縣伊豫國伊豫郡ニ屬セシ區域ノ一部(南山崎村、北山崎村、郡中村、郡中
町、南伊豫村、北伊豫村、岡田村、松前村)ト下浮穴郡ニ屬セシ區域ノ一部(原町
村、砥部村、廣田村、出淵村、中山村、佐禮谷村、上灘村、下灘村)トヲ以テ伊豫郡
ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十年四月一日ヨリ施行ス
(特別委員修正ハ第二項ノ末、越智郡ヲ置クトアルヲ「越野郡ヲ置
ク」ト改ム)

○田中芳男君 提出致シテ宜シウゴザイマスカ……越智郡ト野間郡トヲ合併
シテ越智郡ト云フ郡名ニスルト云フコトノ政府案デアリマシタノヲ二ツノ郡
名ヲ取ッテ越野ト云フコトニ特別委員ノ修正ニナリマシタガ本員ハ矢張越智
郡ト云フモノニシテ置イタ方ガ宜カラウト考ヘマス、況ヤ政府委員モ同感デア
アリマス、此越智ト云フモノハ唯今政府委員モ言ハレタ通郡モ大キキ片一
方ノ野間郡ハ極ク小サクテ獨立ガ出來ヌカラ野間郡ト云フ小サイモノヲ潰シ
テ越智郡ニ併セルト云フコトニナル是ハ無論他ノ例ヲ以テ考ヘテモ越智郡
トシタ方ガ宜カラウト思ヒマス、又越智ト云フ名ハ餘程古クカラ有ル名デア
テソレヲ今越野ト云フ分ラヌ名ニスルノハ……昔カラ有ッタ良イ名ヲ棄テ、
仕舞フノハ残念ニ考ヘマス、抑、我國ノ郡名ハ和銅六年ニ定メラレテ餘程文
字モ研究シテアル、ソレヲ今コンナ分ラヌ文字ニスルト云フコトハ分ラヌ事
ト考ヘマスカラ是非トモ政府案ノ越智郡ト云フコトニシタイト考ヘマスカラ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 田中君ニ申シマスガソレハ御修正案デハナイノ
デス

○田中芳男君 サウデゴザイマスカ、ソレデアラハ政府案ニ回復シタイト云フ希
望ヲ懷イテ居リマスカラドウゾ皆サン御贊成ヲ……

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 唯今此越智ノ所ニ於テ御議論ガ出マシタニ依ッ
テ然ル以上ハ是ダケハ別ニ決ヲ採リマス即チ先ツ第一項ノ「愛媛縣伊豫國溫
泉郡」云々トアル、之ヲ問題ニ供シマシテ決ヲ採ルコトニ致シマス、第一項
原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○男爵中川與長君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望
致シマス

○子爵鍋島直彬君 贊成

○子爵秋田映季君 贊成

○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザイマス、次ニ「愛媛縣伊豫國越智郡及野間郡ノ廢シ其ノ區域ヲ以テ越智郡ヲ置ク」此一項ノ問題ニ供シマス
○松本鼎君 田中君ノ御説ニ附イテ問違フト惡イデ一寸確メテ置キマスガ田中君ノ御説ハ修正説デハナク即チ原案ノ通ト見テ居リマス、若シ修正案トスルト問違ヒマスルデ即チ私ハ原案ト見テ宜シト思ヒマス、採決ノタメニ一言致シテ置キマス

○子爵鍋島直彬君 是ハ唯今松本君カラ御説ガ出マシメガ能ク議員ニ於テ問違ノ無イヤウニ御宣告ヲ願ヒタウゴザイマス
○議長(侯爵須賀茂昭君) 即チ是カラ決ヲ採ラウト存ズルノハ原案ノ方デハナイノデ委員ノ修正ニ就イテ決ヲ採ルノデ若シツレガ少數ニ陷レバ原案ノ方ヲ採ルノデアリマス、委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザイマス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザイマス、次ハ「愛媛縣伊豫國周布郡」云々ト云フ所ヨリ以下終リマデ問題ニ供シマス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザイマス
○子爵土方雄志君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○小畑美稻君 贊成
○子爵鍋島直彬君 贊成
○子爵由利公正君 贊成
○議長(侯爵須賀茂昭君) 議事日程變更ニハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ
(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(侯爵須賀茂昭君) 然ラバ議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス
(本案ハ第二讀會ニ於テ修正ナキヲ以テ略ス)

○議長(侯爵須賀茂昭君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザイマス、次ニ葉烟草專賣資金會計法案政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(平山成信君演壇ニ登ル)
○平山成信君 諸君 此法案ノ特別委員會ハ昨日開會致シマシメ所ガ折柄委員長ノ由利子爵ハ缺席デゴザイマシテ副委員長ノ加納子爵ガ代理ヲ致サレマシタノデゴザイマスガ唯今加納子爵モ出席ニナツテ居リマセヌ故ニ委員ノ一人ナル私カラ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道申シマス、此案ハ過日此議場ヲ通過致シマシメ葉烟草專賣資金會計法案ノ結果デアッテ固ヨリ已ムヲ得ナイ事デゴザ

シスルカラ委員會ニ於キマシテモ一ノ議論モ無ク原案ノ通ニ可決致シマシテゴザイマス、此段御報告申シマス、併セテ請求致シマスガ御覽ノ通極ク單純ナ案デゴザイマスルカラ願クハ讀會ノ順序ヲ御省略ニナツテ速ニ御議決ニナラシコトヲ希望致シマス

○田中芳男君 讀會省略ノ動議ニ贊成致シマス
○山田卓介君 贊成
○子爵板倉勝達君 贊成
○調所廣丈君 贊成

○子爵秋田映季君 贊成
○子爵小笠原壽長君 贊成
○金澤松右衛門君 贊成
○子爵由利公正君 贊成
○小畑美稻君 贊成
○佐藤清右衛門君 贊成

○議長(侯爵須賀茂昭君) 平山君ノ三讀會省略ノ説ニハ定規ノ贊成ガゴザイマス、三讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂昭君) 三分ノ二以上ノ多數ト認メマス
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

葉烟草專賣資金會計法
第一條 葉烟草專賣法ニ依リ政府ニ於テ收納スル葉烟草賠償ノ爲メ葉烟草專賣資金ヲ置キ特別會計ヲ設置ス
第二條 每會計年度ニ於テ其ノ歳入ノ葉烟草賠償金ニ超過スルモノハ同年度一般ノ歳入ニ編入シ資金ハ翌年度ニ繰越スヘシ
第三條 政府ハ毎年葉烟草專賣資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ
第四條 葉烟草專賣資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定

第五條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス
○議長(侯爵須賀茂昭君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數
○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザイマス、次ニ移民保護法案、政府提出衆議院送付、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(侯爵細川護成君演壇ニ登ル)
○侯爵細川護成君 特別委員會ノ願末ヲ御報道致シマス、此移民保護法案ハ理由書ニモゴザイマス通ニ勞動ノ目的ヲ以テ海外ニ渡航スル者ガ年々増加致シマシテ又之ヲ募集シ周旋スル者モ從ッテ多クナツテ居リマス、然ルニ此渡航者ガ海外ノ事情ニ暗キガタメニ往々困難ナル事情ニ陥リマスルコトハ理由書ニモ書イテアリマスル通デアリマスルガ其弊害ヲ防ガタメニ政府ハ去ル明治二十七年四月ニ勅令第四十二號ヲ以テ移民保護規則ヲ發セラレマシタガ尙ホ勅令ヲ以テハ十分ニ規定シ難キモノガ有リマスルニ依ッテ此度ハ此法

律案ヲ提出サレマシタル譯デアリマスル、此法律案ノ要點ハ先ヅ移民保護規則ニ依ツテ見マスレバ保證金ト云フモノヲ移民取扱人ヨリ行政廳ニ納メサセマシテ置キマスルケレドモ此移民取扱人ニ依ツテ參リマシタ所ノ移民ガ先キニ往ツテカラ如何程困難シマシテモ此保證金ヲ以テ差引クコトハ出來ナイ次第ニナツテ居リマス、ソレデ此今度法律案ハ重モニ此保證金ノ事ニ附イテ若シ此移民ガ困難致シマス場合ニハ政府ガ此保證金ニ手ヲ附ケテ救助スルトカ又ハ送返ヘストカ云フ手續ヲスルノガ大體ノ主意デアリマス、ソレカラ又此罰則ノ事モ勅令ニゴザイマスルカラ移民保護規則ニ二百圓以下デゴザイマスガ今度ハ法律ヲ以テ致シマシタ故ニ幾分加重ヘタ譯デアリマス、又此衆議院ノ修正ノ所ニ致シマシテ此第十四條デゴザイマスガ此移民ガ一旦出發致シマシテ向フヘ參ツテカラ種々ナ周旋料即チ保險會社ニ積金ヲスルトカ又ハ貯金ヲシテソレヲ國ニ送ルトカ云フヤウナ手續モ政府案通ニ致シマスルト即チ無手数料デゴザイマシテ譬ヘテ申シマスルト義務ノヤウナ譯デシナケレバナラヌ都合デアリマスルカラ此認可ヲ受ケタル即チ此契約書面ニ定メマシタル所ノ渡航周旋料ト若クハ手数料モサウ云フ場合ニハ取ツテ宜カラウト云フ譯デ修正ニナリマシタノデアリマス、尤モ政府ノ此原案モ此手数料杯ノ事ハ此周旋料ノ中ニ含蓄サセル見込デアッタサウデアリマスケレドモ是モ矢張修正案通ニ手数料ト云フ書面契約ニ定メタ所ノ手数料ト別ニシタ方ガ唯今申シタルヤウナ場合ニハ必要ダト存シマス、又此十八條ノ修正ハ第二項ヲ削除シマシタル點デゴザイマスルガ是ハ衆議院ノ速記録デモ御覽ニナリマスレバ直グニ政府委員カラノ答モ質問モ分リマスルコトデアリマスルカラ是モ至當ト存シマシテ省キマシタコトデゴザイマス、逐條ノ審査ヲ經タ時ニハ一二箇條ノ修正說モ有リマシタケレドモ格別此趣意ニ於テ不同意モナク又此文字通テ譯ノ分ラヌ事デモゴザイマセヌニ依ツテ御承知ノ通明日一日ノ議會ニナツテ居リマスルカラ別段文字上ノ修正位ノ事ナラモウ是デ通フスト云フ譯デ委員會ニ於キマシテハ全會一致デ可決致シマシタル次第デアリマスルニ依ツテ滿場諸君ニモ御贊成ヲ願ヒマス、委員會ノ經過ノ御質問デゴザイマスレバ委員長ノ資格ヲ以テ御答致シマスルケレドモ此法案ノ條項ハ政府委員モ御出席ニナツテ居リマスルニ依ツテ政府委員ヘ御質問ヲ願ヒタウゴザイマス

○田中芳男君 政府委員ニ一寸御尋致シタウゴザイマス、過日第一讀會ノ頃ニ本員ハ折惡シク此席ニ居マセシタカラ御說明ガアリマシタカ承リマセナンダガ本員モ聊カ承リタイコトハ此移民ト申スルモノハ本員杯ノ初メ考ヘマシタ所デハ北海道並ニ臺灣地方ヘ往ク人間ヲ保護スルタメカト考ヘマシタガサウ云フ譯デハナイ、全ク外國ヘ出テ往ク人バカリト云フコトハ第一條デ分リマシタ、此第一條ノ第二項ニアリマスルガ「労働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」トアリマスル此命令ヲ以テ定メラレマスルコトデゴザイマスルカラ此法律中ニハ勿論ドノヤウナモノヲ御定メニナルヤ分リマセヌガ曾テ本院ヘモ提出ニナリマシタガ、ツイドウカナリマシタ姪賣人ノ渡航取締杯ト云フモノハ労働ノ種類ト云フモノデ御取締ガ付クモノカト考ヘマシタガ其邊ヲ一應伺ツテ置キマス

○政府委員(原敬君) 唯今田中君ノ御問ニ御答致シマスガ、此労働ノ種類ト

申シマスルモノハ例ヘバ農夫デアルトカ漁業ノタメデアルトカ其他ノ人ニ使役セラル、タメデアルトカ云フヤウナ種類ヲ命令ヲ以テ定メマスルノデ是ハ免角名稱ガ其時ニ依ツテ種々ナ名稱ヲ附ケテ渡航スル者ガ多ク有リマスルカラ命令ヲ以テ規定シテ置ク方ガ實際ノ取締ガ出來ララウト云フコトデ命令トシマシタ、ソレデ唯今御尋ノ中ノ密賣婦杯ノ取締ハドウデアアルカト云フコトデアリマスルガ是ハ無論ニ此種類ノ中ニハ含蓄シテ居ラヌ積デゴザイマス、是ハ別ニ他ノ取締ヲ要シマスル事ト考ヘマスルカラ詰リ此移民ノ種類ニハ含蓄シテ居ラヌ見込デアリマス

○山脇玄君 一寸政府委員ニ質問致シマス、此第八條ノ所デゴザイマスルガ此所ニ營業ノ許可ヲ取消スト云フコトガゴザイマスル此營業ニ關シマシテハ行政訴訟ヲ許ス御考デアリマスルヤ否ヤソレカラモウツハ此第六條「行政廳ノ許可ヲ受クヘシ」ト云フコトガアリマス、若シ行政廳ガ理由ナク此許可ヲ拒ンダ時分ニハ矢張行政訴訟ヲ許スト云フ御趣意デアリマスヤ、其邊ノ所ヲ伺ヒマス

(政府委員原敬君演壇ニ登ル)

○政府委員(原敬君) 唯今ノ御質問ニ御答致シマスルガ營業ノ拒否ニ關シテハ確カ行政裁判所ニ訴訟ヲ許サレテ居ルト考ヘマス、行政裁判所ノ方デ許サレテ居ルト考ヘマス、シテ見マスレバ無論ニ其法律ニ依ツテ出訴スルコトハ妨グヌ積デアリマス

(山脇玄君「許可ノ取消ハ……」ト述ブ)

行政廳ノ許可ヲ受クベシト云フ所ニモ御質問ガアッタノデシタナ、……是ハ無論ニ許可ヲ受ケナイト云フテ行政訴訟ヲ起スコトハ出來ナイデアラウト考ヘマス、併ナガラ若シモ行政裁判所法ニ於テ許シマスレバ無論妨グマセヌ、是ハ多分是ノミナラズ此ノ如キ類ハ出來得ナイコトニナツテ居ルト考ヘマス

○山脇玄君 一寸モウ一ツ、此第六條ノ所デゴザイマスルガ唯今申サル、行政裁判法トカ云フモノハ明治二十三年ノ法律第六號ノモノデハアルマイカト考ヘマスルガ明治二十三年ノ第六號ノ法律ニ據リマスルト矢張營業免許ヲ拒ム、最初營業ヲ願ヒ出デタ時分……其免許ヲ拒ンダ時分ニ矢張訴訟ヲ許シテアリマスヤウニ本員ハ信シテ居リマスルガ若シ行政廳ノ法律ニ據ツテ出訴シテモソレハ仕方ガナイ、矢張出訴ヲ許スト云フ御解釋ニナルノデアリマセウカ

○政府委員(原敬君) ソレハ唯今私ノ記憶シテ居ル所ヲ申上ゲマシタガ無論他ノ法律デ此ノ如キ種類ニ出訴ヲ許サレテ居ルナラバ出訴ヲスルコトハ妨グナイ積デアリマス、茲デハ唯許可ヲ受クルト云フ規定デゴザイマシテ許可ヲ受クルガ宜イトカ惡イトカ云フコトハ別問題デアリマスガ、其許可ヲシナシタ時ノ事ハ他ノ法律ニ規定ニ讓ツテ他ノ法律デ訴訟ガ出來得ルナラバ訴訟ヲシテモ差支ナイト思ヒマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御發言ガ無ケレバ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○政府委員(原敬君) 唯今田中君ノ御問ニ御答致シマスガ、此労働ノ種類ト

○子爵土方雄志君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ請求
致シマス

○子爵鍋島直彬君 贊成

○子爵林友幸君 贊成

○野村素介君 贊成

○侯爵細川護成君 贊成

○宮島誠一郎君 贊成

○小林小太郎君 贊成

○飯淵七三郎君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ
コトニハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者多シ

然ラバ議事日程ヲ變更シマシテ第二讀會ヲ直ニ開キマス、是ハ別ニ修正モゴ
ザイマセヌニ依ッテ全部ヲ問題ニ供シマス、朗讀ハ省略致シマス

○山脇玄君 私人少シ修正ヲ提出致シタイノデアリマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 宜シウゴザイマス

○山脇玄君 極簡單デゴザイマスカラ茲デ宜シウゴザイマスカ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 宜シウゴザイマス

○山脇玄君 第八條ノ第二項ニ一項ヲ加ヘルト云フ修正デアリマス、ソレハ
修正文ヲ申シマスレバ「前項營業免許取消ノ處分ニ關シテハ行政訴訟ヲ提起
スルコトヲ得」前項營業免許取消ノ處分ニ關シテハ行政訴訟ヲ提起スルコト
ヲ得ト云フ是ダケノ文字ヲ第八條ノ第二項ニ入レルノデアリマス、其主意ハ
先刻政府委員ノ申サレマスルノニハ第八條ノ營業ノ免許ノ取消ヲ致シタ時分
ニハ勿論、第六條ノ移民取扱人ヲラント欲スル者ガ行政廳ニ免許ノ願ヲ出シ
タ、其免許ヲ拒ンダ時分デモ矢張此行政訴訟ヲ許スト云フ御説明デアリマシ
タガ私ハソレハ宜シクナイト思ヒマス、第六條ノ此最初免許ヲ願出タ時分ニ
行政廳ガ拒ンダ場合ニハ訴訟ヲ許スノハ宜シクナイ、其場合ニハ行政訴訟ヲ
許サヌ方ガ宜シイ、併ナガラ第八條ノ一旦許シタ其免許ヲ取消シタ場合ニハ
ソレハ行政訴訟ヲ許サネバナラヌ、ソコデ此原案ノ如ク出訴ヲ許スト云フ明
文ガ有リマセヌト云フト最初免許ヲ願出シタ場合ニ免許ヲ拒ンダ場合ニモ出
訴ヲ許シ、又一旦免許ヲ與ヘタ免許ヲ取消シタ場合ニモ出訴ヲ許スト云フコ
トニナツテハ甚ダ不都合デアアル、ソコデ此第八條ニ二項ヲ加ヘマシテ營業免
許取消ノ處分ニ關シテハ行政訴訟ヲ許スト書イテ置キマス、其法律ノ中デ
此場合ノ外ハ行政訴訟ヲ許サナイト云フ解釋ガ十分ニ取レル、其理由ヲ申シ
マスルト營業條例ノ如キハ其通り最初採掘免許ヲ願ヒ出ル其時分ニ免許ヲ拒
ンデモ出訴ヲ許サナイ、一旦與ヘタ採掘ノ免許ヲ取消シタ場合ニハ出訴ヲ
許シテアル、ナゼサウナルカト云フト營業條例デハ營業免許ヲ取消シ致シタ
場合ニハ出訴ヲ許スト云フ明文ガ有ルニ依ッテ其他ハ總テ出訴ヲ許サナイト
云フ解釋ガ出來ル、ソレト同ク第八條ニ第二項ヲ置カナイト最初ノ第六條ノ

免許ヲ與ヘナイト云フ場合ニモ出訴ヲ致スト云フ不都合ヲ生ジマスルニ依ッ
テ此第八條ニ第二項ノ一項ヲ加ヘルト云フ必要ガアラウト思ヒマス、ドウカ
マダ二十名ノ贊成ヲ得テ居リマセヌカラ諸君ノ御贊成ヲ得マシテ成立チマス
ルヤウニ希望致シマス

(政府委員原敬君演壇ニ登ル)

○政府委員(原敬君) 今ノハ議題ト爲ルヤラ如何ハ知リマセヌガ其行政裁判
所ニ出訴ヲ許スト云フコトハ行政裁判所ノ方ノ法律ヲ以テス様ナルモノハ許
スコトニナツテ居レバ訴訟ヲシテモ差支ナイト云フ見込デアアル、此移民保護
法ヲ以テ殊更ニ行政訴訟ヲ許サヌト云フ規程ヲ設ケル積デハナイノデゴ
ザイマス、一方ノ行政裁判所ノ方ノ法デ許スナラバ許シテ宜イ、許サヌナラ
バ許サヌデ差支ハナイト云フ見込ヲ先刻申上ゲマシタ、ソレヲ一應御了解ヲ
願ヒタウゴザイマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 山脇君ノ修正ニハ別ニ贊成ハ無イヤウデゴザイ
マス、別ニ御發言ガ無ケレバ決ヲ採リマス、即チ全部ガ問題ニ爲ッテ居リマ
ス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○子爵土方雄志君 直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ請求致シマス

○松本鼎君 贊成

○子爵林友幸君 贊成

○侯爵細川護成君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ第三讀會ヲ直ニ開クトニ
御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

然ラバ變更ニ決シマス第三讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

(本案ハ第二讀會ニ於テ修正ナキヲ以テ略ス)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ豫定鐵道線路中私設鐵
道會社ニ敷設許可ノ法律案ノ……

○子爵岡部長職君 次ニアリマスル所ノ第六ノ日程ヨリ第十一マデハ昨日一
括シテ委員會ニ付セラレ速ニ委員會ニ於キマシテハ審議ヲ終リマシテ早速報
告ニ及ビマシタ次第デアリマス、皆性質ヲ同ウスル所ノ問題デアリマス最早
會期モ餘日ヲ剩シテ居リマセヌコトデアリマスカラシテドウカ此第六ヨリ第
十一ニ至ル此問題ハ一括シテ問題ニ供サレンコトヲ希望致シマス

○子爵曾我祐準君 贊成

○松本鼎君 贊成

○武井守正君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是ハ別ニ決ヲ採ルニモ及ビマスマイト思ヒマス
(異議ナシ)ト呼フ者アリ

岡部子爵等ノ説ノ如クニ致シマス、第六豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法律案是ヨリ第十一マデ六ツノ同様ノ件ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(子爵岡部長職君演壇ニ登ル)

○子爵岡部長職君 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル諸問題ニ附キマシテハ昨日特別委員ニ付託ヲサレマシテ速ニ議事ニ取掛リ又速ニ結了ヲ致シマシタノデアリマスル質問ノ點ニ附キマシテハ委員ノ中カラシテ段々政府委員ニ尋ネマシタコトモアリマスシ又段々説明モアリマシテハゴザイマスルガ詰リ此諸法案ニ附キマシテハ委員會ニ於キマシテハ速ニ可決スベシト云フコトニ決シマシタノデアリマス、唯其中ニ此乙號デアリマスル宮城縣下石ノ卷ヨリ起ッテ山形縣下船形町ニ至ル鐵道線路ノ中宮城縣下石ノ卷ヨリ同縣下溫泉村鍛冶屋澤ニ至ル鐵道、此一部分ノ鐵道ヲ私設會社ニ許スト云フコトニ就キマシテハ委員中ニ反對説ガアリマシタ其反對説ノ理由ト申スノハ此豫定線路中ニ石ノ卷ヨリ溫泉村鍛冶屋澤ニ至ル所ノ鐵道ヲ私設會社ニ許シタ以上ニハ殘ル所ノ部分ハ誠ニ敷設スルニ誠ニムツカシイ處デアアル其一部分ヲ...殘タル所ノ一部分ヲ敷設スルト云フコトハ誠ニ將來ニ向ッテ餘程困難ヲ感ズルデアラウ、私設鐵道會社ヲシテ其部分ニ鐵道ヲ敷設セシムルト云フコトハ經濟上ムツカシイダラウシ、又之ヲ政府ニシテ敷設スルトナレバ困難ナル處ノミヲ政府ガ敷設スルト云フコトニ立至ルト云フ事ニモナラウシ、是ハ誠ニ困難デアアルカラシテ此石ノ卷ヨリ山形縣下船形町ニ至ル所ノ其線路中ノ長キ部分ダケヲ引抜イテ許スト云フコトハ如何デアラウカト云フ所ノ説ヲ以テ先ヅ此案ハ廢シタラ宜カラウト云フ動議ガ起リマシタケレドモ此動議モ少數デアリマシテ成立チマセヌデアリマシタ、此他ノ諸案ハ總テ一人ノ反對モ無ク委員會ノ一致ヲ以テ可決致シマシタノデアリマス、別ニ詳シク御報道申上ル程ノ事モゴザイマセナシデアリマス、簡短ニ是ダケ御報告ニ及ビマス

○飯淵七三郎君 唯今委員長カラ報告ニ依ッテ此法案中ノ乙號、乙號デス、私ハ宮城縣ノ事情ハ能ク心得テ居リマスガ決シテ是ハドウモ迂濶ノ請願ヲシタノデモナク能ク實測致シテ然ル後地方カラモ請願致シタモノデアリマスカラ之ハ決シテ政府ニサウ云フ御苦勞ヲ掛ケルコトハ斷シテナイト信シテ居リマスカラツレデ委員會ノ決議ニ御賛成アラントラ希望致シマス

○松本鼎君 此六件ハ唯今ノ通一括ニナッテ議事ニナリマシタニ附キマシテモ別ニ議論モ無イヤウデアリマスカラモウ一步進メテ讀會ノ順序ヲ省略致シタイト云フ動議ヲ提出致シマス

○子爵由利公正君 賛成

○武井守正君 賛成

○山田卓介君 賛成

○角田林兵衛君 賛成

○關田可通君 賛成

○飯淵七三郎君 賛成

○子爵小笠原壽長君 賛成

○船越衛君 賛成
○伯耆大原重朝君 賛成
○子爵一柳末徳君 賛成
○名村泰藏君 賛成
○田部長右衛門君 賛成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 三讀會ノ順序ヲ省略スルト云フ松本君ノ請求デゴザイマシテ成規ノ賛成ガゴザイマス、此松本君ノ説ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省略ニナリマシタ

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法律案(甲)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ共ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

一 山梨縣下甲府ヨリ靜岡縣下岩淵ニ至ル鐵道

一 東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道ヨリ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道線中千葉縣下曾我町ヨリ木更津ニ至ル鐵道

一 京都府下舞鶴ヨリ福井縣下小濱ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道

一 兵庫縣下姫路ヨリ生野ヨリ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ園部ニ至ル鐵道線中兵庫縣下姫路ヨリ笹山ヲ經テ京都府下園部ニ至ル鐵道

一 香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道

一 福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分、宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿児島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道中大分縣下柳ヶ浦ヨリ大分ニ至ル鐵道

豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法律案(乙)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ共ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

一 宮城縣下石ノ卷ヨリ小午田ヲ經テ山形縣下船形町ニ至ル鐵道線中宮城縣下石ノ卷ヨリ同縣下溫泉村鍛冶屋澤ニ至ル鐵道

政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ本線路ノ全部ヲ敷設スルノ必要ヲ認ムルニ當リ共ノ會社ニ於テ之ガ敷設ヲ爲サ、ルトキハ其ノ建設費實費ヲ以テ前項ノ鐵道ヲ政府ニ買收シ又ハ之ヲ他ノ會社ニ賣渡サシムル爲メ相當ノ條件ヲ付スヘシ

豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法律案(丙)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ共ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豐岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道線中兵庫縣下和田山ヨリ湯島ニ至ル鐵道

政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ兵庫縣下和田山ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル豫定鐵道線路ノ全部ヲ敷設スルノ必要ヲ認ムルニ當リ共ノ會社ニ於テ之ガ敷設ヲ爲サ、ルトキハ其ノ建設費實費ヲ以テ前項ノ鐵道ヲ政府ニ買收

之ガ敷設ヲ爲サ、ルトキハ其ノ建設費實費ヲ以テ前項ノ鐵道ヲ政府ニ買收

シ又ハ之ヲ他ノ會社ニ賣渡サシムル爲メ相當ノ條件ヲ附スヘシ
豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法律案(丁)
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得
一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豐岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道線中鳥取縣下米子ヨリ島根縣下今市ニ至ル鐵道

政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ鳥取縣下米子ヨリ島根縣下濱田ニ至ル豫定鐵道線路ノ全部ヲ敷設スルノ必要ヲ認ムルニ當リ其ノ會社ニ於テ之カ敷設ヲ爲ササルトキハ其ノ建設費實費ヲ以テ前項ノ鐵道ヲ政府ニ買收シ又ハ之ヲ他ノ會社ニ賣渡サシムル爲メ相當ノ條件ヲ附スヘシ
豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法律案(戊)
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得
一 熊本縣下熊本ヨリ大分縣下大分ニ至ル鐵道線中熊本縣下熊本ヨリ大津ニ至ル鐵道

一 同鐵道線中大分縣下大分ヨリ竹田ニ至ル鐵道
政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ該豫定鐵道線路ノ全部ノ敷設貫通ヲ妨クルノ虞ナカラシメンカ爲メ相當ノ條件ヲ附スヘシ
豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法律案(己)
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得
一 香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道線中高知縣下山田野地ヨリ須崎ニ至ル鐵道
一 香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道ニ德島縣下德島ヨリ接續スル鐵道線中德島縣下德島ヨリ川田ニ至ル鐵道
政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ德島縣下德島ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道線路ノ全部ノ敷設貫通ヲ妨クルノ虞ナカラシメンカ爲メ相當ノ條件ヲ附スヘシ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 總テ一括シテゴザイマスルガ先ヅ順序ニ決ヲ採リマス、豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律案申號是ハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御異議ナイニ依ッテ然ラバ原案ニ決シマス、次ニ乙號
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ御異議ナシト認メマシテ原案ニ決シマス、次ニ丙號
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマス、丁號
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマス、戊號

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ニ決シマス、己號
〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 御異議ナシト認メマシテ、原案ニ決シマス
○伯爵大原重朝君 昨日再付託ニナリマシタ河川法案ノ會議ヲ開キマシテ御報告ニ及ンデ置キタイノデゴザイマスカラ議事日程ヲ變更シテ其法案ヲ議セラレシコトノ動議ヲ提出致シマス
〔武井守正君〕少シ分リ兼ネマシタノデゴザイマスガ河川法案ニ附イテ議事日程變更ノ動議デゴザイマスカト述ブ
左様デゴザイマス
○武井守正君 贊成致シマス
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 一寸御待チ下サイ河川法案ハ修正案ガ諸君ノ御手許ニ參ルヤウニ配付シテアリマス、併ナガラ今朝議事ヲ開イテ以來ノコトデゴザイマスカラ未ダ御覽ニナル間ハナイト思ヒマスニ依ッテ午後ニナッテ開イタ方ガ宜シイカト思ヒマス
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ午後ニ議ルコトニ致シマス、森林法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマ

〔有賀書記官朗讀〕
森林法案
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法五十四條ニ依リ及送付候也
明治二十九年三月二十三日
衆議院議長楠本正隆

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿
〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕
森林法
第一章 總則
第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ云フ
第二條 原野山岳其ノ他ノ土地ニシテ國土保安ノ爲造林ヲ要スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス
第二章 監督
第三條 公有林社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損スル虞アルトキハ農商務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
第四條 公有林社寺林ニ於テ濫伐ヲ爲ス者アルトキハ農商務大臣ハ其伐採ヲ停止シ及其ノ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得
第五條 公有林社寺林ノ所有者前條ニ依リ命セラレタル造林ヲ怠リテ實

貴族院議事速記録第四十二號
明治二十九年三月二十五日
讀會省略ノ動議
森林法案 第一讀會
五九五

施セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林地ハ伐採後五箇年以内ニ造林スヘシ
第七條 舊來ノ林地ニシテ無立木又ハ荒廢ニ屬スルモノハ農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得

第八條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタルモノハ造林シタル部分ニ限り翌年ヨリ十五箇年間地租ヲ免ス

第九條 森林地ヲ開墾シ又ハ其ノ地目ヲ變換セムトスル者ハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

燒畑切替畑ハ開墾ニ準ス
第十條 第十一條ニ列記セル森林ハ未ダ保安林ニ編入セサルモノト雖開墾スルコトヲ得ス

第三章 保安林
第十一條 左ニ列記シタル森林ハ保安林ニ編入スルコトヲ得

一 山頂、山腹、崖岸其ノ他ノ傾斜地ニシテ土砂壞崩流出ノ虞アル箇所
二 砂濱、砂阜其ノ他ノ砂地ニシテ飛砂ノ虞アル箇所
三 護岸敷立ニ堤防敷ニシテ出水氾濫ノ防備ヲ要スル箇所
四 風潮ノ侵害ヲ防衛スヘキ林相ヲ要スル箇所
五 額雪、墜石ノ危險ヲ防止スヘキ林樹ヲ要スル箇所
六 水源涵養ニ必要ナル箇所
七 水害ヲ避除スルニ必要ナル箇所
八 沿岸ノ魚附ニ必要ナル箇所
九 廻船ノ目標ニ必要ナル箇所
十 衛生ニ必要ナル箇所
十一 國郡ノ境界標示ニ必要ナル箇所
十二 社寺又ハ名所舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第十二條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタル場合ヲ除ク外之ヲ解除スルコトヲ得ス

第十三條 保安林ノ編入、解除ハ地方森林會ノ決議ヲ經テ農商務大臣之ヲ決定ス

第十四條 保安林ノ編入及解除ハ郡市町村長又ハ直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ之ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十五條 大林區署長又ハ土木監督署長ニ於テ保安林ノ編入、解除ヲ必要ト認ムルトキハ府縣知事ニ通知スヘシ

第十六條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入、解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ通知若ハ第十四條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

第十七條 保安林ノ編入、解除ニシテ一府縣以上ノ利害ニ關係ヲ有スルトキハ當該府縣知事協議ノ上各其ノ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ若協議調ハサルトキハ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第十八條 保安林ノ編入又ハ解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ其ノ開會三十日以前ニ於テ其ノ森林ノ所有者並ニ大林區署、土木監督

署ニ其ノ旨ヲ通知シ且府縣公報ヲ以テ告示シ二十日間所在市町村役場ニ揭示スヘシ

第十九條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付スヘキ森林ハ前條告示ノ日ヨリ處分決定ノ日マテ其ノ木竹ノ伐採、土石切芝ノ採取及樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 保安林ニ編入シ又ハ之ヲ解除スヘキ森林ノ所有者及其ノ編入、解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入、解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ通知又ハ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第二十一條 府縣知事ハ地方森林會ノ議決書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第二十二條 第十七條ノ場合ヲ除ク外地方森林會ニ於テ保安林ノ編入又ハ解除ヲ否決シタル場合ニ於テ府縣知事其ノ議決ヲ是認スルトキハ第十三條及前條ノ規程ニ依ラス直ニ其ノ旨ヲ告示シ且其ノ所有者ニ通達スヘシ

第二十三條 保安林ノ編入、解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ所有者ニ通達スヘシ

第二十四條 保安林ニ編入シ又ハ之ヲ解除スヘキ森林ノ所有者及其ノ編入、解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者ニシテ其ノ編入、解除ニ關シ農商務大臣ノ處分ニ不服アルトキハ第二十二條又ハ前條ノ告示若ハ通達ノ日ヨリ八十日以内ニ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二十五條 農商務大臣ハ保安林ニ對シ特ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十六條 保安林ニ於テハ皆伐、開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 保安林ニ於テハ農商務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 農商務大臣ハ保安林ニシテ特ニ禁伐ノ必要アルモノニ對シ其ノ伐木ヲ禁止スルコトヲ得

第二十九條 農商務大臣ハ保安林ニ砂防其ノ他保護ニ關スル工事ヲ施設スルコトヲ得

第三十條 保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ於テ第七十一條ノ處分ヲ受ケタルトキハ政府ニ於テ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十五條ニ依リ指定シタル營林及保護ノ方法ヲ實施セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第三十二條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムト欲スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得

第三十三條 保安林ニ編入セラレタル爲生シタル損害ニ對シテハ第二十八條ノ場合ヲ除ク外之ヲ補償セス

第三十四條 第三十二條ノ買上價格又ハ第三十三條ノ補償金額ニ付キ協議整

國有林ヲ除ク外出願者ヨリ之ヲ補償シ其ノ他ハ政府ニ於テ之ヲ補償ス

第三十四條 第三十二條ノ買上價格又ハ第三十三條ノ補償金額ニ付キ協議整

ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 保安林ニ對シテハ地租及公課ヲ免ス

第三十六條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十七條 從來ノ禁伐林、風致林、伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トス

第三十八條 保安林ノ調査及其ノ編入、解除並ニ地方森林會ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四章 林業組合

第二十九條 森林ノ所有者ニシテ其ノ經濟及保護ノ爲林業組合ヲ設立セムトスルトキハ農商務大臣定ムル所ノ準則ニ從ヒ規約ヲ定メ左ノ同意ヲ得

一 區域内森林反別半數以上ノ所有者

二 區域内森林所有者半數以上

第四十條 府縣知事林業組合ヲ必要ト認ムルトキハ地方森林會ノ決議ヲ經テ其ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第四十一條 林業組合ヲ設立シタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル森林ノ所有者ハ當然其ノ組合員トス但シ府縣知事ニ於テ其ノ必要ナシト認ムル者ハ地方森林會ノ決議ヲ經テ組合員トナササルコトヲ得

第四十二條 林業組合員其ノ組合ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ其ノ處分ヲ請フコトヲ得

第四十三條 本章ノ規程ニ依レル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十四條 林業組合ノ組織及設立手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

第五章 森林警察

第四十五條 官廳ノ許可又ハ所有者ノ承諾ヲ得シテ濫リニ森林内ニ牛馬車轎ヲ牽入レ若ハ鋸斧ヲ攜帶シテ立入ルコトヲ得ス

第四十六條 伐木造材ヲ業トスル者ハ其ノ使用スル切判及袖印ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

第四十七條 森林内ニ於テハ官廳ノ許可又ハ所有者ノ承諾ヲ得シテ造材ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 貯藏若ハ運搬中ノ木材又ハ伐木造材若ハ木材買買ヲ業トスル者ノ手帳簿器具等ニ對シ當該吏員ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十九條 官廳ノ許可ヲ得シテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第五十條 森林接續ノ原野ニ於テ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十一條 濫ニ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シ又ハ森林内ニ炬火ヲ攜帶スルコトヲ得ス

第五十二條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災若ハ虫害アルヲ發見シタル者ハ直ニ森林官吏警察官吏又ハ郡市町村吏ニ申告スヘシ

第五十三條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災若ハ虫害アルトキハ地元人民ハ其ノ消防若ハ驅除ニ從事スヘシ

第五十四條 森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏警察官吏又ハ郡市町村吏ニ申告スヘシ

第六章 罰則

第五十五條 森林ノ主副産物ニシテ未タ人工ヲ加ヘサルモノ又ハ既ニ人工ヲ加フルモ未タ森林外ニ搬出セサルモノヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トス

第五十六條 森林ノ主産物トハ樹幹、樹枝、樹根、竹及造材ヲ云ヒ副産物トハ樹皮、樹液、樹實、樹葉、落枝、小柴、雜草、菌草、筍、篠、土、石ヲ云フ

第五十七條 森林竊盜ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 森林竊盜ニシテ左ノ一項若ハ數項ニ該當スルトキハ贓額二倍以上ノ罰金又ハ十一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ二圓以上トシ且贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 販賣ノ目的ヲ以テ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

二 夜間ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 鋸又ハ斧ヲ使用シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

四 面部ヲ包ミ又ハ塗リテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

五 贓物搬出ノ爲牛馬、車、轎ヲ牽入レ又ハ出材ノ爲著シキ設備ヲ爲シタルトキ

六 母樹ヲ伐採シタルトキ

七 樟樹ヲ竊取シタルトキ

八 樹皮ヲ剝取シタルトキ

九 樹根ヲ採掘シタルトキ

十 十年未滿ノ潤葉樹又ハ二十年未滿ノ針葉樹ヲ伐採シタルトキ

十一 保安林ニ於テ土石切芝ヲ採取シタルトキ

第五十九條 森林竊盜ニシテ左ノ一項若ハ數項ニ該當スルトキハ贓額二倍以上ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ二圓以上トシ且贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 伐根ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二 贓物ヲ原料トシテ森林内又ハ其ノ近傍ニ於テ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三 贓物ヲ燃料トシテ森林内又ハ其ノ近傍ニ於テ鑛物ヲ精煉シ石炭煉化石、瓦其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船ヲ駛シテ犯場ニ赴キタルトキ

五 保存林又ハ開墾禁止ノ林地ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 契約上森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隱匿燒棄又ハ再ヒ竊取シタルトキ

第六十條 森林竊盜ハ未タ遂ケサルモノト雖既遂ト齊シク論ス

第六十一條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ

牙保ヲ爲シタル者ハ賍額ニ倍以下ノ罰金及十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ二圓以上トシ且賍額以下ニ下スコトヲ得ス
第六十二條 森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十三條 他人ノ林地ヲ侵墾シタル者ハ一段歩毎ニ二圓以上四圓以下ノ罰金ニ處ス但シ一段歩未滿ハ一段歩ニ計算ス
因テ林產物ヲ竊取燒燬又ハ傷害シタル者ハ各本條ニ依テ處斷ス
第六十四條 他人ノ所有ニ屬スル保存林又ハ開墾禁止ノ林地ヲ侵墾シタル者ハ前條罰金ノ外仍一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
第六十五條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス
第六十六條 森林官吏其ノ他林務ニ從事スル者森林又ハ林產物ノ賣却讓與交換貸與委託若ハ森林ノ境界調査ニ關シ自己又ハ他人ヲ利スル爲不正ノ所爲アリタルトキハ刑法第二百八十四條第二項ニ依テ處斷ス
森林ノ看守人其ノ他雇員ニシテ擔當ノ森林ニ關シ前項ノ所爲アル者亦同シ
第六十七條 堤柵ヲ開キ又ハ樅柵ヲ斷テ他人ノ木材ヲ放流シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十八條 他人ノ森林内ニ於テ左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
一 家屋其ノ他ノ建設物ヲ設ケタル者
二 酒池ヲ造リ又ハ通路若ハ水路ヲ開設シタル者
三 出材ノ設備ヲ爲シタル者
四 牛馬其ノ他ノ家畜ヲ放牧シタル者
第六十九條 森林ノ標識又ハ測點ヲ表シタル物件ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十條 樹木造材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十一條 保安林ヲ開墾シ又ハ第十條ニ違背シタル者ハ一段歩毎ニ二圓ノ罰金ニ處ス但シ一段歩未滿ハ一段歩ニ計算ス
第七十二條 保安林ニ於テ許可ヲ得シテ皆伐ヲ爲シ若ハ制限以外ノ伐木ヲ爲シ又ハ第二十八條ノ伐木禁止ノ命令ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十三條 保安林ニ於テ許可ヲ得シテ土石切芝ノ採取樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲シ又ハ第十九條第四十九條及第五十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十四條 第九條第四十五條及第四十七條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十五條 第四十八條及第五十一條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十六條 此ノ法律ニ於テ重禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ規定ヲ除ク外刑法ノ數罪俱發例ヲ用井ス

第七十七條 森林竊盜ノ賍物ハ竊取後人工ヲ加ヘタルモノト雖未タ使用セサルモノハ其ノ還給ヲ求ムルコトヲ得但シ賍物ニ加ヘタル勞費ハ償フヲ要セス
第七十八條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者罰金又ハ科料ヲ納ムルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ所爲ニ對シ民法上損害賠償ノ責ニ任スル者ハ其ノ罰金又ハ科料ヲ代納スヘキモノトス
第七十九條 森林ニ關スル犯罪ニシテ此ノ法律ニ明文ナク刑法其ノ他法律規則ニ罰例アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル
第八十條 御料局官吏ニシテ林務ニ從事スル者ハ司法警察權ヲ行フ場合ニ於テ林務官ニ準ス
第八十一條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ關シテハ第十一條ニ該當スルモノニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保存林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八十二條 竹林ハ第十一條ニ該當スルモノニ限リ此ノ法律ヲ適用ス
第八十三條 御料及國有森林原野及其ノ主副產物ニ對シ所有分收使用收益ノ權ヲ引戻サムト欲スル者ハ證據又ハ慣行ニ依リ其ノ引戻ヲ府縣知事ニ請求スルコトヲ得
第八十四條 前條ノ請求アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ調査シ左ノ各項ニ該當スルモノト認ムルトキハ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ
一 舊公簿上民有タルノ證アルモノ
二 高受納稅ノ證アルモノ
三 賣買質入書入質貸等自由進退ノ證アルモノ
四 官ヨリ下附ノ書ニ百姓山又ハ村持等ノ證アルモノ
五 官ヨリ拂下又ハ下附ノ證アルモノ
六 私費植付ノ證アルモノ
七 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ
八 從來ノ成蹟慣行上民有ト認ムヘキ證アルモノ
九 從來ノ成蹟慣行ニ於テ主副產物ヲ取得シタル證アルモノ
第八十五條 農商務大臣ハ前條ニ依リ其ノ具申ヲ正當ナリト認ムルトキハ民有ニ引戻スヘシ
第八十六條 農商務大臣ハ分收使用收益ノ權ヲ確認シタル森林原野ニシテ其ノ經濟又ハ保護ノ爲必要ト認ムルトキハ之ヲ部分林ト爲シ又ハ其ノ幾部ヲ分割シテ民有ト爲シ其ノ殘部ニ對スル分收使用收益ノ權ヲ解除スルコトヲ得
第八十七條 請求者ニシテ農商務大臣ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第八十八條 此ノ法律ニ依リ引戻ヲ請求スル者ハ本法施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ請求セサルトキハ其ノ權利ヲ失フモノトス
第八十九條 此ノ法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス
(政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル)
○政府委員(高橋琢也君) 森林法案ハ今日ニ於キマシテ最モ必要デアルト云

フコトハ今更政府委員カラ申上ゲイデモ諸君ノ疾ニ御承知ノコトゴザイマセウ、且ツ原案提出ノ理由書ニモ既ニ其要領ヲ略述シテゴザイマスルヲ別段ニ今日ハ提出ノ理由ヲ喋々申上ル必要モゴザイマセヌデ其點ハ略シマス、宜シク御協賛アラント望ミマス、併ナガラ衆議院ニ於キマシテハ多數ノ修正ガゴザイマスル、殊ニ二段ヲ加除ガゴザイマシテ此修正加除ニ對シマシテハ到底政府ニ於キマシテ同意ヲ表スルコトガ出來得ナイト云フ箇條ガ段々ゴザイマスル、テ願クハ原案ニ復活アラント希望致シマス、併シ詳細ノ事ハ何レ委員會デ申上ル積デゴザイマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 法案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○田中芳男君 特別委員ノ選舉ハ如何ダラウト思ヒマス、ウレヨリモ別ニ委員ハ意見ガアリマスカラ申上ゲタウゴザイマスガ此案ハ實ニ條數モ多ウゴザイマスルシ且ツ衆議院デ非常ナ澤山ナル所ノ修正ガアリマス而シテ此案ハ衆議院ニ廻リマシテカラ殆ド二箇月以上モ掛リマシテ此修正ガ出來タモノデゴザイマスカラ之ヲ今日委員ニ御付託ニナリマシテ所ガ今明日ノ間ニ之ヲ修正スルト云フコトハ到底ハ出來能ハヌ事デゴザイマス、然ラバ此案ハ特別委員ヲ御選ビノ上ハ繼續委員ヲ置カレマシテツレニ御付託ニナルヤウニ併シ其繼續委員ノ置方等ハドウ云フ風ニナリマスカ甚ダ不案内デゴザイマス、ドウ云フ風ニ置イタガ宜シイカ存ジマセヌガ是非共繼續委員デモ置イテ付託サレヌデハ如何ナル英明ナル御方ガ出マシタ所ガ到底今明日ノ中ニハ到底出來得ラレヌコト、思ヒマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 一寸田中君ニ伺ヒマスガ唯今ノ御説ハ特別委員ニ付シテサウシテ繼續委員ニ又付スルト云フヤウナ…少シ分リ兼ねマシタガ

○田中芳男君 本員ハ繼續委員ノ事ハ少シ規則ヲ能ウ存ジマセヌカラシテツレ故ニ是非繼續委員ヲ置キタイト云フ念慮ハアリマスガ其置方ガ分リマセヌカラツレ故ニ其意見ダケヲ述ベマシタ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) ツレハ繼續説ガ出マスレバ議事日程ノ變更ニナルノデゴザイマス

○子爵曾我祐準君 議事日程ノ變更デナケレバ繼續委員ノ説ガ出サレヌト云フコトデゴザイマスレバ本員ハ改メテ議事日程變更ヲ請求致シマス、今田中君ノ動議ヲ贊成スルタメニ此動議ヲ提出致シマス

○公爵二條基弘君 曾我君ニ贊成シマス

○子爵五條爲榮君 曾我子爵ニ贊成シマス

○船越衛君 此森林法ハ最モ大切デ實ニ國家ノ必要ノ案デゴザイマス、然ルニ之ヲ漫ニ議スル譯ニハ參リマセヌカラ田中君ニ贊成ヲ致シマシテ曾我君ノ議事日程變更ヲ贊成致シマス

○子爵津輕承敘君 贊成

○馬屋原彰君 曾我子爵ニ贊成

○村田保君 贊成

○飯淵七三郎君 本員等ハ國家ノタメニ平素是ハ熱望シテ居ルノデアリマシ

テ唯今モ船越君モ述べラレタ通是ハ千歳ノ後マデモ立派ナ法案ニ修正シテ置キタイト存ジマスカラ曾我君ノ議事日程ヲ變更スル方ニ贊成致シマス

○田中芳男君 贊成致シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 曾我子爵ヨリ議事日程變更ノ請求ガゴザイマス是ハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ議事日程變更ニナリマシテ其事ヲ議シマス

○田中芳男君 本員ハ再ビ述べマスル譯デゴザイマス

〔田中芳男君演壇ニ登ル〕

○田中芳男君 此森林法ハ實ハ國家重要ナ法律ト考ヘマスル、然ルニ政府カラ提出ニナリマシテ二箇月以上モ掛リマシテ衆議院デ斯様ナル修正ガ出來マシタガツレバ本日委員ニ付託ニナリマシテ此短日ノ間ニ之ヲ審査スルト云フコトニ至リマシテハ到底及ブベカラズト考ヘマスカラシテ是非共此案ハ繼續委員ニ付託サレテ十分ニ調査アラント希望致シマスルカラ此繼續委員ヲ置カレタイト云フ意見ヲ提出致シマス、皆様御贊成アラント希望致シマス

○武井守正君 贊成

○男爵榎取素彦君 贊成

○馬屋原彰君 唯今田中君ノ繼續委員ノ御説ハ至極御尤ト思ヒマスカラ、大ニ贊成致シマス

○子爵五條爲榮君 贊成

○飯淵七三郎君 贊成

○子爵板倉勝達君 贊成

○箕作麟祥君 私ハ贊成デモナイガ又反對ト云フ程デモナイ、サウ熱心ニ反對ハ致シマセヌガ繼續委員ヲ置クト云フコトハ尤モ此案ハ重大ノ法案ト言ヘバ重大ナ法案デゴザイマスガ是ハ先程政府委員モ言ハレタ通原案ヲ衆議院デハ大層修正シタノデアリマス、之ヲ繼續委員デ攷究ヲシテモ往ケヌコトハアリマスマイガ若シ特別委員デ此審査ガ出來ナカッタナラバ此儘ニ見合セテ又政府デモ衆議院ノ意向等ヲ願ミテ原案ヲ直シテ此次ノ會ニ御提出ニナツタ所ガ何ノサウ仕方ガナイコトモアルマイ、繼續委員ヲ造ツタ所ガ到底矢張此次ノ會ニヤルノデアリマスカラ政府ニ於テモ原案ト今此度ノ衆議院ノ修正案トヲ能ク比較シテサウシテ新ニ又ツレヨリ一層ナ完全ナ案モ出來ル、ツレデ又貴衆兩院デ特別委員デ又修正スル何モサウ、繼續委員ノ必要ハアルマイト思ヒマスカラ此繼續委員ヲ置クト云フコトハ反對デアリマス

○松本鼎君 本員モ箕作君ニ同感デアリマス、若シ特別委員デ出來ナカッタナラバ來年ニ廻スト云フヨリ仕方ガナイ繼續委員ヲ置イテ幾多ノ費用ヲ遣フコトヲ止メテ、此次ノ議會ニ之ヲ政府カラ出シタラ宜カラウト思ヒマス、即チ箕作君ノ説ト同感デアリマス

○男爵渡邊清君 本員モ箕作君ノ説ニ贊成、先ツ隨分酷イ衆議院ノ修正デマルデ性質ガ變ツテ來タヤウデアリマス、併ナガラツレハマア宜クナイ事モアラウカト思ヒマスガ到底是ハナカク容易ニ出來ナイ、兎モ角モ特別委員ニ

付シテ一回ナリ二回ナリヤテ見ニヤ分ラヌ、全ク箕作君ニ贊成致シマス
○子爵岡部長職君 本員モ全ク箕作君ノ御説ニ贊成ヲ致シマス唯今繼續委員ニ付スルノ必要ハナイト思ヒマス特別委員ニ付シテ其審査ガ此會期中ニ終ラナカッタナラバツレハ次ノ會期ニ十分ニ審査シテ宜カラウト考ヘマス

○子爵曾我祐準君 本員ハ田中君ノ繼續委員ト云フ動議ニ贊成ヲ致スモノデアリマス、唯今段々反對論者ガ出マシタガ反對論者ノ言ハレタノハ此案ガ握濱シニナル即チ議了シ終ラネバ又出スダラウ、ツレハ言ハヌデモ宜イ話、必要ガナカッタラ出サヌデアアラウガ此議會ニ決セヌデアアツテ、サウシテ其モノガ國家ノ必要ナモノナラバ次ノ議會ニ出ルコトハ言ハヌデモ宜イ話ダラウ、是ハ言ハザルカ如ク今ノハ言ハヌト同ジコトデアラウト思ヒマス、反對論者ハ自然ニサウナルヨリ外任方ガナイト言フガ是ハ入ラザル説法ト思ヒマス、併シ茲ニ政府案ニセヨ何ノ案ニセヨ繼續委員ヲ置クト云フコトハ議院法二十五條ニ見エテ居ルノハ如何ナモノデアアラウカ握濱シヨシタモノハ何時デモ次ノ議會ニ出スコトニナレバ繼續委員ト云フ法ハ元來置カナクツテモ宜イ譯

アル、偶、斯ウ云フ法ガアレバ斯ノ如キ森林法ノ如キ大層ナ修正ガアルノミナラズ政府委員ノ言ハレタノヲ聽ケバ是ハ修正ニ甚ダ不同意ヲシテ居ル條項モ多イ、衆議院ノ修正ニハ甚ダ同意シテ居ラヌト言ハレタノハ是ハドウシテモ諦リ協議モノニナルデアアラウ兩院協議ニナルト思フ、サウシテ見レバ是ハ逆モ委員ニ託シテ此會期ニ議了サレヌト云フコトハ分ツテ居ルト思ヒマス、故ニ私ハ田中君ノ説ヲ贊成致シマス

○箕作麟祥君 少シ質問致シマス、發議者ニ質問致シマスガ唯今特別委員ノ選舉ト云フ所ノ議事日程ニ移ツテ居ルノデアリマスガ繼續委員ヲ置クト云フ論者ハドウナサル積デアリマスカ特別委員ヲ置クトハ止メテ繼續委員ヲ置クノデアリマスカ、ドウシヤウト云フノデアリマスカ、特別委員繼續委員ニツノモノヲ一緒ニ置カウト云フノデアリマスカ

○子爵曾我祐準君 私人贊成シタカラサウ申シマスガ議事日程ハ變更ニナツテ居ルト云フコトヲ箕作君ハ御忘レデゴザイマスマイカ
○箕作麟祥君 忘レテハ居ラス、變更ニナツテ居リマスガ特別委員ハ置カナイト云フコトニナルノデアリマスカ

○子爵曾我祐準君 ツレハ議長ニ御尋下サイマセ、議長ノ命令ニ依ツテ……
○箕作麟祥君 發議者ハドウナサル積デスカ
○子爵曾我祐準君 議長ノ御指圖ニ依ツテシマス、ツレガ惡ケレバ議長ニ御尋下……

○子爵堀田正義君 本員モ矢張繼續委員ヲ置クトニハ及バヌト考ヘマス免ニ角本員ハ特別委員ヲ選舉シテ一通リノ審査ヲ付託シタイト考ヘマス、其上テ特別委員カラ尙ホ繼續委員ノ請求ガアツタラ然ル後繼續委員ヲ置クトシテモ遅クナイコト、私ハ考ヘマス、故ニ繼續委員説ニハ反對ヲ致シマス

○小畑美稻君 本員モ繼續委員ノ説ヲ贊成致シマス
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 繼續委員ト云フコトニナレバ勿論御承知デモアリマセウガ議院法ニアル通若シ繼續委員ノ説ガ成立テバ政府ノ同意ヲ經ネバナラヌト云フ事ニナリマス、ツレデ田中君ヨリ繼續委員ヲ置クト云フ説ガ出マシテ段々贊成ガゴザイマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 少數デゴザイマス
〔異議ヲ申立マス〕ト呼フ者アリ
〔ヨシ玉ヘ〕ト呼フ者アリ

特別委員ノ選舉ニ移ツテ居ルノデアリマス
○松本鼎君 特別委員ハ十五名トシテ議長ノ指名ニ任カス
○子爵堀田正義君 松本君ノ説ニ贊成
○子爵秋田映季君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 特別委員ハ何名デスカ
○松本鼎君 十五名
○男爵渡邊清君 本員ハ定數デ宜カラウト思ヒマスガ松本君ニ御相談シマスガサウ澤山有ツテモ仕方ガナイ定數デ宜カラウト思フ

○松本鼎君 重キヲ置イタマケデス
○男爵渡邊清君 本員ハ定數ノ委員ヲ置キタイ
○男爵西五辻文仲君 渡邊君ニ贊成
○子爵堀田正義君 唯今松本君ニ贊成シマシタガ松本君ノハ委員數ガ能ク本員ニ聽取り得マセメデシタガ十五名ナラバ更ニ松本君ニ贊成ヲ取消シテ渡邊君ノ説ニ贊成シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 選定ハドウナサルノデスカ
○男爵渡邊清君 選定ハ議長ニ御任カセ申シマス
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 渡邊男爵ノ御説ニハ御異議ガナイ譯デゴザイマスナ渡邊男爵ノ選定ヲ議長ニ託スル此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ輸入羊毛海關稅免除法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(侯爵黑田長成君演壇ニ登ル)
○侯爵黑田長成君 本案委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ外國ヨリ輸入致ス所ノ羊毛ニ就イテ海關稅ヲ免除スルト云フ法案デアリマシテ段々工業ノ發達ト共ニ毛織物ノ製造ヲ獎勵致スニ附キマシテハドウシテモ其原料タル所ノ羊毛ノ輸入稅ハ免除致サネバナラヌコト、考ヘマス、ツレデ委員會ニ於キマシテモ原案ノ通デ宜シイト云フコトニ決シマシタ譯デゴザイマス、ツレデ二十八年ノ稅額ヲ調ベテ見マス、ト五万六千圓餘デアリマス、二十九年ノ其豫定額ガ五万千圓餘デアリマス、ツレデ歲入ノ缺乏モ其位ノ少額ノコトデアリマスカラ政府ニ於テモ此案ニ對シテハ別段不同意ハ唱ヘヌト云フコトデアリマス、外ニハ此事ニ就イテ別ニ御報告致ス程ノ事ハゴザイマセヌ、報告ハ是ニ止メテ置キマス

○平田東助君 委員長ニ一寸御尋致シマスガ此輸入致シマス羊毛ノ稅ヲ免除スルノハツレデ宜シウゴザイマスガ内國デ出來マス羊毛ノ高ト云フモノハ唯今幾許カ有ルノデゴザイマス、或ハ其高ト云フモノハドウシテ位デゴザイマスカ定メテ御調ベニナツタデゴザイマセウガ、ツレヲ御尋致シマス

○侯爵黒田長成君 其事ハ政府委員ニモ質問致シマシタ所ガ統計ニ掲ゲル程ノ多額ナモノデアリト云フ話デアリマス、極ク僅少ナモノデアルト云フ話デアリマス

○平田東助君 ヲレデハ高ハ御分リニナラヌノデアリマス、ドノ位出ルカ統計ガ無イノデアリマス

○侯爵黒田長成君 左様デゴザイマス

○平田東助君 詰リ統計ガ無イカラ分ラヌト仰シタルノデスカ、或ハ統計ガ有ツテモ極ク僅少デ掲ゲル程ノモノデアリト云フデアリマス、輸入税ヲ免除シタカラト云ツテ内地ニ於テ生産スル所ノ羊毛ガ競争上ノタメニ壓制サレルト云フヤウナ患ハナイト仰シタルノデスカ、ソコガ承リタイノデス

○侯爵黒田長成君 内國デ製造シマス所ノ高ハ統計ニ掲ゲル程ノ多額ナモノデアリト云フ先刻モ申述ベマシタ通税額ハ一箇年僅カ五万圓位ノコトデアリマス、併ナガラ先刻モ申述ベマシタ通税額ハ一箇年僅カ五万圓位ノコトデアリマス、併ナガラ先刻モ申述ベマシタ通税額ハ一箇年僅カ五万圓位ノコトデアリマス、併ナガラ先刻モ申述ベマシタ通税額ハ一箇年僅カ五万圓位ノコトデアリマス

○平田東助君 税額ノ事ハ御尋シタノデアリ、税額ハ固ヨリ少イト云フコトハ承知シテ居リマス、私ノ御尋シタノハ内地ニ於テ産出スルモノハ其税ヲ免ズルガタメニ競争ノタメニ内地ニ於テ産出スル羊毛ガ將來大ニ損害ヲ受クル患ハナイカト云フコトヲ御尋シタノデアリマス、ソレガ御分リニナラナケレバ致方ハアリマセヌ

○侯爵黒田長成君 ヲレハ段々是カラ先キハ工業ノ發達ヲ必要トスル場合デアリマス、スカラスノ如キ税ヲ免除ヲ致シテ置ク方ガ宜カラウト云フコトニ決議致シタノデアリマス

○前田正名君 此事ニ就キマシテハ一人モ御不同意ノ御方有ルトハ認メマセヌ、此羊毛ノ織物ハ年々増加シテ來マシテ既ニ一千五萬圓程實際輸入シテ居ルノデアリマス、此原料タル僅ニ三三萬圓ノモノデ其他ノ金高ニナリマスモノハ皆製造ノ工賃デゴザイマス、故ニ今一千有餘萬ノ敵ヲ防ギマスノニハ此工業ヲ御獎勵ニナルコト最モ日本ノ必要ト認メマス、又我國御一新後ヲ養フ獎勵ハマダノナカク遠イノデ本日ノ必要ハ此羊毛ヲ以テ製造ノ方ニ御獎勵ナルダ即チ本日ノ大敵ヲ防グノ必要ト認メマス、カラ願クハ御獎勵ナルタメニ滿場一致ヲ以テ速ニ御決シテランコトヲ希望スル者デゴザイマス

○田中芳男君 羊毛ノ我國ニ輸入致シマシテ此毛織物並ニ毛絲ノ機械杯ヲ以テ製造致シマス、事業ハ次第ニ發達致シマシタコトハ此兩三年ノ事實ニ徴シテ著シク思ヒマス、從ツテ此需用スル羊毛モ餘程巨額ヲ要シマス、故ニ是非トモ外國カラ輸入セナクテハナラヌト云フコトハ本員等モ考ヘテ居リマス、併ナガラ内地ニ於テ羊ヲ牧スルコトヲ獎勵致シマシタ事蹟ニ就イテモ一言御參考ノタメニ申シテ置キタイト考ヘマス、從前我國ニ羊ト云フモノハ無イノデアリト云フ輸入レテ飼ツタコトモ屢、ゴザイマスガ好結果ヲ奏シマセナラシメテ明治七八年頃デアリマシタカ羊ヲ飼フコトヲ計畫致シマシテ下總ニ牧羊場ト云フモノヲ設ケマシテ羊ヲ飼ヒマシテ非常ナ金額ヲ費シテ見マシタ、

コレ故ニ此場所カラ傳習ヲ受ケタ者ガ諸方ヘ散リマシテ我國ニ段々牧羊ノ業ガ起リマシタガ何分ニモ不十分ナ事ガ多クシテ到底望ヲ達スルコトガ出來ズ今日マデ養ヒ傳ヘテ居ルモノガ誠ニ僅ナ數デアリマス、スカラ所詮後來我國ニ於テ是等ヲ以テ到底毛織物ノ需用ヲ充タヌト云フコトハムツカシイト云フコトハ本員モ能ク分リマシタ、併ナガラ此羊ヲ飼ヒマスル者ヲ獎勵スルタメニ明治十六年デゴザイマシタカ羊ヲ養フ者カラ毛ヲ買上ゲルノニ差金ト云フモノヲ渡スコトニナツテ居マシタ、ソレハ外國カラ這入ツテ來ルモノ價ト云フ事ガアツテ五六年間モ其方法ガ傳テ居マシタ、併ナガラ明治二十年頃ニナリマシテカラテ遺ルト云フコトデアリマシタ、併ナガラ明治二十年頃ニナリマシテカラ其方法ヲ廢シマシタカラ羊ヲ飼フ者ハ物好キデ飼ツテ居ル者ダケト云フ景況ニ陥リマシタ、ソレデ今日羊ヲ我國ニ飼フト云フコトハ今日ハ最早差金モ與ヘズ自然ニ任セタ以上ハ所詮我國ノ羊ヲ以テ毛布ヲ織立テルト云フコトハ出來ヌト云フコトハ分ツテ居リマス、併ナガラ外國カラ原料ヲ取リマスルモノハ悉ク輸入税ヲ免除スルト云フ事ハ本員等不同意ノ事モゴザイマスガ羊毛ダケハ我國ノモノヲ以テ需用ニ應ズルト云フ事ハ到底出來マセヌカラ此案ヲ贊成致シマス

○山田卓介君 別ニ御意見モナイヤウデゴザイマス、カラ讀會省略ノ動議ヲ提出致シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

○侯爵黒田長成君 贊成

○男爵渡邊清君 贊成

○佐藤清右衛門君 贊成

○兒玉淳一郎君 贊成

○前田正名君 贊成

○田中芳男君 贊成

○野崎武吉郎君 贊成

○子爵由利公正君 贊成

○子爵一柳末徳君 贊成

○武井守正君 贊成

○男爵金子有卿君 贊成

○子爵稻垣太祥君 贊成

○平山成信君 贊成

○林宗右衛門君 贊成

○子爵秋田映季君 贊成

○子爵堀田正義君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 山田君ノ讀會省略ノ動議ニ定規ノ贊成ガゴザイマス、第三讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 三分ノ二以上ト認メマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

外國ヨリ輸入スル羊毛ハ明治二十九年四月一日ヨリ海關稅ヲ免除ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、此所ニ於テ休憩致サウト存ジマスガ其以前ニ一寸申シテ置キマスガ午後ニハ此臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案、ツレカラ明治二十七年年度ノ豫備費支出外三件ノ承諾ヲ求ムルノ件ニ是ダケハ第一讀會ヲ議事日程ヲ變ジテ午後直ニ開クコトニ致シタイト存ジマス、ツレカラ其次ハ先刻大原伯爵カラモ請求ガゴザイマシタ河川法案ノ第一讀會ノ續ヲ開クコトニ致シタイト存ジマス、別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ共事ニ致シマス、一應休憩ヲ致シマス

午後零時三十分休憩

午後一時四十分開議

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 今朝本席へ御委託ニナリマシタル森林法案特別委員ヲ選定ニ及ビマシタニ依ッテ書記官長ヲシテ朗讀致サセマス

(中根書記官長期讀)

森林法案特別委員

伯爵廣橋 賢光君

子爵曾我 祐準君

子爵平松 時厚君

名村 泰藏君

船越 衛君

前田 正名君

富田 鐵之助君

武井 守正君

神戶 政次君

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 今朝申述ベテ置キマシタ通議事日程變更ニ御異議ガナイト云フコトデゴザイマスルデ臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案 右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治二十九年三月二十四日

衆議院議長楠本正隆

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案

第一條

臺灣總督府條例施行前臺灣總督府所屬ノ雇員ニシテ官吏ノ職務ニ從事シタル者ハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ關係ニ於テハ文官判任以上ノ者ト同視シテ處分ス但同雇員タリシ年月數ニ對シテハ官吏恩給法第十二條第二項ノ一及官吏遺族扶助法第二條ヲ適用セス

第二條 現ニ恩給ヲ受クル者ニシテ第一條ニ該當スルトキハ同雇員トシテ

然ラバ共事ニ決シマス

勤務シタル年月數ハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ニ定ムル在官年數ニ通算セス又同雇員トシテ受ケタル俸給額ノ爲ニ既定ノ恩給額ニ異動ヲ及ボサス

前項ニ掲クル者官吏恩給法第三條ニ該當スル場合ニハ雇員俸給額ニ依リ算出シタル增加恩給ヲ給ス

第三條 現ニ恩給ヲ受クル者ニシテ第一條ニ掲クル雇員タル者官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スルトキハ雇員ノ俸給額ニ依リ算出シタル扶助料ヲ其ノ遺族ニ給ス

(政府委員水野遵君演壇ニ登ル)

○政府委員(水野遵君) 唯今朝讀ニナリマシタ臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法案ノ理由ヲ一言申上ゲマスルガ、是ハ理由書ニモゴザイマスル通昨年六月彼地へ臺灣總督ガ赴キマスル時ニ幾多ノ民政局員ヲ引連レ參ルコトガ必要デゴザイマシタ、然レドモ其當時ハ臺灣ト云フモノハ其主權ガ移動シテ居リマシタガマダ實物ノ臺灣島ヲ受取ッテ居リマセヌ故ニ臺灣總督府ノ官制ト云フモノヲ發布スル場合ニ至リマセナシタ、故ニ已ムヲ得ズ内地ノ中央官制及地方官制ニ居ル所ノ人ヲ一時非職若クハ免職ヲ致サセマシテ陸軍省雇員ト致シテ連レテ參ッテツレ、ノ用ヲ致サセ置キマシタ、其時ノ考ハ此ノ如ク軍サモ長引クコトモナク平和ニ授受ヲ致シテ引渡ガ濟ミマスルト直ニ官制ヲ發布シテツレ、本官ニ任用スル積デアリマシタ、陸軍省雇員トシテ置クノハ僅ノ間ノ見込デアリマシタ、所ガ豫期ト違ヒマシテ御承知ノ通今日マデモ未ダ官制發布ノ運ビニ至リマセヌノデゴザイマス、其間ニ公務ニ從事致シマシテ激彈ニ斃レ或ハ流行病ニ罹リマシテ病死ヲ致シマシタ等ノ者ガ随分ゴザリマスルガ、是ハ唯其人ガ雇員ト申ス名義ノタメニ此官吏恩給法ニ依ッテ處分セラル、コトガ出來マセヌ、デ共仕事ハ内地デ申ス縣知事若クハ縣ノ書記官其下ノ鐵道技手電信ノ技手等ヲ致シテ居ル者デゴザイマスルガ、政府ノ都合ニ依ッテ一時雇員ニ致シタ者ガ官制ノ無イ結果トシテ恩給ノ恩典ニ潤ハヌト云フノハ誠ニ氣ノ毒デゴザイマスルニ依リ已ムヲ得ズ此法律ヲ提出致シマシタ、官制發布ニナリマスレバ此法律ハ既ニ不用ニナリマスルガ何分法文ノ無イタメニ今日マデ不幸ニ罹ッタ者ヲ救フコトガ出來マセヌ故ニ之ヲ提出致シマシタノデゴザリマス、衆議院モ直ニ本案ノ通ニ決定ニナリマシタ且ツ餘日モゴザリマセヌ故ニ直ニ御決定アラントトヲ希望致シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○子爵小笠原壽長君 此特別委員ノ選舉ハ定規ノ通九名ニ致シマシテ議長ノ御指名ヲ煩シタイ

○子爵堤功長君 贊成

○角田林兵衛君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議長ノ選定ニ任スト云フ說ニ別ニ御異議ハゴザ

リマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

然ラバ共事ニ決シマス

○伯爵大原重朝君 マダ豫算ノ問題ガゴザイマスルガ議題ハドコヘ移ルノデ
ゴザイマス、午前ノ會議ノ引續キニナリマスデゴザイマス、マダ
外ニ日程ニ載ッテ居ルモノガゴザイマス

○議長(侯爵須賀茂昭君) 午前ニ申シ置イタ通ニ豫備金支出ノ件其他三件
ゴザイマス、承諾ヲ求ムルノ件ガゴザイマス、即チ明治二十七年豫備金支
出ノ件、明治二十七年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
明治二十七年特別會計東京大阪兩砲兵工廠豫備費支出ノ件、明治二十七年
度各特別會計豫算超過及豫算外支出ノ件、即チ是ハ總テ承諾ヲ求ムルノ件デ
ゴザイマス、是ハ一括シテ第一讀會ヲ開キマス

○議長(侯爵須賀茂昭君) 第一讀會ト申シタノハ誤デゴザイマス會議デゴ
ザイマス通牒文ノミヨ期讀致サセマス

〔有賀書記官朗讀〕

- 一明治二十七年豫備金支出ノ件
 - 一明治二十七年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件
 - 一明治二十七年特別會計東京大阪兩砲兵工廠豫備費支出ノ件
 - 一明治二十七年度各特別會計豫算超過及豫算外支出ノ件
- 右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送
付候也
- 明治二十九年三月二十四日

衆議院議長楠本正隆

貴族院議長侯爵須賀茂昭殿

- 〔左案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ載録ス〕
 - 一明治二十七年豫備金支出ノ件
 - 一明治二十七年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件
 - 一明治二十七年特別會計東京大阪兩砲兵工廠豫備費支出ノ件
 - 一明治二十七年度各特別會計豫算超過及豫算外支出ノ件
- 右憲法第六十四條第二項ニ依リ承諾ヲ求ムル爲
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
- 明治二十九年二月二十六日

内閣總理大臣	侯爵伊藤	博文
海軍大臣	侯爵西郷	從道
陸軍大臣	侯爵大山	巖
農商務大臣	子爵榎本	武揚
大藏大臣	子爵渡邊	國武
司法大臣兼 內務大臣	芳川	顯正
外務大臣臨時代理		
文部大臣	侯爵西園寺公望	
文部大臣	侯爵西園寺公望	
遞信大臣	白根	專一

○議長(侯爵須賀茂昭君) 此四ツノ案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉
ニ移リマス

○子爵曾我祐準君 是ハ特別委員ニ付託ニナルモノデゴザイマス豫算ノ形
式ニナッテ居リマスカラ豫算委員ニ掛ケルノデハゴザイマセヌカ
○議長(侯爵須賀茂昭君) 豫算委員デハゴザイマセヌ、承諾ヲ求ムルノ件
デゴザイマス

○男爵中川與長君 此特別委員ハ定規ノ九名ト致シ其選定ハ議長ニ御委託致
シタイト思ヒマス

○男爵西五辻文仲君 異議ナシ
○男爵玉松眞幸君 贊成
○子爵由利公正君 贊成

○議長(侯爵須賀茂昭君) 中川男爵ヨリ委員ノ選定ヲ議長ニ託スルト云フ
是ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

然ラバ其事ニ決シマス
○伯爵大原重朝君 午前ニ申述ベテ置キマシタガ昨日再付託ニナリマシタ河
川法案ノ調査ガ出來マシテ報告致シテ置キマシタカラ議事日程ヲ變更シテ此
場合ニ議セラレシコトヲ希望致シマス

○議長(侯爵須賀茂昭君) 既ニ今朝申置キマシテ議事日程變更ニナッテ居
ルノデゴザイマス是ヨリ即チ河川法案ニ移リマス、河川法案第一讀會前會ノ
續ヲ開キマス

〔伯爵大原重朝君演壇ニ登ル〕

○伯爵大原重朝君 昨日再付託ニナリマシテ尙ホ委員會ヲ昨日議會ノ半バヨ
リシテ八時半マデ掛リマシテ再讀ヲ致シマシテ尙ホ殘リマシタ所ヲ今朝審議
致シマシテ決シテニナリマシタ事ヲ御報告致シマス、大體ニ就キマシテハ別ニ
昨日申上ゲマシタル通デゴザイマシテ何モ議スル事ハゴザイマセヌデアリマ
シタ、ソレカラ致シテ逐條ニ掛リマシテ審議致シマシタヤウナコトデ其審議ノ
箇條ハ御手許ニ廻ハッテ居リマス、存シマス、條項中ノ四十二條デゴザイマ
ス〔流水ヲ停滯シ若クハ引用スル爲ノ工作物施設其ノ他〕ト云フ所カラ以下ノ
所デ事ニナリマス、ト云フ所ガゴザイマス、流水若クハ敷地ヲ使用スルト
シテ引ッ括メテ河川ヲ使用スルト云フ事ニ改正シマシタヤウナ色々懸念ガゴザイマ
シテ出マシテ多數ヲ以テ修正ニナリマシタヤウナ譯テ、ソレカラ第六章ノ「争
議」ノ件ガ五十九條ニ出テ居リマス、其爭議ト云フ事ハ昨日モ既ニ議場ニ於テ
段々筆作君カラモ御論ノ出テ居リマシタヤウナコトデ全クソレ等ノ邊ヲ以テ
マシテ此一條ヲ削除スルト云フ修正案ガ出マシテゴザイマシテ多數ヲ以テチ
シテ削除スルト云フ事ニナリマシテゴザイマス、ソレカラ順次ニ此各條ガ下
テ參リトラス、ソレカラ六十一條ニ「主務大臣ノ處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起
スルコトヲ得ス」ト此箇條ニ就キマシテモ昨日御論ニナリマシタヤウナコトデ
主務大臣ノ處分ニ對シテ行政訴訟ヲ起サレルト云フ事デナケレバ行カヌト云
フコトデアリマシタニ附キマシテ六十一條ノ但書ニ「但主務大臣若ハ」ト云
フ六字ヲ入レマス事ニナリマシテゴザイマス、左様致シマスレバ主務大臣ニ
對シテモ處分ガ惡クレバ訴訟ガ出來ルト云フ事ニナリマシタ、就キマシテ
ハ二項ノ「主務大臣ノ處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス」ト云フ

ノガ削除ニナリマシテゴザイマス、其他別ニ修正ハゴザイマセヌデ前々御報告申上ゲマシタヤウナ次第デゴザイマス、就キマシテハ爭議ト云フ事ガ消エマシタカラ目錄ノ爭議ト云フコトモ消エマス、又第六章ト云フ所ノ下ノ爭議ト云フ文字モ自ラ消エマシタヤウナ都合デゴザイマス、大略サウ云フコト多敷ヲ以テ決了致シマシタ、此法案ハ昨日モ皆サンノ御開及ビノ通是非至急ヲ要スル議案デゴザイマスカラ今日報告スルト云フコトニナリマシタノデ幸ニ早ク審査決了致シマシタニ依ッテ御報告申上ゲテ會議ニ上リマシタコトデゴザイマスカラ成ルベク御贊同ヲ得テ速ニ決了アラシムコトヲ望ミマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○伯爵大原重朝君 直ニ議事日程ヲ變更シテ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

○村田保君 贊成

○男爵渡邊清君 贊成

○武井守正君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 大原伯爵ノ議事日程變更ノ事ニハ贊成ガゴザイマスガ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開キマス、修正ノ箇條モ格別澤山デモナイノデゴザイマスカラ全部ヲ問題ニ供シマシテ修正ニ就イテ決ヲ採ルコトニ致シマス、若シ御異議ガアレバ其節ニ……

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○箕作麟祥君 一寸諸君ニ申上ゲテ置キマスガ此案ハ御承知ノ通昨日中大夫質問ヲ致シタ結果再付託ヲ致シタ所ガ幸ヒ諸君ノ大多數ノ贊成ヲ得テ再付託ニナリマシテ然ル後唯今委員長カラ御報告ノ通昨日カラ今朝ニ掛ケテ審査ヲシ是ダケノ箇條ヲ修正シタ譯デアリマス、實ハ本員杯モモト餘計ノ希望ガアッタノデゴザイマスガ、サウドウモイツマデモ此短イ會期ニ際シテ修正説ヲ提出スル譯ニモイキマセヌ、實ハ幾ラカ遺憾ハアリマスケレドモ此五十九條ヲ削リ或ハ六十二條ノ二項ヲ削リマスト云フト幾分カ人民ノ權利ヲ伸張スル事ニナリマスカラシテ先ヅ此位我慢ヲシテ置カケレバナルマイト實ハ見切ッテ仕舞ッタノデアリマス、ドウゾ諸君ニ於テモ責テ此位ノ修正デ御贊成下サイマシテ此委員ノ修正デモ不同意ダト云フコトニナリマシテハ折角昨日大多數再付託ニナリマシタ御趣意ニモ背クコトデゴザイマスカラ此委員ノ修正ダケハ責テ滿場ノ一致ヲ以テ可決ニナランコトヲ希望スル次第デアリマス

○田中芳男君 唯今再付託修正委員ノ箕作君カラ委シク提出ノ順序ノコトヲ承リマシタガ本員ハ此四十二條ニ於キマシテハ大ニ感フテ居リマシタ所ガ「流水若クハ」ト云フコトヲ河川ト云フコトニ御修正ニナリマシタノハ至極本

員杯ハ喜バシイ事ト思ヒマス、如何トナレバ原案ノ如キ法文デアリマシテハ百姓ガ悉ク不便ヲ感ズル事ガ起リマスカラ是ハ甚ダドウモ一般ノ物産ニ影響ヲ及スコト、考ヘテ居リマシタ所ガ此度河川ト云フ字ニ御修正ニナリマシタ所ガ至極宜イ事ト思フテ居リマスカラ本員ハ最モ贊成ヲ致シマス、何卒御贊同ノ諸君ハ此御修正ノ宜シキコトヲ御贊成アラシムコトヲ希望致シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御議議ガ無ケレバ唯今ハ全部ガ問題ニ爲ッテ居リマス、委員ノ修正ニ就イテ決ヲ採ル積デゴザイマス、委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○伯爵大原重朝君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

○村田保君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ第三讀會ヲ直ニ開クコトニ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ議事日程變更ニナリマス、直ニ第三讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

河川法

第一章 總則

第一條 河川ノ管理

第二條 河川ノ使用ニ關スル制限並ニ警察

第三條 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並ニ河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第四條 監督及強制手續

第五條 訴訟及訴訟

第六條 附則

河川法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條 河川並ニ其ノ敷地若クハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若クハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從テ堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ增進シ又

ハ公害ヲ除却若クハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ヲ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若クハ河川ヨリ分岐スル水流若クハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但他府縣ノ利益ヲ保全スル爲メ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若クハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若クハ一部ニ付キ大體ニ涉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ヲ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲メ特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝ニ其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限竝ニ警察

第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若クハ除却セントスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
一 流水ヲ停滯セシメ若クハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物
三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若クハ河川ヲ横過シ若クハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若クハ流水ヲ占用セントスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若クハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若クハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若クハ其ノ效力ヲ停止シ若クハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若クハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若クハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若クハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ
四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ
六 公益ノ爲メ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若クハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若クハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處

分ヲナサシムルコトヲ得
地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲メ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並ニ河川ノ管理ヨリ生ズル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス
主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若クハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若クハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニアラス工事業用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並ニ不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若クハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若クハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事業ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若クハ管理者タル私人ノ負擔トス但命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若クハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若クハ他府縣内ノ公共團體

ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若クハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生ズルモノナルトキハ其ノ府縣若クハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若クハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若クハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若クハ費用ノ爲メ寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若クハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若クハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若クハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立チ入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニアラサル沿岸若クハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲メ必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若クハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若クハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若クハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若クハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若クハ引用スル爲メノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若クハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若クハ占用者ヨリ使用料若クハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

第四十三條 地方行政廳ハ私人若クハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲メ新築若クハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但共ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若クハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若クハ土砂流出ヲ豫防スル爲メ又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲メ必要ナル設備ノ全部若クハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若クハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若クハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若クハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若クハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若クハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若クハ輕減スル爲メ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若クハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新河川トナルヘキ區域若クハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若クハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝ニ此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若クハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲メ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若クハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ履行セス若クハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見

込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若クハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若クハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若クハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以內ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若クハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若クハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若クハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若クハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若クハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若クハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若クハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若クハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若クハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコト

ヲ得但主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若クハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律命令若クハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタルトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若クハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若クハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七節 附則 第六十四條 此ノ法律ノ全部若クハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製ス

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニアラス

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第二讀會ノ決議案即チ原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、本案ハ確定セラレマシタ、次ニ鐵道敷設法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(子爵會我祐準君演壇ニ登ル)

○子爵會我祐準君 諸君餘日ガ無イト云フノデ皆餘程御氣ガ急イデ居リマスカラ成タケ短ク報告ヲ致シタクハ考ヘマスケレドモ此問題タルヤ隨分大問題デゴザイマシテ金ノ數デ云ヘバ一億三千万圓ツレカラ關係デ云ヘバ五畿七道殆ド免レテ居ル所ハ無イト云フ譯、且ツ衆議院ノ多數ヲ以テ議決シテコチラニ送ツタ案デアリマスニ依ッテ少シク此案ニ就イテハ説明ノ時間ノ掛リマ

スルカラ此段ハ豫メ御斷リヲ申上ゲテ置キマス、此衆議院提出ノ鐵道敷設法中改正法律案ト云フモノハ嘗テ議事日程ニ一週上リマシテサウシテ削除サレマシタ案デ再ビ議事日程ニ上ル時分議長ヨリ御相談ガアツタ案デ此案ハ初メカラ餘リ繰起ノ良イ案デハナイノデゴザイマス、我々委員ニ付託サレマシテヨリ去ル二十一日ニ委員會ヲ開キマシテ調査ノ結果ハ御報道申シタ通否決

スベシト云フ事ニナリマシタ、一人ノ反對者モ無ク否決スベシト云フ事ニナリマシタ、抑、此案ト申シマスモノハ四國ノ線ニ於テ鐵道線路ノ二線ヲ豫定線ニ加ヘ、サウシテ第一期線中ニ四國、九州、山陰、北陸、羽越、奥羽、總武、中央等ニ於テ各一線路ツツ増加シヤウ即チ第一期ニ附加ヘヤウト云フ案デアリマス、其延長ノ里數ハドレ位アルカト云フトハ六百七十哩モアリマス、サウシテツレニ費ス所ノ豫定ノ金ハ幾ラカト云フト六千三百萬圓ト云フヤウナ隨分宏大ナル金高デアリマス、サウシテツレヲ敷設スル期限ハ如何カト云フト期定ハ十二箇年ノ上ニ僅ニ三箇年ヲ加ヘル即チ十五箇年ト改ムルツレ故ニ三箇年ノ増加デ今ダケノ事業ヲシヤウト云フ隨分大袈裟ナ案デアリマス、ツレ故ニ第九條即チ鐵道敷設法ノ第九條ノ改正ノ如キモ期定ノ六千圓トアル所デハ大ニ改メナクチャナラヌ、尤モ先ニ兩院ノ協議會ニ掛ツタアノ時分ノ案ニ既ニ六千圓ト云フモノガ六千七百圓或ハ八百萬圓ト云フ斯ウ云フコトニ増加シテ居リマスガ是ハ衆議院提出ノ案デアリマスカラ己レノ出シタ所ノ理由ニ依ッテ六千七百圓、アレニアルモノトツレカラツレニ唯今アル所ノ新線ノ増加ノタメニ更ニ六千七百圓ト云フモノヲ加ヘマス、此新線ノタメニ……六千七百圓デハナカッタハ六千二百萬圓ヲ加ヘマシタ、衆議院ガ既定ト認メル所ノ六千七百圓ト云フモノニ更ニ六千三百萬圓ヲ加ヘマシテ合計一億三千万圓トシタ斯ウ云フ大袈裟ナ案デアリマス、此案ハ衆議院ノ案デアリマスニ依ッテ其理由ハ委員會ニ於テ質問スル譯ニハ參リマセヌ、併ナガラ其理由ニ至ッテハ略々分ッテ居ルノデアッテ敷設法ノ第一期ノ外ニアル八線路即チ曩ニ言フ通六百七十哩ヲ六千三百萬圓ヲ以テ三箇年増加デ造リタイト云フ主意デ能ク質問ヲセイデモ是ハ分ッテ居ルト思ヒマス、我々調査ヲシタ時ニハドウ云フコトヲ調査ヲシタカト申シマスト如何ニ日本ガ膨脹シツ、アリ又膨脹シタニモセヨ斯ノ如ク大金ガ僅々タル年月ニ支出シ能フモノデアルカ是ガ一ツノ調査デアリマス、ツレカラ又此事業ガ斯ノ如ク急ク必要ガアルカ如何此二ツニ就イテ委員會デアリ調査ヲ致シマシタ、金ノ點ニ就イテハ大藏委員ニ當然問フベキ事デアリマスニ依ッテ大藏省ノ政府委員ニ問ヒマシタ所ガ大藏省ノ政府委員ハ初メカラ是ハ不同意デアアル到底サウ云フ事ハ出來ヌト思ッテ居ル、今日ノ經濟上ドウシテモ是ハ許サレヌ事デアアル、既ニ戰後ノ經營トシテ計畫シテアル所ニ依ルモ明治三十四年頃ニナレバ、公債總高ハ五億萬近クモナルシ元利償却ノ金額ハ年々三千五百萬圓ニモ上ルト云フ有様デアアル、然ルガ上ニ尙ホ更ニ治水ノタメニ一千三百萬圓許リ費スコトヲ欲シテ居ル北海道鐵道ノタメニ既ニ過日貴族院デ三千三百萬圓ト云フモノヲ法律ノ上デ極メタ未ダ衆議院ヲ通過セヌニ依ッテ法律トハ爲ッテ居ラヌガ貴族院デハ極メタ、北海道、治水此二件ニ止ラズ臺灣ニモ鐵道ヲ敷カナクツテハナラヌ、又築港モシナクツテハナラヌ、是ガタメニハ二千五百萬圓モ凡ツ見込マナケレバナラヌ、治水、臺灣鐵道並ニ築港及北海道鐵道此數件ヲ合スルモ更ニ八千万圓許リハ支出ヲシナケレバナラヌト云フ譯ニナツテ居ル、尙ホ此案ノ新線路八線路ヲ線上ゲテ六千三百萬圓ヲ加ヘルト云フヤウナコトハ到底是ハドウシテモ出來ヌ事デアアル、併ナガラ若モ年度ヲ極々緩ニ線ノ下ゲテ三十七年度以降トカ何トカ云フコトナラバツレハ出來得ナイ話デモアルマイト云フコトデアリマシタ、併ナガラ既定ノ第一期線路ガ出來上ツタ上ニ此第一期線

ノ所ニ無イ豫定線ナルモノヲ造ルト云フコトデアリマスレバ即チ三十七年度以降ト云フサウ云フ理窟ニナルノデ何ノ效モナインデアアル、第一期線ヲ完成シテ所デ第二期線トモ申スベキ豫定線ナル線路ヲ建築シテ行クト云フ事ハ別ニ法律トシテ取極メテ法ガ無イカラ數年後ノ事ハ豫メ極メテ置ク必要モ何モナインデアアル、左様ニ此委員杯ハ考ヘマシタノデアリマス、又遞信省ノ當局者ニ就キマシテ質問ヲ致シマシタ是ハ鐵道ノ事業其他ノ事ニ附イテ質問致シマシテ大イニ參考ニナル事ガアリマシタ其遞信省ノ當局者ガ申スノニ既定第一期線ニ這入ッテ居ル所ノ線ト云フモノハ多クハ利益ノアル見込ノ線デアアル、利益ガ多イ線ハ大概第一線ニ選ビ取ラレテ居ル故ニ鐵道經濟ノ上ニ就イテ論ジテ見テモ多ク金ハ費スト云フモノ、又一方ヨリハ收獲ト云フモノガアル第一線路ハ斯ノ如キ次第デアアル、然ルニ是ニ反シテ此案ニアル今其線上ゲントスル所ノ線ト云フモノハ皆利益ノ見込ガ甚ダ少イモノデアアル、鐵道當局者ガ見ル所デハ甚ダ利益ノ少イモノデアアル、此線路中何レモ利益ノ少ナイモノデアアッテ何割何分デナク其下厘以下ノ多クハ利益ガ少イモノデアアル、何割何分ト云フモノヲ外レテ厘、何厘ト云フ利益ノ見込ノモノシカナイノデアアル、其八線路ノ中ニ就イテ或ル線路ノ如キハ全ク損毛損失ト見ナケレバナラヌトマデモ思ハル、線ガ有ル、而シテ其建築カドウカト云フニ四國線ノ如キ又ハ和田山カラ鳥取ニ至ル線ノ如キ又甲府岩淵間ノ如キ一哩ノ建築費ト云フモノガ多クハ十萬圓或ハ十一萬圓モ要スルト云フ如キ非常ナ難工事デアアル、勿論難工事デアアルガ故ニ利益ノ割モ少イト云フモノデゴザイマセウ、右申ス通今茲ニ線上ゲントスル八線路ハ甚ダ利益ノ少イモノデアアル、既ニ極テ居ル第一線路トハ比較ノ出來ナイヤウナ利益ノ少イモノデアアル、斯ウ云フ遞信省ノ委員達ハ説明ヲサレマシタノデゴザイマス、右申スヤウナ事情デアリマスニ依ッテ無論何ノ異議モナク委員會ニ於テハ否決ヲ致シマシタ次第デアリマス、先ツ鐵道ノ事情ニ就イテハ右申スヤウナ次第デアリマス且ツ此案ハ隨分奇妙ナ案デ甚ダ穩カナラヌ案デアリマス、何ゼ穩カナラヌカト云フト曩ニ政府提出ノ是ト同シ鐵道敷設法中改正案ト云フモノガ衆議院ヲ經由シテ廻ッテ居リマシタ、若シ此敷設法中ニ就イテ修正ノ意見ガアルナラバ衆議院ハ其時分ニ提出シテモ宜シイ譯デアアル殊ニ此時分ニ修正ノ意見ヲ表スル餘地ハアツタラウ、何モ妨ゲハナカッタラウト思フノデアリマス、然ルニ政府案ハ僅ニ僅一條ノ削除ヲ加ヘテ本院ニ送付シマシタ即チ過日協議會ニマデナツタ案デアリマス、サウ致シテ置イテ政府案ハ右ノ通一條ノ削除ノミヲ以テ本院ヘ送付シ置イテ更ニ此改正案ト云フモノヲ彼レ自ラガ拵ヘテ出シタ、ウレ故第九條ノ如キハ即チ鐵道敷設法第九條ノ如キハ既定ノ六千萬圓ト云フモノヲ衆議院ハ一度ハ六千七百萬圓ト修正議決シテ此院ニ送付シテ居ル所ガ又此案ニアル如ク一億三千万圓ト云フ修正ヲシテ即チ送ッテヤウナ譯デアリマス、一期會中ニ同一法案ガ而モ同一條ニアル同一事項ヲバ丁度ニ同衆議院ハ修正シテ本院ニ送ッテ二フ譯デアリマス、假令其仕事ガ憲法ノ明文ニ觸レヌニモセヨ普通ノ條理カラ之ヲ論ジテ見マシテモ如何デアリマセウカ甚ダ不穩當ナ處分デアラウト思フノデアリマス、同一議案ヲ幾度モ修正シテサウシテ思付キ次第ニ立案議決シテ互ニ其案ヲ遣リ取りスルト云フヤウナ例ガ開ケタナラバ、ソレハ隨分不都合ナ事デゴザイマス、衆議院ガ爲シ得ルナラバ貴族院モ爲シ得ル、

勿論政府モ爲シ得ル、發議權ヲ持ッテ居ルモノハ幾度デモ爲シ得ルト云フ事ニナルデアラウ、是ハ餘リ面白イ例デナイ、善キ例デナイ、或ハ惡例デアラウト思フノデアリマス旁、以テ此案ハ委員會ニ於テハ否決スベキモノト決議致シマシタ、此段報告致シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御發言ガ無ケレバ第二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス

本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 少數デゴザイマス、依ッテ第二讀會ハ開クベカラズト云フ事ニ決シマシタ

○男爵小澤武雄君 動議ガアリマスガ議事日程ヲ變更ニナッテ勸業法案ノ第一讀會ノ續ヲ開カレタイト云フ動議ヲ提出シマス

○子爵曾我祐準君 贊成

○水之江浩君 贊成

○渡邊甚吉君 贊成

○瀧口吉良君 贊成

○男爵伊達宗敦君 贊成

○根岸武香君 贊成

○梅原修平君 贊成

○澤原爲綱君 贊成

○林宗右衛門君 贊成

○野崎武吉郎君 贊成

○田中芳男君 チョット伺ヒマスガ唯今發議者ノ何ガ能ク分リマセナンダガ何ヲ議スルノデスカモウ一遍……

○男爵小澤武雄君 今田中君ノ御尋デシタガ日本勸業銀行法案ノ議事ヲ……

○田中芳男君 ソレナラ分リマシタ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 一寸、問デアリマスグレドモ前刻本席ヘ御依託ニナリマシタ特別委員ヲ選定ニ及ビマシタニ依ッテ書記官長ヲシテ其氏名ヲ朗讀致サセマス

(中根書記官長朗讀)

臺灣總督府所屬雇吏員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案特別委員

子爵細川 興貫君	子爵梅小路 定行君	男爵青山 貞君
箕作 麟祥君	男爵渡邊 清君	男爵中川 興長君
平山 成信君	山 脇 玄君	渡邊 甚吉君
明治二十七年年度豫備金支出ノ件外三件特別委員		
公爵二條 基弘君	子爵鍋島 直彬君	子爵唐橋 在正君
子爵堀田 正養君	子爵土方 雄志君	津田 眞道君
兒島 惟謙君	南郷 茂光君	久保田 眞吾君

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ日本勸業銀行法案ノ第一讀會ノ續ヲ開クト云フコトハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
別ニ御異議ナシト認メマシテ議事日程變更ニナリマシタ、即チ第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

〔伯耆松浦詮君演壇ニ登ル〕

○伯耆松浦詮君 勸業銀行法案ノ委員會ノ經過結果ヲ御報告ヲ致シマス、委員會ヲ二回開キマシテ段々質問ノ上即チ御配付ニ及ビマシタ通ノ修正ヲ致シマシタ、尤モ經過ニ就キマシテ一寸申述ベ置キマスノハ質問ノ上別ニ異議モゴザランデゴザイマシタガ此法案ハ隨分大事業デアリ經濟社會ニ影響ヲ及ス事モ大ナルコトデアラウト云フ考モゴザイ、旁此短日ノ間ニ諸君モ十分ニ議案ヲ御覽ノ暇モアルマイ所ニ輕キト議スルコトハ如何デアラウト云フ所ヲ以テ繼續委員ニ付託セラレタイト云フ議モ出マシテゴザイマス、併ナガラ是ハ委員ノ少數ニ於テ消滅致シマシテ此修正案ノ通ニ相成リマシタ譯デゴザイマス、其修正ハ即チ勸業銀行法案ノ第十四條ノ但書ノ「日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總額ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシ」ト申ス下ノ「又ハ地金銀若クハ國債證券地方債證券ヲ質トシ」ト申ス字ヲ削リマシテ「不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期貸付ヲ爲スコトヲ得」ト斯ノ如クニ修正ヲ致シマシタ譯デ其理由ト申スモノハ本案ノ儘デアレバ殆ド普通銀行ノ營業ヲ致シマスル如キモノデ是デハ大ニ既設ノ株式會社ニ影響ヲ及シ妨害ヲ爲スコトデアラウト考ヘマスデ、ソレニ依ッテ此債券ヲ發行シ割増ヲ爲シ低利ノ債券ヲ發行セラル、ト云フ以上ニ斯ノ如キ普通銀行ノ營業ノ競争ヲサセルヤウナ事ガアツテハ非常ナ害ガ有ラウト云フ所カラ斯ノ如キ修正ヲ加ヘタ譯デアリマス德斯ノ如ク「又ハ地金銀若クハ」ト云フ以下二十一字ヲ削リ去ルト云フ決定ヲ致シタ譯デゴザイマシテ其他各條ニ於テハ別段異議モナク決了ヲ致シマシタ、此段御報告ニ及ビマス

○子爵由利公正君 本案贊成ノ儀ヲ一言致シタウゴザイマス
議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕 宜シウゴザイマス

〔子爵由利公正君演壇ニ登ル〕

○子爵由利公正君 此本案ハ大キニ贊成ヲ致ス意見ヲ持ッテ居リマスデ簡單ニ一言ヲ申陳ベマス、此法案ハ曾テ我々ガ國家ノ財源ヲ増シマスルタメニハ必要ナ案ト云フコトハ多年考ヘテ居ル趣意ノ案デアリマシテ最モ今日ノ時勢ニ就イテ必要ナ案デアルト考ヘルノデゴザイマス、況ヤ此當年ハ……本年ノ此議會ハ戰後ノ經營トシマシテ陸海軍ノ擴張ヲ可決致シマシタニ就キマシテハ數多ノ……數千萬圓ノ稅法案モ過日來續々可決致シタデアリマス、ソレデ此中ニハ隨分苛酷ナ事ト思フコトモアリ最モ忍ビザル數多ノ稅デアルト云フ事ニ拘ラズ已ムヲ得ザルニ可決致シマシタ、尤モ追々ト此次ノ議會ニハ定メテ改正ヲセラレルコトモ或ハ有ルデアリマセウシ、又立法院カラモ改正モ必ズ出ルコトデアラウト存シマスナレドモ先ヅ大體ニ於テ當年ハ非常ナ稅案ガ悉ク可決致シタ趣意デアリマシテ此模樣ヲ續々ト此稅ヲ取上ゲルト云フバカリニシマスレバ此財政ハ田舎ニ廻ハリマス金ハ悉ク中央ニ取上ゲテ仕舞フト云フコトノ事實ニナリマスデアリマス、斯ウ云フ場合ニナリマシテ別シテ此勸業ノ事ニ資金ヲ廻シマシテ、サウシテ財源ヲ是カラ養フト云

フ事ハ民間ニ取リマシテモ國家ノ治安ニ取リマシテモ誠ニ必要缺クベカラザル問題デアラウト信シマスルノデ此法案ハ今日決セラレテモ忽チ今日カラ行フト云フノデハゴザイマセヌナレドモ此實業ノ事ト申スモノハ御案内サンノ通ナカク、此計畫ガ付キマシタトテ此事實ト折合ヒマスデハ之ヲ増シマスコトハ出來ヌノデゴザイマスカラ早クニ方針ヲ極メテ行カレテサウシテ此地方ノ方針ト或ハ政府ノ見込ミマシタル所ト能ク相熟シテ其程合ニ應ゼラレルト云フ時ニナラナケレバ是ハ行ハレヌト云フコトハモウ諸君モ御承知ノ事デアラウト考ヘマス、サウシテ見マシタル此法案ヲ速ク決セラレマシテ地方ハ忽チ此實業問題ニ就イテ斯様ト云フ考ヲ付ケマシテサウシテ何處モ計畫ヲ致サネバナラヌノデテリマスカラ何卒此法案ハ今日速ニ決セラレマシテドウカ地方ノ望ヲ達シタイト存シマスル、過日來ノ一體此本院ノ模様ヲ察シテ見マシタル隨分御異論モ多イヤニ承リマスル態ニ一言ヲ致シテドウゾ諸君ノ御贊成ヲ請ヒマス譯デアリマス

○伯耆松浦詮君 勸議ヲ提シマシテ此案ニ附キマシテハ繼續委員ニ付託サレシコトヲ提出致シマス故ニ議事日程ヲ變更セラレンコトヲ希望致シマス

○子爵岡部長職君 松浦伯耆ニ本員モ贊成致シマス

○議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕 議事日程變更ニハ及ヌノデアリマス特別委員ノ選舉トアル時分ニハ議事日程變更ニナリマスカラ唯今ハサウ云フコトハアリマセヌ

○渡邊甚吉君 一寸政府委員ニ質問ガ致シタウゴザイマス、此勸業銀行及農工銀行案ハ地方ノ實業家一般ニ非常ニ關係シテ居ルノデ實ニ當年ノ增稅案ハ莫大ナ實ニ急激ナ增稅デゴザイマシテ一般ノ民力ニ堪ヘルヤ否ヤ實ニ懸念サレル位デゴザイマスケレドモ如何セン戰後ノ經營已ムヲ得ズ我々モ增稅案ニ贊成致シマシタデアリマス、サラバ一方ニ斯ク增稅案ガ出マシタル同時ニ片一方デ勸業銀行農工銀行ト云フヤウナモノガ出來テ實業ヲ獎勵スル案ガ無論通過スルデアラウカト我々ハ豫メ希望ヲ懷イテ增稅案ヲ贊成致シタデアリマス、然ルニ承ハル所ニ依リマスルト政府ハ眞面目デ此勸業銀行農工銀行ヲ出シタノデハナイ此農工銀行ヲ出シタノハ則チ增稅案ヲ釣ルタメデアリ、即チ斯ウ云フモノヲ出シテ一般ノ衆議院ノ諸君ヲ先ヅ釣ツテサウシテ增稅案ヲ通過サシテ斯ク致シテ置イテ、此案ハ詰リ政府ハ否決スルコトヲ希望スル即チ此案ハ繼子ノ案デアルト云フコトヲ一般ニ評判ヲ致シマスカラ本員ハ決シテ左様ナ事ハアルマイトハ存シマスケレドモ果シテ如何デアアルカ一應質問致シマス

〔政府委員添田壽一君演壇ニ登ル〕

○政府委員〔添田壽一君〕 渡邊君ニ御答致シマスルガ左様ノ風説ハ無論無根デアルト申上ゲナケレバナラヌノデゴザイマス、何ゼナレバ苟モ政府ガ勸ヲ奉シテ此法案ヲ提出シマシタ以上左様ナル事ノナイト云フコトハ提出シマシタ事實ニ於テ既ニ明白ナルコトデゴザイマス、且ツ恐多クモ此開院ノ詔勅ノ上ニ於テ殖産ト云フ文字ガ加ヘテ在ラセラレルノデアリマス、是等ハ主トシテ此銀行法案ノ如キニ關係ヲ有セラレテ居ルコト、私ハ信ズルノデアリマス、ナゼ左様ナ風説ガ出マシタカハ知リマセヌケレドモ此二ツノ法案ハ戰後ノ經營ノ是ハ一大要素デアリマス、一方ニハ政府ガ幸ニ諸君ノ協贊ヲ得マシテ増

税ノ手段ヲ以テ國民ニ負擔ヲ掛ケマシタル以上ハ一方ニハ生産ヲ獎勵シテ財
源ヲ培養シ民力ヲ養成スルノ必要ヲ認メマシテ提出致シタル案デゴザイ
マスルカラ、ドコマデモ此案ハ戰後經營ノ一大要素デアアルト云フコトヲ御承
知ヲ願ヒタイノデゴザイマス、序ナガラ此案ニ就イテ御贊成ヲ願ハナケレバ
ナラナイニ三ノ點ヲ御參考マデニ簡略ニ申上ゲテ置キマスルガ獨リ今日ハ増
稅等ノタメニ生産増加ノ必要デアアルノミナラズ列國ノ經濟上ノ競争ト云フモ
ニ勝チマスノニハ逆モ今日ノ如キ高利ノ資本デハ目的ヲ充タスコトガ出
來テ話デハナイノデアリマス、ソレデ諦リ此案ハ我邦將來ノ經濟ノ上ニド
ウシテモ必要デアアルト見認メテ提出シタモノデゴザイマスルカラ、唯一時戰
後ノ經營ト云フバカリニ基イテ譯デハゴザイマス、其一大要素デアアツテ他
ニモ大ニ此法案ヲ必要トスル理由ハ澤山アルノデゴザイマス、デ或ハ此銀行
ノ將來ニ附イテ御懸念モアラセラル、カモ知レマセヌケレドモ所謂此銀行ハ
確實ナル點ニ於テハ他ニ比ベヤウノナイモノデアリマシテ、詰リ土地ヲ抵當
トシテ貸シマスルケレドモ此法案ニ規定シテアリマスル通、年賦償還額ハ土
地ノ平均收益ノ公課額ヲ控除シタモノヲ超エルコトハ出來マセヌデゴザイ
マスル故ニ生産ヲ抵當ニシテ貸スト云フ事ト同ジコトデアアルノデゴザイマ
ルカラシテ、我邦ノ土地ガ無クナツテ仕舞ハヌ以上ハ此銀行確カナル銀行ハ
無イト申シテモ宜シイノデアリマス、又債券發行ニ附キマシテ、或ハ御懸念
アラセラル、カモ知レマセヌケレドモ隨分將來債金モ回收セラル、デゴザイマ
ウ、又政府ハ一方ニ公債デ金銀ヲ募リマスケレドモ其公債金ト云フモノハ多
クハ事業ト爲テ民間ニ降ルノデゴザイマス、故ニソレ等ノ降リマスル資金ヲ
生産的ニ吸込ミマスル途ヲ作リマセヌケレバ或ハ國民ガソレヲ不生産ニ用ヒ
或ハ浪費シマシタリ或ハ投機ニ流レテ我邦ノ經濟ヲソレガタメニ破レルト
云フ事ニ至ラヌトモ申サレマセヌノデゴザイマスルカラ、所謂債券發行ノ力
ニ依ツテソレ等ノ資金ヲ吸込メサウシテソレヲ生産ノ事業ニ貸付ケルト云
事ニナリマシタナラバ始テ我邦ノ戰後經營ノ經濟モ全クナルノデアリマシテ、
ドウシテモ此將來ヲ御賢察下サイマスルナラバ此二ツノ銀行ト云フモノヲ設
立シナケレバナラヌト云フコトハ明瞭デアアルト信ズルノデゴザイマス、ソレ
デ隨分各地方カラモ此銀行ノ設立ノ事ニ就イテハ希望ヲ申立テ、參ツテ居
リマスルケレドモ未ダ法案ノ通過セザル以前ニ輕卒ナル事ヲ致シテハナラヌ
ト言ツテ押ヘテ居ル位デゴザイマスルカラ、願クハ民望ヲ容レラレテ此重大
ナル法案ハ成ルベク速ニ御議下ニナランコトヲ偏ニ希望スル譯デゴザイマ
ス、又序ナガラ申上ゲテ置キマスガ委員會ノ御修正ニ附キマシテハ今日ハ僅
ナル點ヲ爭フベキ時機デハゴザイマス、御承知ノ通會期モ餘スコト僅ニ一
日デゴザイマスカラ政府ハ左様ナル僅ナル點ヲメニ此重大ナルモノヲ根抵
カラ失フト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマスルカラ別段差支ナイト云フ見込
ヲ持ツテ居リマスルノデアリマス、故ニ何卒速ニ御修正デア可決ニ爲リマ
シテ衆議院ノ會期中ニ御同意ヲ表シ得ルコトダケニハ御盡力アラントラ謹
テ希望致ス譯デアリマス

(伯翁松浦君演壇ニ登ル)

○伯翁松浦君 一應提出ノ主意ヲ述ベマス、本員ハ唯今繼續委員ニ付託セ
ラレシコトヲ請ヒマス議ヲ提出致シマシタガ、既ニ唯今政府委員ヨリモ大ニ

辯セラレマシタ通、此兩銀行ト云フモノハ今日戰後ノ經營ニ多分ノ課稅ニ附
イテ人民ノ負擔ガ重クナツタニ附イテ生産的ヲ獎勵シテ民間ノ金融ヲ助ケヤ
ウト云フ誠ニ結構ナ事デアアツテ、固ヨリ此兩銀行ノ請神ニ於テハ聊カ異論モ
ナイコトデゴザイマスガ、併シ何分此銀行ノ事タルヤ資金ハ千万圓以上ノ資
本金ヲ入レラレ、又ソレニ十倍ノ債券ヲ發スルト云フコトデ即チ一億圓ノ
債券ヲ發行スルト云フ非常ノ特權ヲ與ヘラレテ居リマス、又農工銀行ヲ各縣
ニ設ケラル、ト云フコトデ、之ニ就イテハ委員會ノ修正ヲ以テ完全ナルコト
デアラウトハ存ジマスルナガラ、如何ニモ國家ノ大事業ヲ今日少時日ノ間ニ
十分ノ熟議ヲ經ズシテ議下致シタ後ニ万一天下ノ經濟上ニ於テ如何様ナル
變動ヲ起スト云フヤウナ事ハアルマイモノデモナイト心配致スノデアリマ
ス、諸君ニ於テモ亦此議案ノ修正邊リニ對シテ御熟覽ノ暇モナカラウト考
マスルコトデアレバ、其所ニ於テハドウゾ諸君モ十分ニ御考ノ上デ議下ニナ
ランコトヲ希望致ス譯デアリマス、此ノ如キ百年ノ大事業ヲ起スニハ十分
ニ念ニ念ヲ入レ調査ニ調査ヲ加ヘテ遺憾ノナイ所ニシテ此議案ニ於テ議決ニ
爲ルヤウニ致シタイト云フ考デ、モウ明日一日ノコトデアレバ何卒繼續委員
ヲ置カレテ此事ヲ篤ト御議定ニナランコトヲ希望致シマス、此段一寸諸
君ニ……

○男爵千家尊福君 政府委員ニ一寸御尋致シタイノデアリマスガ、總テ是マ
デ政府ヨリ提出ニナル法案ニ對シテハ施行期日ト云フモノガ大抵記載シテ
アルヤウデゴザイマスガ、此法案ハ政府ハイツヨリ實施ニナル御見込デアリ
マスカ、政府ノ御見込ノ在所ヲ一應承ツテ置キタイト思ヒマス

(政府委員添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマスルガ是ハ一般ノ公文式ニ依リマス
ル譯デアリマス、然ルニ是ガ施行期限ガナイカラ或ハイツカ明瞭デナイト云
フ御考デアラセラル、カモ知レマセヌケレドモ、此銀行ヲ立テマスルニ就キマ
シテハ色々準備ガゴザイマス、其他能ク考究シナケレバナラヌ事ガゴザイマ
スルガ、此法案ガ公布ニナラヌケレバ其準備モ注意ヲ加ヘルコトモ出來ヌノ
デアリマスカラ、既ニ必要ト御認メデアラセラル、ナラバ成ルベク速ニ成立
セシメラレシコトヲ希望シマス

○小畑美稻君 松浦伯翁ノ勸議ヲ贊成シマス

○子爵曾我祐準君 松浦君ノ勸議ハ成立ツテ居ルノデゴザイマスガ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 成立ツテ居リマス、繼續委員ノ事ノ勸議ハ別ニ

○子爵曾我祐準君 本員ハ松浦伯翁ノ繼續ト云フノハ大反對デアリマス、反

對ノ理由ハ更ニ喋々申スマデモナク、即チ此案其者ガ實行ヲ急グ、即チ實行

ヲ急グ理由ハ唯今添田政府委員ガ辯セラレタ道デアアル、ソレヲ急グニ附イテ

ハ繼續委員ト云ヘバ一年カラ掛カルカラ繼續委員ニハ付スベキモノデハナイ

ト思ヒマス、全ク松浦君ニ反對ヲ致シマス

○武井守正君 松浦伯翁ノ繼續委員ニ贊成

○子爵小笠原壽長君 本員モ松浦伯翁ノ繼續委員ニ贊成

○平山成信君 此案ハ年來練リニ練ツタ案デアリマスカラ繼續委員ヲ置イテ

調ベルト云フ必要モナイト思ヒマス、私ハ繼續委員ニ反對デアリマス、ド

ウカ速ニ二讀會ニ移ラレンコトヲ希望致シマス
 ○船越衛君 松浦伯爵ノ繼續委員ノ説ヲ至極贊成致シマス、此議案タル誠ニ重要ノ事デ戰後ノ經營ノ問題ニ於キマシテハ必要ノ事デアラウト存シマス、併ナガラ事ガ誠ニ重大デ隨分取調ヲ要スル廉モ少カリマセヌデ是ハ繼續委員ヲ置カレテ十分ニ調査ニナランコトヲ希望致シマス、松浦君ニ贊成
 ○瀧口吉良君 御採決ヲ願ヒマス
 ○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 松浦伯爵ヨリ繼續委員ヲ置クト云フ動議ガ出テ居リマス、繼續委員ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
 起立者 少數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 少數ト認メマス、別ニ御發議ガ無ケレバ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
 起立者 多數

○瀧口吉良君 議事日程ヲ變更シテ直ニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望シマス
 ○子爵曾我祐準君 贊成
 ○子爵板倉勝達君 贊成
 (其他贊成ト呼フ者多シ)
 ○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 日程ヲ變更シテ二讀會ヲ開クト云フコトハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ
 (異議ナシト呼フ者多シ)
 然ラバ變更ニナリマシテ直ニ二讀會ヲ開キマス是ハ修正ガゴザイマスニ依ッテ第一條ヨリ第十三條マデヲ問題ニ供シマス
 (左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス(以下)

日本勸業銀行法
 第一章 總則
 第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク
 第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得
 第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス
 第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得
 第二章 重役
 第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク
 第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス
 副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ
 副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス
 監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監查ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得
 理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得
 監查役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得
 總裁副總裁理事及監查役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル
 第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ召集スルコトヲ得
 第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ召集スルコトヲ得
 第十一條 監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ召集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得
 總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ
 第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法定代理人ハ此ノ限ニ在ラス
 日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 株主ノ議決權ハ十株ニ付キ一箇トス但シ十一株以上ヲ有スル株主ニ在リテハ五十株ヲ増ス毎ニ一箇ヲ加フ
 他人ノ代理ヲ爲ス者ハ五人以上ヲ代理スルコトヲ得ス又其ノ株數ハ總株數ノ十分ノ二以上ヲ超過スルコトヲ得ス
 ○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第一條ヨリ第十三條マデ原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
 起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ第十四條ヲ問題ニ供シマス
 第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス
 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總額ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動產ヲ抵當トシ又ハ地金銀若ハ國債證券地方債證券ヲ質トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得
 (特別委員修正案)

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不
動產ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第十四條ハ委員ノ修正ガゴザイマス、委員ノ修
正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス次ニ第十五條ヨリ終リマデラ
問題ニ供シマス

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團
體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動產抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナ
ルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ
以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキ
ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナ
ル收益ノ見込アルモノニ限ル
日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵
當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動產又ハ不動產ヲ添抵當ト
爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動產ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シ
タル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平
等ノ償還額ヲ定ムヘシ
前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ
於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公
課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据
置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキ
ハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ
借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當
ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合
ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期
限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得
第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第
十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相
當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付
金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動產ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、
場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコト
ヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動產ヲ以テ増抵
當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組
織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之
ヲ拂込マサルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコト
ヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其
ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求
ヲ爲スヘシ
監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル
公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發
行スル農工債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀
行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ
得

第三十二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券
地方債證券ヲ買入レ又ハ日本銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

日本勸業銀行ハ前項ニ依リ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂
込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總
高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ
應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農
工債券ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スル
コトヲ得但シ其ノ方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依
ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

第三十八條 勸業債券ノ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ
發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十九條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕
拂フヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ金額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六十條 準備金 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七十條 政府ノ監督及補助 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十四條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八十條 罰則 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附則 第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監查役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス

設立初度ノ理事及監查役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

議長(侯爵峰須賀茂韶君) 第十五條ヨリ終リマデ原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

議長(侯爵峰須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○瀧口吉良君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開キマス、別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

然ラバ變更ニナリマス、第二讀會ヲ直ニ開キマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第二讀會ノ決議案即チ原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○男爵小澤武雄君 議事日程ヲ變更シテ農工銀行法案ノ第一讀會ノ續ヲ開カ

○子爵曾我祐準君 贊成

○男爵伊達宗敦君 贊成

○瀧口吉良君 贊成

○渡邊甚吉君 贊成

○宮崎總五君 贊成

○野崎武吉郎君 贊成

○梅原修平君 贊成

○澤原爲綱君 贊成

○根岸武香君 贊成

○子爵由利公正君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ農工銀行法案ノ第一讀會ノ續ヲ開ク、別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

然ラバ議事日程變更ニナリマス、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(伯爵松浦詮君演壇ニ登ル)

○伯爵松浦詮君 委員會ノ結果ヲ御報道ニ及ビマス是ハ前ノ勸業銀行ト同一ノ委員デ同時ニ議了致シマシタガ別ニ論モゴザラズ唯此第六條ニ修正ヲ致シ

マシタ、此第六條ノ修正ハ「農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス」ト云フ所ノ次ニ一、三十箇年以内ニ於テ「定期及」ト申ス字ヲ衆議院デ加ヘマシタノヲ削

去ツテ「三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト」ト斯ノ如ク修正ヲ致シマシタ、次ニ衆議院修正ノ第三條市町村

又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ「三十箇年以内ニ於テ」ト申ス字ヲ削リ「無抵當ニテ」ト云フ下ニアル「定期及年賦償還」ト云フ字ヲ削リマシテ「本

條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト」ト斯ノ如ク修正ヲ致シマシタ、ソレカラ三號ヲ「農業者又ハ工業者ニ對シ其生産ニ係ル物品ノ賣買ヨリ生スル爲替手

抵觸ヲ致ス様ナコトハ成ルタケ避ケンケレバナラヌヤウナ譯デアリマス、依ッテ原案ノ荷爲替割引ト云フコトハ普通銀行ノ最モ重モナル事業デ此二ツノ事

項ガ存シテアル時ニハ普通銀行ト云フモノ、事業ノ農工銀行ノタメニ奪ハルル譯ニナリマスニ依ッテ此二項ヲ削去ツタ譯デ、詰ル所此農工銀行ノ真ノ業

務上ハ四方ノ事業ヲ發達シ農業工業ヲ發達スルノ目的デアレバ此ノ如キ其一會社ノ利益ト株式會社ノ利益ト抵觸スルガ如キコトハ削去ルコトガ至當デア

ラウト考ヘマスル譯デ此二項ヲ削去リマシタ、詰リ利ノ多イ方ニ傾キ易キ譯ノコトデゴザイマスカラ自然其方ニ資本ヲ向ケルヤウナ懸念モアル譯デア

此二條ヲ削去ツテ修正ヲ加ヘマシタ譯デアリマス、其他衆議院ノ修正ノ通異議ハゴザラズ、尤モ右修正ニ對シ第七條ノ「前條第一號第二號及第五號」ト此

字ハ重複ニナリマスニ依リ削去ル譯デゴザイマス、ソレカラ尙ホ此六條ノ修正ニ依ッテ二十一條ノ「農工銀行ハ第六條第一號第二號及第五號」ト云フ即チ

此文ヲ削去ル譯ハ其他ハ總テ異議ナク通過致シマシタニ依ッテ諸君速ニ御贊成アラントラ……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○渡邊甚吉君 議事日程ヲ變更致シマシテ直ニ此農工銀行ノ第二讀會ヲ開カ

○湯地定基君 贊成

○子爵由利公正君 贊成

○吉村角次郎君 贊成

○澤原爲綱君 贊成

○金澤松石衛門君 贊成

○小林小太郎君 贊成

○宮崎總五君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程變更ニハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開キ

マス第一條ヨリ第五條マデヲ問題ニ供シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス做之)

農工銀行法

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的ト

スル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十

圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但土地ノ情況

ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコ

トヲ得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス
第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其ノ株主トナルコトヲ得ス

株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主タルノ資格ヲ失フコトナシ
第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其ノ株主タルコトヲ得

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第一條ヨリ第五條マデ原案ヲ可トスル諸君起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、第六條ヲ問題ニ供シマス
第二章 營業
第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
一 三十箇年以内ニ於テ定期及年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ三十箇年以内ニ於テ無抵當ニテ定期及年賦償還ノ貸付ヲ爲スコト
三 農業者又ハ工業者ニ對シ其ノ生産ニ係ル物品ノ賣買ヨリ生スル爲替手形ノ割引ヲ爲スコト

四 農業者又ハ工業者ニ對シ其ノ生産ニ係ル物品ノ荷爲替貸付ヲ爲スコト
五 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト
(特別委員修正案)

農工銀行法
第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト
二 年賦償還貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト
四 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第六條委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、第七條ヲ問題ニ供シマス
第七條 前條第一號第二號及第五號ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル
一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良

二 耕作道路ノ築造又ハ改良
三 殖林事業
四 種苗、肥料其ノ他農工業用原料ノ購入
五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
六 農工業用建物ノ築造又ハ改良
七 前各項ノ外農工業ノ改良
(特別委員修正案)

第七條 前條ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル
一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良
二 耕作道路ノ築造又ハ改良
三 殖林事業
四 種苗、肥料其ノ他農工業用原料ノ購入
五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
六 農工業用建物ノ築造又ハ改良
七 前各項ノ外農工業ノ改良

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第七條委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ第八條ヨリ第二十條マデヲ問題ニ供シマス
第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル
農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高ニ倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス
第十一條 年賦金ハ元金ト利子ト併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス
第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手

敷料ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ

應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト

雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ

割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸

付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラルル場

合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但

シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當ト

スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公

共團體ニ於テ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マ

サルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル

公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

○議長(侯爵須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、第二十一條ノ問題ニ供シマ

ス

第二十一條 農工銀行ハ第六條第一號第二號及第五號ノ貸付ヲ爲シタル場

合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用スルトキハ償還期限前

第三章 農工債券

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金

額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヲ

超過スルコトヲ得ス

第二十七條 農工銀行ハ少クモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回

以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス

低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十九條 農工債券ノ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ

發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セ

サルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當

スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金

ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條

ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨

及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十三條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法

律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分

ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスル

トキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏

大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトス

ルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ

分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若ハ

公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景

況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金

額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大

藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスル
トキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ
大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿
及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ
命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スル
コトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百
圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ
二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルト
キ

三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
四 第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條
第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償
還ヲ爲サ、ルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ
命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

附則

第四十八條 府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設
立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ
差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締
役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法
律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(侯爵須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(侯爵須賀茂韶君) 起立者 多數

○議長(侯爵須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

- 山田卓介君 直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス
- 湯地定基君 贊成
- 渡邊甚吉君 贊成
- 角田林兵衛君 贊成
- 瀧口吉良君 贊成
- 野崎武吉郎君 贊成
- 飯淵七三郎君 贊成
- 紫垣伴三君 贊成
- 澤原爲綱君 贊成
- 根岸武香君 贊成
- 梅原修平君 贊成
- 宮崎總五君 贊成
- 小林小太郎君 贊成
- 議長(侯爵須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開クコトニ
異議ハゴザイマセマカ
- 議長(侯爵須賀茂韶君) 然ラバ議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開キ
マス
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
- 議長(侯爵須賀茂韶君) 然ラバ議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開キ
マス
- 〔本案第二讀會修正ハ第六條、第七條、第二十一條、特別委員報告ノ
如ク決シタルニ止マリ他ニ修正ナキヲ以テ略ス〕
- 議長(侯爵須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
- 起立者 多數
- 議長(侯爵須賀茂韶君) 多數デゴザイマス
- 男爵小澤武雄君 議事日程ヲ變更シテ農工銀行補助法案ノ第一讀會ノ續キ
ヲ開カレンコトヲ希望致シマス
- 瀧口吉良君 贊成
- 渡邊甚吉君 贊成
- 山田卓介君 贊成
- 中村雅真君 贊成
- 飯淵七三郎君 贊成
- 金澤松右衛門君 贊成
- 根岸武香君 贊成
- 澤原爲綱君 贊成
- 梅原修平君 贊成
- 宮崎總五君 贊成
- 議長(侯爵須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ農工銀行補助法案ノ第一讀
會ノ續キヲ開キマス別ニ御異議ハゴザイマセマカ
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ
- 議長(侯爵須賀茂韶君) 然ラバ議事日程變更ニナリマス、農工銀行補助
法案ノ第一讀會ノ續キヲ開キマス、特別委員長報告

○伯爵松浦詮君 此補助法案ニ就キマシテハ委員ノ報告ヲ致スベキ事ハゴザ
イマセヌ、モウ此通り異議ナク決シマシタ

○山田卓介君 委員ニ於テ一ノ修正モナク御議決ニナリマシタ以上ハドウカ
讀會ヲ省略セラレテ直ニ確定セラレンコトヲ……

○子爵由利公正君 賛成

○平山成信君 賛成

○渡邊甚吉君 賛成

○瀧口吉良君 賛成

○金澤松右衛門君 賛成

○吉村角次郎君 賛成

○根岸武香君 賛成

○澤原爲綱君 賛成

○角田林兵衛君 賛成

○五十嵐敬止君 賛成

○飯淵七三郎君 賛成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 山田君ヨリ三讀會省略ノ請求ガアリマシテ成規
ノ賛成ガゴザリマス、賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 三分ノ二以上ト認メマス、三讀會ハ省略ニナリ
マシタ

(本案ハ特別委員ニ於テ修正ナキヲ以テ略ス、四八二頁參看)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ集會及政社法中刪除法
律案、衆議院提出第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

カモ知レヌ、先ヅ削除ニナルコトハ甚ダ仕難イコトデアルト云フ政府委員ノ
説デアツタ、ソレデ委員モ僅ニ五人デアリマシテ段々評議ガアリマシタガ五
人中ノ三人ノ多數デ是ハ否決スベキモノト云フコトニナツタ三人ト即チ二人
ト云フモノニ分レタ三人ノ方ノ多數ガ否決スベキモノト云フノ其理由ハ先
刻申シマシタ政府委員ノ説ト別ニ變ツタコトハナカッタ、唯ソレダケノ事ヲ
御報告スレバ宜シウゴザイマスルガ私ハ唯一個ノ委員トシテハ即チ二人ノ方
ニ屬シテ是ハ可決シタラ宜カラウト云フ説デアリマスガ其事ハ唯今辯スベキ
コトデアリマセヌカラ申シマセヌ、唯ソレダケノ事ヲ申シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御發言ガ無ケレバ決ヲ採リマス、第二讀會
ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 ナシ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 起立者ガゴザイマセヌ、即チ第二讀會開クベカ
ラズ廢案ニ決シマス、一ツ御報告ノ件ガゴザリマス……御報告ノ件ト申シタ
ノハ少シ誤リデアリマシテ一應御相談スル事ガアルノデス、唯今其昨日豫算
委員ニ託シマシタル豫算追加案數モゴザイマス、ソレニ今朝一ツ付託致シマ
シタノト總テ明朝ガ審査期限ニナツテ居リマスガ既ニ審査ヲ終ツタト云フコト
デ手許マデ報告ガゴザイマシタノデ然ル所ガ此豫算案ハ隨分緊急ヲ要スルモ
ト思ヒマスルニ依ツテ議事日程ヲ變更致シテ直ニ議スルコトニ致シタラ宜
カラウト思フノデス、然ルニ總テ報告ガゴザイマシタガ此中ニ二十九年年度歳
入歳出總豫算追加案ノ已號ト云フモノハ是ハ河川ノ事ニ關スル豫算追加案デ
アリマス、ソレカラ二十九年年度歳入歳出總豫算追加案ノ辛號ト云フノ日本
勸業銀行ニ關スル豫算追加案ニ依ツテ是ダケハ今日議スルコトヲ見合せマシテ
ナツテ居ルノデゴザイマスニ依ツテ是ダケハ今日議スルコトヲ見合せマシテ
法案ノ方ノ決シマシタル以上ニ致シマスル方ガ宜カラウト思フノデス、ソレ
デ別ニ御異議ハゴザイマスマイカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

然ラバ議事日程變更ニハ別ニ御異議ナイト認メマシテ直ニ是ダケノ議事ニ取
掛リマス

(公署近衛篤磨君演壇ニ登ル)

○公署近衛篤磨君 昨日竝ニ今朝御付託ニナリマシタ豫算數種ゴザイマス
ガ、委員會ヲ開キマシテ明日ノ午前十時ニ報告スルノデゴザイマシタガ幸
ニ捲取りガ早ウゴザイマシテ唯今結了致シマシタ、今議事日程ノ變更ガアリ
マシテ之ヲ議スルコト云フコトデアリマスルカラ御報告ヲ致シマスルガ何レモ
皆簡單ナル豫算案ガ數有ルノデゴザイマスルカラ一括シテ大略ヲ御報告申サウト存ジマ
スト云フノモ煩シウゴザイマスマス、一括シテ大略ヲ御報告申サウト存ジマ
スト、第一ガ明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加ノ辛號即チ「カノト」ト云フ印
ノデゴザイマス、ソレカラ其次ガ明治二十八年年度特別會計歳入歳出豫算追加
ノ丙號、ソレカラ二十九年年度歳入歳出總豫算追加ノ乙竝ニ丙、ソレカラ二十九
年度歳入歳出總豫算追加ノ庚即チ「カノエ」ト云フ印ノデゴザイマス、ソレカラ
同ク乙、サウシテ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルモノ、是
ダケデゴザイマス、一ツ落シマシタ、ソレカラ二十九年年度歳入歳出總豫算

追加ノ戊號ト云フノガ、是レ亦今朝御付託ニナリマシタノガ結了シマシタノ
 順序ニ大略ヲ御報告シマス、此初メノ二十八年度ノ追加豫算ノ辛號ト云
 フモノハ是ハ大體此說明書ニ書イテアリマスルカラ復ビ繰返ス程ノ必要モナ
 イト思ヒマス、二十七八年度ノ戰爭ノタメニ官報掲載事項ガ多イタメニ非常
 ニ印刷費ガ嵩シタ共追加豫算デアリマス、ソレト臨時軍事費ノ取扱手當ト此
 ニツデアリマシテ是ハ勿論戰爭ノ場合已ムテ得ナイ支出デアルト云フノデ直
 ニ原案ノ通ニ決シマシタ、ソレカラ其次ガ二十八年度ノ特別會計ノ丙、是ハ
 此歳入ノ方ニアリマスル分ガ清國ヨリ收入シマシタル第一回償金ノ日本ノ貨
 幣ニ換算シマシタモノガ此特別資金收入トシテ第一款ニ掲ゲテアルノデゴザ
 イマス、ソレカラ其中此軍資金ニ繰入レタ高ガ即チ此歳出ニナツテ居ル、其
 殘リハ二十九年度ノ分ニ支出ノ要求ガアリマス、是ハ誠ニ明瞭ナ話デアリ
 マシテ別ニ議論モ何モナク原案ノ通ニ決シマシタ、ソレカラ二十九年度ノ追
 加豫算ノ乙、是ハ此度兩院ヲ通過シマシタ登録稅法案ノ結果トシマシテ登録
 稅並ニ其印紙ノ收入ト云フモノガ歳入ノ中ニ這入ツテ居ルノデ其外是ハモウ
 此款項ニ連ネテアル通雜收入デアリマストカ製鐵費ノ補正金デアルトカ云フ
 モノガ歳出ニナツテ居リマス、其費途ハ北海道ノ本廳ノ費用デアアル、又大
 藏省ノ所管ニ屬シマシテハ國債ノ元利手數料、又内國稅徵收ニ關スル費用、
 ツルカラ大藏省歳出臨時部ニ於キマシテハ公債證書ノ製造發行費即チ事業公
 債ノ製造發行費デアリマス、ソレカラ又葉烟草取扱所ノ設置費、是レ皆法律
 ノ結果ニ依リ或ハ必要ニ迫ラレテ出タモノデアリマシテ何トモ已ムテ得ナイ
 モノデアルト云フノデ原案ニ決シマシタ、ソレカラ乙號ハ即チ此葉烟草取扱
 所ノ設置費デアリマシテ繼續費ニナツテ居リマス、即チ是ハ彼ノ專賣法案ノ
 結果デアリマシテ原案ニ決シマシタ、ソレカラ二十九年度ノ追加豫算ノ丙、
 是ハ隨分浩翰ナモノデアリマシテ、一々説明ヲセズトモ大體御覽ニナレバ分
 ル位ナモノデアリマスガ、其中大藏省ノ所管ニ屬シテ居リマスルノニ拓殖本
 省ト云フ費用ガアリマス、是ハ此度拓殖務省ト云フモノヲ置カレル、臺灣ト
 北海道トヲ總括シテ一ツノ省ヲ置ク其拓殖務省ヲ置クニ就イテノ則チ本省ノ
 費用デアリマス、是ニハ大分委員會ニ於キマシテモ議論ガアルヤウデアリマ
 シテ廢棄說モ出ルヤウデアリマシタガ其提出者ハ既ニ決シマシタ後ニ發言ヲ
 サレタヤウナコトデアアツテ終ニ其發議ハ成立チマセシタ其他數々有リマ
 スルケレドモ是ハ皆御覽ノ通テ別段ニ御報告スルマデモナイト思ヒマスルカ
 ラ省略致シマス、尙ホ御質問ガアレバ御答ハ致シマス、ソレカラ二十九年度ノ
 追加豫算ノ庚即チ「カノエ」ト云フ印ノアルノデアリマス、是ハ北海道ニ裁判
 所ヲ三箇所デスカ設置スル其裁判所ヲ設置スル費用デアリマス、是モ一人ノ
 異議無ク原案ノ通り決シマシタ、ソレカラ二十九年度ノ追加豫算ノ壬是ハ今
 年ノ一月大阪ノ控訴院並ニ地方裁判所ガ火災ニ罹リマシテ燒失シマシタ其新
 築費デアリマス是ハ繼續費即チ乙號ノ方デ繼續費ニナツテ居リマスルガ其甲
 號ノ方ハ本年度ノ即チ二十九年度ニ要求スル所ノ金額デアリマス是ハモウ已

ムテ得ナイ支出デアリマスカラシテ一人ノ異議無ク原案ニ決シマシタ、ソレ
 カラ二十九年度ノ各特別會計歳入歳出豫算追加ノ甲是モ海軍省ノ所管ニ於キ
 マシテハ横須賀、吳、並ニ佐世保ノ造船材料ノ收入、造船材料購買費ト云フ
 モノデアリマシテ是ハ今日ノ海軍ニ於テ必要ナルモノデアルト云フ政府委員
 ノ説明モアリマシタ、原案ヲ可決スベシト決シマシタ、ソレカラ文部省ニ於
 キマシテハ學術探檢費即チ新領地ノ探檢費五千三百圓餘ト云フモノデアリマ
 ス、是モ至當ノ要求デアルト云フノデ原案ニ決シマシタ、ソレカラ二十九年
 度ノ特別會計歳入歳出豫算追加ノ乙、是ハ償金ヲ歳入臨時部ニ繰入レル即チ
 繰替ノ法案デアリマス、是ハモウ唯手續ダケノコトデアリマスカラ原案ニ決
 シマシタ、ソレカラ乙號ノ方ハ歳入臨時部繰入ノ説明ノ通デアリマシテ甲ノ
 年ノ支出殘額ノ乙年度ニ繰入レテ支出スルコトヲ要スルモノヲ議決スルノ
 止マルノデアリマスカラ是レ亦原案ノ通り決シマシタ、ソレカラ豫算外國庫
 ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルモノ是ハ航路擴張ノタメニ濠洲、子貴、
 浦潮斯德港、あろさあふノ四ツノ航海線路ニ補助スル必要ガアル其契約ヲ結
 プト云フ即チ案デアリマスルノデ是ハ既ニ航海ノ獎勵航路ノ擴張ト云フコト
 ノ方針ヲ取ルコトノ必要デアルト云フ譯デ是モ何等ノ異議ナク原案ニ決シマ
 シタ、ソレカラ終リニ臨ミマシテ此二十九年度追加豫算ノ戊號デアリマス、是
 ハ今朝付託ニナリマシタ則チ臺灣ノ事ニ關シタ豫算デアリマス、此中大藏省
 ノ所管ニ屬シテ居リマスル臺灣諸費ト云フモノハ是ハ所謂臺灣總督府ノ費用
 ニ關スルモノデアリマシテ若モ拓殖務省ト云フモノガ設定ニナリマスレバ自
 然ト是ハ無論其中ニ這入ルベキモノデアリマスガ當年ハマダ省ガ成立ツテ居
 ラスノデアアルカラ大藏省ノ所管ニ屬シテ置クト政府委員ノ話デアリマス、是
 ニ就イテ段々質問モアリ委シク政府委員ノ答辯モアリマシタガソレハ一々申
 上ゲルノモ煩シウゴザイマスカラシテ茲デハ陳ベマセヌ、若モ御質問ガゴザ
 イマスレバ政府委員カラ答辯モセラル、デアリマセウ、ソレモ多少ノ修正ガ
 衆議院デアリマシタガ其修正ヲ可トスルト云フ委員ノ決議デアリマス、大體
 是ダケデアリマス、尙ホ御質問ガゴザイマスレバソレニ應ジテ御答ヲ致シマ
 ス

○田中芳男君 一寸委員長ニ御尋フ致シタウゴザイマス、唯今ソレ御説
 明ガゴザイマシタガ本員ガ或ハ聽落シカ知リマセヌガ此明治二十九年歳入
 歳出ノ總豫算追加乙號ノ初メニ追加ノ説明ガゴザイマス其第一頁カラ五頁ニ涉
 リマスル所ニ法律ノ結果トシテ是ノ稅ガ減ズルト云フコトガ舉ツテ居リマ
 ス、其一番仕舞ニアリマス棉花輸入稅廢止ニ付減少額ガ五十三万三千二百圓
 トアリマス、是ハマダ輸入稅廢止ノ法律ガ通過致サヌノニ既ニ是ガ舉ツテ居
 リマスノハ少シ前後致スヤウニ考ヘマスガ是ハ何ノ譯デ斯ウナツテ宜シウゴ
 ザイマスカ

○公費近衛篤磨君 ソレハ成程丁度アナタノ御説ト同シヤウナ議論ガ委員會
 デハゴザイマシタ是モ議場ヘ報告ハ暫ク見合セテ宜カラウ棉花輸入稅ノ廢

止法案ノ成行ヲ見テツレカラ報告ヲシタラ宜カラウト云フ小澤君カラデアリ
マシタカ注意ガアリマシタ、併ナガラ是ハ說明デアアルノデアアテ豫算ノ上ニ
ハ少シモ影響ガナイノデアアテ若モ棉花輸入税廢止案ガ否決ニ爲テ矢張棉花
輸入税ヲ取ルト云フコトニナツテモ唯豫算ノ上ニ金ガ剩ルト云フニ止マルノ
デ、此豫算ト云フモノニハ更ニ影響ヲ及サヌノデアアル、是ハ其儘ニ致シテ宜
カラウト云フ説ガ多數デ即チ唯今報告ノ中ニ入レマシテノデアアリマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加辛號、是ヨ
リ始メマス、是ハ即チ臨時軍事費取扱手當ト云フ歳出ノ所ニゴザイマス、ソレ
ト官報局ノ刊行費、歳入ノ方ハ官業及官有財産收入、是ハ至ッテ簡單ナ案デ
ゴザイマスニ依ッテ款項ヲ分チマセズシテ全部ヲ問題ニ供シマス

○子爵曾我祐準君 何號
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 明治二十八年年度ノ辛號、朗讀ヲ致サセマス
(山本書記官朗讀)

歳入經常部
第三款 官業及官有財産收入 金五拾四萬八千八百八拾壹圓八拾四錢六厘
第十項 造幣局益金 金壹萬千貳百拾圓貳錢
第十二項 鐵道益金 金五拾參萬七千六百七拾壹圓八拾貳錢六厘
歳出經常部
大藏省所管

第十款 官報局 金壹萬千五百壹圓壹錢
第六項 刊行費 金壹萬千五百壹圓壹錢
歳出臨時部
大藏省所管

第十款 臨時軍事費取扱手當 金七萬六千六百貳拾壹圓參錢七厘
第一項 臨時軍事費取扱手當 金七萬六千六百貳拾壹圓參錢七厘
歳出總計金八萬七千六百貳拾貳圓四錢七厘

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 決ヲ採リマス、即チ全部問題ト爲ッテ居リマス、
原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ表題ノ豫算ト云フ所ヲ
問題ニ供シマス、是ハ朗讀ハ省略シマス
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

豫算
明治二十八年年度歳入追加額ヲ五拾四萬八千八百八拾壹圓八拾四錢六厘歳出
追加額ヲ八萬七千六百貳拾貳圓四錢七厘ト定ム其款項ノ金額ハ別冊歳入歳
出豫算ニ據ルヘシ
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御異議ナシト存シマシテ原案ニ決シマス
○澤原爲綱君 問題ハ何デゴザイマスカ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 既ニ決シマシタ、明治二十八年年度特別會計歳入
歳出豫算追加丙號、之ヲ問題ニ供シマス、朗讀ヲ致サセマス、全部ヲ問題ニ
供シマス
(山本書記官朗讀)

大藏省所管
特別資金
歳入
第一款 特別資金收入 金壹億千九百五萬五千五百五拾參圓六拾六錢五厘
第一項 償金 金壹億千九百五萬五千五百五拾參圓六拾六錢五厘

歳出
第一款 特別資金支出 金七千八百九拾五萬七千六百六拾四圓九拾八錢九厘
第一項 軍資金繰入 金七千八百九拾五萬七千六百六拾四圓九拾八錢九厘

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、特別會計豫算ト云フ表題ヲ
問題ニ供シマス、朗讀ヲ省略シマス
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

特別會計豫算
明治二十八年年度大藏省所管特別資金歳入歳出豫算額及其款項ノ金額ハ別冊
歳入歳出豫算ニ據ルヘシ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御異議ナシト認メマシテ原案ニ決シマス、
次ニ明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加乙號、之ヲ問題ニ供シマス、此中ノ
甲號ト云フ所、是ハ大分長ウゴザイマスルニ依ッテ朗讀ハ省略シマスガ、歳入
經常部登錄及印紙收入ト云フノガ初メニゴザイマス、即チ甲號、此歳入歳出
全部ヲ問題ニ供シマス
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

歳入經常部
登錄及印紙收入 金六百四拾貳萬參千九百九拾參圓五拾貳錢五厘
第一款 登錄收入 金參拾四萬六百拾四圓七拾壹錢五厘
第二項 印紙收入 金六百八萬參千參百七拾八圓八拾壹錢

第四款 雜收入 金千九百九拾六圓九拾壹錢
第五項 官吏遺族扶助法納金 金千九百九拾六圓九拾壹錢
歳入經常部合計金六百四拾貳萬五千九百九拾四圓四拾參錢五厘

歳入臨時部
第三款 雜收入 金參百拾壹萬五千七百五拾圓
第三項 利子收入 金參百拾壹萬五千七百五拾圓
第六款 製鐵費補足金 金壹萬千九百六拾九圓拾錢

第二項 納付金 金壹萬九千九百六拾九圓拾錢

第九款 前年度繰入金 金百六拾五萬千參百五拾貳圓六拾九錢壹厘

第一項 前年度繰入金 金百六拾五萬千參百五拾貳圓六拾九錢壹厘

第十款 公債募集金 金八百參拾七萬四千五百圓

第一項 事業公債募集金 金八百參拾七萬四千五百圓

歲入臨時部合計金千參百拾五萬參千五百七拾壹圓七拾九錢壹厘

歲入總計金千九百五拾七萬八千七百六拾貳圓貳拾貳錢六厘

歲出經常部

內務省所管

第十一款 北海道本廳 金參千六百參拾圓

第一項 俸給及諸給 金參千圓

第十四項 旅費 金六百參拾圓

大藏省所管

第二款 國債 金拾八萬七百九拾八圓六錢參厘

第一項 公債元利及手数料 金拾八萬七百九拾八圓六錢參厘

第十三款 內國稅徵收費 金貳拾四萬五千百拾貳圓五拾四錢五厘

第一項 俸給及諸給 金拾壹萬六千六百九拾壹圓

第二項 廳費 金貳千貳百四拾四圓四拾壹錢四厘

第七項 印紙鑑札類諸費 金壹萬千參百四拾九圓拾參錢壹厘

第九項 旅費 金五萬六百八拾八圓

第十項 雜給及雜費 金六萬四千四百四拾圓

大藏省所管合計金四拾貳萬五千九百拾圓六拾錢八厘

歲出經常部合計金四拾貳萬九千五百四拾圓六拾錢八厘

歲出臨時部

大藏省所管

第三款 公債證書製造及發行費 金四萬貳千參百六拾六圓六拾參錢參厘

第四項 事業公債證書製造及發行費 金四萬貳千參百六拾六圓六拾參錢參厘

第五款 營業費 金百拾參萬貳百五拾圓

第二項 葉烟草取扱所設置費 金百拾參萬貳百五拾圓

大藏省所管合計金百拾七萬貳千六百拾六圓六拾參錢參厘

歲出總計金百六拾萬貳千五百五拾七圓貳拾四錢壹厘

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ乙號葉烟草取扱所設置

費ト云フ所、之ヲ全部問題ニ供シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

第一

葉烟草取扱所設置費

總額

金四百貳拾壹萬參千五百五拾圓

金四百貳拾壹萬參千五百五拾圓

年額

明治二十九年

金百拾參萬貳百五拾圓

金百拾參萬貳百五拾圓

明治三十年

金參百八萬參千參百圓

金參百八萬參千參百圓

款 營業費

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ豫算ト云フ表題ノ處ヲ

問題ニ供シマス、

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

豫算

第一條 明治二十九年歲入追加額ヲ千九百五拾七萬八千七百六拾貳圓貳

拾貳錢六厘歲入追加額ヲ百六拾萬貳千五百五拾七圓貳拾四錢壹厘ト定ム其

款項ノ金額ハ別冊甲號歲入豫算歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ其規畫スル所ニ隨ヒ明治三十年歲ニ互ル繼

續費ト爲ス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

是ハ別ニ御異議ナシト認メマシテ原案ニ決シマス、少シ間ガゴザイマスケレ

ドモ衆議院ヨリ豫算追加案ガ尙ホ又送付シテ參リマシテゴザイマス、是ハ唯

今諸君ノ...各部ノ文書函ニ今入レテ御配付ヲシタノデアリマスケレドモ未

ダ御覽ニナル暇モアルマイト思ヒマス、併ナガラ最早此通り會期モ切迫シテ

居リマスシ此審査期限ヲ定ムルダケノ事ハ直ニ定メテ置キタイト存シマス、

明治二十九年歲入追加案(丑)號、明治二十九年歲特別會計歲入追加案(丙)

歲出豫算追加案(丁)號、明治二十九年歲特別會計歲入追加案(丙)

號、明治二十九年歲追加案(癸)號、豫算外國庫ノ負擔トナルヘ

キ契約ヲ爲スヲ要スル件、是ダケデゴザイマス、別ニ御異議ガナケレバ議事

日程ヲ變更シテ審査期限ヲ定ムルノ件ヲ議シタウゴザイマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

然ラバ御異議ナイト認メマシテ之ヲ議シマス

○公署近衛篤磨君 唯今ノ豫算案ノ審査期限ハ明日午後一時マデト云フコト

ニ願ヒタイ

○瀧口吉良君 贊成
○吉村角次郎君 贊成
○議長(侯爵須賀茂韶君) 唯今ノ近衛公爵ノ審査期限ハ明日ノ午後一時マ
デトスル、此說ニ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者多シ〕

然ラバ其事ニ決シマス、次ニ明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加案丙號之ヲ
問題ニ供シマス、是モ餘程長ウゴザイマスニ依ッテ一々朗讀致ス譯ニハ參リ
マセヌガ即チ歳入經常部第一款租稅第二十項海關稅トアル此分テゴザイマ
ス、甲號乙號ト二ツニ爲ッテ居リマス、甲號ノ方ヲ全部問題ニ供シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス(以下)
歲入經常部

歲入經常部

第一款 租稅 金五千八百七拾圓七拾九錢

第二項 海關稅 金五千八百七拾圓七拾九錢

第三款 官業及官有財產收入 金拾貳萬八千七百參拾六圓五拾七錢九厘

第二項 稅關雜收入 金壹萬貳百五拾壹圓七拾五錢

第五項 郵便電信收入 金拾壹萬八千四百八拾四圓八拾貳錢九厘

第四款 雜收入 金千四百四拾九圓拾六錢

第五項 官吏遺族扶助法納金 金千四百四拾九圓拾六錢

歲入經常部合計金拾參萬六千五百四拾六圓五拾貳錢九厘

歲入臨時部

第六款 製鐵費補足金 金壹萬五千五百拾八圓八拾六錢

第二項 納付金 金壹萬五千五百拾八圓八拾六錢

第九款 前年度繰入金 金貳百五拾壹萬八千九百四拾四圓參拾四錢八厘

第一項 前年度繰入金 金貳百五拾壹萬八千九百四拾四圓參拾四錢八厘

歲入臨時部合計金貳百五拾參萬四千四百參拾四錢八厘

歲入總計金貳百六拾七萬五千五百拾九圓七拾參錢七厘

歲出經常部

第二款 在外公館 金四萬四千四百六拾圓

第五項 朝鮮國居留地取締費 金四萬四千四百六拾圓

內務省所管

第三款 內務本省 金五千七百貳拾圓

第二項 廳費 金百貳拾圓

第六項 旅費 金貳千圓

第七項 雜給及雜費 金參千六百圓

第十一款 北海道本廳 金壹萬四千四百八拾壹圓拾六錢六厘

第二項 廳費 金參百參拾貳圓八拾貳錢參厘

第七項 徵兵費 金八千百拾七圓九錢參厘

第十四項 旅費 金千五百拾圓六拾七錢

第十五項 雜給及雜費 金千五百貳拾圓五拾八錢

第十二款 府縣 金參萬四千拾七圓拾六錢

第九項 徵兵費 金參萬四千拾七圓拾六錢

內務省所管合計金五萬千貳百拾八圓參拾貳錢六厘

大藏省所管

第一款 大藏本省 金貳萬參千六百九拾四圓四拾六錢

第一項 俸給及諸給 金壹萬千八百八拾圓

第二項 廳費 金貳千九拾貳圓五拾九錢五厘

第八項 旅費 金六千參百九拾圓貳拾錢

第九項 雜給及雜費 金四千參拾壹圓六拾六錢五厘

第三款 恩賞諸祿 金參百圓

第八項 特別年金 金參百圓

第十二款 稅關 金壹萬六千四百六拾貳圓

第一項 俸給及諸給 金五千四拾圓

第二項 廳費 金貳千七百五拾七圓

第三項 修繕費 金六百五拾七圓

第七項 旅費 金千參百六拾七圓

第八項 雜給及雜費 金六千六百四拾壹圓

第十五款 貨幣取扱費 金拾萬參千四拾壹圓壹錢五厘

第十四項 臺灣國庫金取扱費 金拾萬參千四拾壹圓壹錢五厘

第十八款 拓殖務本省 金拾四萬千參百貳拾圓

第一項 俸給及諸給 金八萬參千九拾五圓

第二項 廳費 金壹萬八千五百四拾圓

第三項 修繕費 金參千圓

第四項 死傷手當 金五圓

第五項 賠償及訴訟費 金貳拾五圓

第六項 旅費 金貳萬千七百七拾五圓

第七項 雜給及雜費 金壹萬五千四百八拾圓

大藏省所管合計金貳拾八萬四千八百拾七圓四拾七錢五厘

陸軍省所管

第二款 軍事費 金參拾貳萬貳千七拾八圓五拾四錢壹厘

第二項 諸手當 金貳萬四百五拾參圓八拾四錢

第四項 糧食費 金四萬九千五百五拾四圓八拾貳錢參厘

第五項 被服費 金七萬五千四百四拾六圓五拾四錢八厘

第六項 兵器彈藥費 金四萬百四拾五圓拾七錢

- 第八項 演習費 金壹萬八千四百四圓五拾錢
- 第九項 患者費 金千貳百四拾四圓四拾六錢七厘
- 第十項 廳費 金九萬五千參百九拾四圓五拾九錢參厘
- 第十一項 軍隊需品費 金貳千四百拾參圓參拾四錢
- 第十七項 旅費 金貳萬五拾壹圓貳拾六錢

海軍省所管

- 第二款 軍事費 金七千參拾貳圓六拾錢
- 第一項 俸給及諸給 金七千參拾貳圓六拾錢

文部省所管

- 第三款 中央氣象臺 金參千五百貳圓六拾八錢
- 第一項 俸給及諸給 金七百貳拾圓
- 第二項 廳費 金五百六拾圓五拾錢
- 第六項 旅費 金千貳百拾圓九拾八錢
- 第七項 雜給及雜費 金千拾壹圓貳拾錢
- 第七款 小學教育補助費 金九萬六千八百七拾四圓參拾五錢
- 第一項 小學校教員年功加俸 金九萬六千八百七拾四圓參拾五錢

農商務省所管

- 第九款 馬匹改良費 金九萬七千六百六拾六圓八錢
- 第一項 俸給及諸給 金壹萬貳千貳百圓
- 第二項 廳費 金壹萬六千五百五拾六圓貳拾壹錢七厘
- 第三項 死傷手當 金參拾圓
- 第四項 賠償及訴訟費 金六拾圓
- 第五項 旅費 金九千五百五拾參圓拾錢
- 第六項 雜給及雜費 金八千八百六拾八圓五拾錢
- 第七項 種馬購入及飼養費 金五萬六千九百九拾八圓貳拾六錢參厘

遞信省所管

- 第一款 遞信本省 金九千七百貳拾圓四拾七錢
- 第一項 俸給及諸給 金四千五百圓
- 第二項 廳費 金千貳百四拾八圓拾參錢五厘
- 第七項 旅費 金貳千七百四拾九圓六拾七錢
- 第八項 雜給及雜費 金千貳百貳拾貳圓六拾六錢五厘
- 第二款 遞信費 金拾四萬貳千九百貳拾圓參拾錢九厘
- 第一項 俸給及諸給 金貳萬千七百九拾六圓
- 第二項 廳費 金八千六百六拾四圓四拾六錢五厘
- 第三項 修繕費 金七百圓
- 第六項 遞信事業費 金七萬九千貳拾參圓參拾七錢六厘
- 第八項 諸拂辰金 金五千拾八圓七拾六錢

- 第九項 旅費 金壹萬八百六拾六圓五拾壹錢
- 第十項 雜給及雜費 金壹萬七千參百五拾壹圓拾九錢八厘
- 第三款 航路標識費 金貳萬貳千九拾貳圓拾參錢四厘
- 第一項 俸給及諸給 金五千五百貳拾圓
- 第五項 航路標識事業費 金壹萬貳千貳拾貳圓拾參錢四厘
- 第七項 旅費 金千八百參拾七圓參拾錢
- 第八項 雜給及雜費 金貳千七百拾貳圓七拾錢

遞信省所管

- 遞信省所管合計金拾七萬四千七百參拾貳圓九拾壹錢參厘
- 歲出經常部合計金百八萬八千八百八拾貳圓九拾六錢五厘
- 歲出臨時部

大藏省所管

- 第五款 營繕費 金四百貳拾圓
- 第一項 新營費 金四百貳拾圓
- 第七款 償金取扱費 金七萬七千五百五拾六圓六拾六錢
- 第一項 償金取扱費 金七萬七千五百五拾六圓六拾六錢
- 第八款 褒賞費 金九萬參千參百八拾五圓
- 第一項 臨時勳章勳記製造費 金九萬參千參百八拾五圓
- 第九款 拓殖務省備附費 金五千圓
- 第一項 拓殖務省備附費 金五千圓

海軍省所管

- 第十款 鎮守府造船材料資金 金參拾四萬五千五百參拾四圓貳拾八錢四厘
- 第一項 鎮守府造船材料資金 金參拾四萬五千五百參拾四圓貳拾八錢四厘

文部省所管

- 第一款 營繕費 金壹萬六千八百四拾壹圓四拾八錢
- 第三款 新營費 金壹萬六千八百四拾壹圓四拾八錢
- 第二款 設備費 金千貳百四拾六圓七拾八錢
- 第四項 測候所設備費 金千貳百四拾六圓七拾八錢
- 第六款 帝國大學臨時支出金 金五千參百八拾參圓七拾參錢貳厘
- 第二項 帝國大學學術探檢費支出金 金五千參百八拾參圓七拾參錢貳厘
- 第七款 京都帝國大學醫學科大學創立費 金八萬八千四百六拾五圓
- 第一項 新營費 金八萬八千四百六拾五圓

農商務省所管

- 第六款 營繕費 金六萬六千九百九拾圓
- 第四項 種馬牧場及種馬所新營費 金六萬六千九百九拾圓
- 第七款 第二回水產博覽會費 金五萬參千參百九拾五圓參拾七錢

第一項 第二回水產博覽會費 金五萬參千參百九拾五圓參拾七錢
第八款 巴里府萬國博覽會費 金貳萬百參拾五圓七拾參錢

第一項 廳費 金五千九拾六圓九拾七錢

第二項 旅費 金千九百參拾五圓四拾壹錢

第三項 雜給及雜費 金壹萬參千參百參圓參拾五錢

農商務省所管合計金拾四萬五百貳拾壹圓拾錢

遞信省所管

第一款 補助費 金六拾七萬五千參百貳拾七圓四拾四錢六厘

第三項 航路擴張費 金貳拾八萬參千貳百七拾八圓八拾九錢五厘

第四項 航海獎勵費 金貳拾九萬貳千四拾八圓五拾五錢壹厘

第五項 造船獎勵費 金拾萬圓

第二款 營繕費 金拾參萬八千九百九拾五圓貳拾九錢

第十二項 新營費 金參萬五千七百九拾七圓貳拾五錢

第十四項 修繕費 金貳千四百五拾四圓四拾錢

第十五項 船舶購買費 金拾萬七千四百拾參圓六拾四錢

遞信省所管合計金八拾壹萬四千參百貳拾貳圓七拾參錢六厘
歲出臨時部合計金百五拾八萬八千貳百七拾六圓七拾七錢貳厘
歲出總計金貳百六拾七萬百五拾九圓七拾參錢七厘

○澤原爲綱君 唯今ノハ丙號デゴザイマスカ丁號デゴザイマスカ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 明治二十九年年度追加豫算案ノ丙號デ其中ノ甲號
デゴザイマス、是ハ別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

御異議ナシト認メマシテ然ラバ原案ニ決シマス、次ニ乙號第二回水產博覽會
ト云フノガ初メニゴザイマス、之ヲ問題ニ供シマス

第一

第二回水產博覽會費

金拾五萬九千八百圓

金拾五萬九千八百圓

明治二十九年年度

金五萬參千參百九拾五圓參拾七錢

金五萬參千參百九拾五圓參拾七錢

明治三十年年度

金拾萬六百五拾四圓六拾參錢

金拾萬六百五拾四圓六拾參錢

明治三十一年年度

金五千七百五拾圓

金五千七百五拾圓

第二

商船學校練習船購買費

總額

金拾八萬九千九百參拾四圓九拾九錢五厘

金拾八萬九千九百參拾四圓九拾九錢五厘

年額

明治二十九年年度

金拾萬七百四拾參圓六拾四錢

金拾萬七百四拾參圓六拾四錢

明治三十年年度

金八萬千九百九拾壹圓參拾五錢五厘

金八萬千九百九拾壹圓參拾五錢五厘

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ別ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

御異議ナシト認メマシテ原案ニ決シマス、次ニ表題ノ豫算ト云フ所ヲ問題ニ
供シマス

豫算

第一條 明治二十九年年度歲入歲出追加額ヲ各貳百六拾七萬百五拾九圓七拾
參錢七厘ト定ム其款項ノ金額ハ別冊甲號歲入豫算歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ其規畫スル所ニ隨ヒ明治二十九年年度以降ノ
繼續費ト爲ス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

是モ原案ニ決シマス、ソレヨリ先刻申置キマシタル通此(己)號ト云フノト
(辛)號ト云フノハ河川法ト日本勸業銀行法トニ關聯シタ豫算デゴザイマスニ
依ッテ是ハ唯今ハ議シマセヌコトニ致シマシテ庚號即チ「カノエ」ト云フ字明
治二十九年年度歲入歲出總豫算追加案庚號、之ヲ問題ニ供シマス、是ハ全部ヲ
問題ニ供シマス

歲入經常部

第四款 雜收入 金八圓參拾參錢參厘

第五項 官吏遺族扶助法納金 金八圓參拾參錢參厘

第六款 製艦費補足金 金八拾參圓參拾參錢參厘

第二項 納付金 金八拾參圓參拾參錢參厘

第九款 前年度繰入金 金貳萬七千六百貳拾圓四錢貳厘

第一項 前年度繰入金 金貳萬七千六百貳拾圓四錢貳厘

歲入臨時部合計金貳萬七千七百參圓參拾七錢五厘

歲入臨時部合計金貳萬七千七百參圓參拾七錢五厘

歲入總計金貳萬七千七百拾壹圓七拾錢八厘

歲出經常部

司法省所管

第二款 裁判所 金貳千六百六圓貳拾四錢四厘

第一項 俸給及諸給 金八百參拾參圓參拾貳錢八厘

第二項 廳費 金六百五拾七圓九拾七錢六厘

第九項 旅費 金八百九拾九圓九拾四錢

第十項 雜給及雜費 金貳百拾四圓九拾八錢

歲出臨時部

司法省所管

第一款 營繕費 金貳萬五千五百五圓四拾八錢四厘

第一項 新營費 金貳萬五千五百五圓四拾八錢四厘

歲出總計金貳萬七千七百拾壹圓七拾錢八厘

○子爵曾我祐準君 唯今問題ニ爲テ居リマスノハ此歲入臨時部第六款製艦費補足金トアル是デゴザイマスカ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 左様デス、別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

然ラバ原案ニ決シマス、表題ノ豫算ト云フ所ヲ問題ニ供シマスカ

豫算

明治二十九年年度歲入歲出追加額ヲ各貳萬七千七百拾壹圓七拾錢八厘ト定ム

其款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

是モ原案ニ決シマス、今度ハ明治二十九年年度各特別會計歲入歲出豫算追加甲號即チ「キノエ」ノ方ノ甲デゴザイマス是ハ一ツ落チマシタカラ唯今ノハ取消シマス、明治二十九年年度歲入歲出總豫算追加案(壬)「ミヅノヘ」ト云フノデス、之ヲ問題ニ供シマス、即チ衆議院ニ於テ修正ノアツタ分デゴザイマス、是ハ甲號ト乙號ト分レテ居リマスガ是ハ簡單デアリマスニ依ッテ甲乙共ニ合セテ問題ニ供シマス、衆議院ニ於テ修正ノアツタ分デゴザイマス

歲入臨時部

第九款 前年度繰入金 金拾壹萬參千九百九拾九圓

第一項 前年度繰入金 金拾壹萬參千九百九拾九圓

歲出臨時部

司法省所管

第一款 營繕費 金拾壹萬參千九百九拾九圓

第二項 大阪控訴院大阪地方裁判所建築費 金拾壹萬參千九百九拾九圓

總額

金參拾萬參千六百五拾四圓七拾五錢

款 營繕費

金參拾萬參千六百五拾四圓七拾五錢

款 營繕費

金參拾萬參千六百五拾四圓七拾五錢

款 營繕費

金參拾萬參千六百五拾四圓七拾五錢

年額

明治二十九年年度

金拾壹萬參千九百九拾九圓

金拾壹萬參千九百九拾九圓

明治三十年度

金拾壹萬貳千貳百參拾四圓

金拾壹萬貳千貳百參拾四圓

金參拾萬參千六百五拾四圓七拾五錢

金參拾萬參千六百五拾四圓七拾五錢

年額

明治二十九年年度

金拾壹萬參千九百九拾九圓

金拾壹萬參千九百九拾九圓

明治三十年度

金拾壹萬貳千貳百參拾四圓

金拾壹萬貳千貳百參拾四圓

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

然ラバ原案ニ決シマス、表題ノ豫算ト云フ所ヲ問題ニ供シマス

豫算

第一條 明治二十九年年度歲入歲出追加額ヲ各拾壹萬參千九百九拾九圓ト定ム

其款項ノ金額ハ別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ其規畫スル所ニ隨ヒ明治二十九年年度以降ノ繼續費トス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマスカ次ニ明治二十九年年度各特別會計歲入歲出豫算追加甲號即チ「キノエ」デゴザイマス甲、是ノ海軍省所管橫須賀鎮守府造船材料云々ト云フ所カラ全部ヲ問題ニ供シマス

海軍省所管

橫須賀鎮守府造船材料資金

歲入

第一款 橫須賀鎮守府造船材料收入 金拾九萬六千九百圓

第一項 材料賣拂代 金拾九萬六千九百圓

歲出

第一款 橫須賀鎮守府造船材料費 金貳拾貳萬圓

第一項 材料購買費 金貳拾貳萬圓

歲入

第一款 吳鎮守府造船材料收入 金六萬四千四百八拾貳圓
第一項 材料賣拂代 金六萬四千四百八拾貳圓

歲出

第一款 吳鎮守府造船材料費 金貳拾萬九千四百八拾貳圓
第一項 材料購買費 金貳拾萬九千四百八拾貳圓

歲入

第一款 佐世保鎮守府造船材料收入 金五萬九千四百圓
第一項 材料賣拂代 金五萬九千四百圓

歲出

第一款 佐世保鎮守府造船材料費 金拾五萬四千圓
第一項 材料購買費 金拾五萬四千圓

文部省所管

歲入

第三款 學術探檢費受入金 金五千參百八拾參圓七拾參錢貳厘
第一項 政府支出金 金五千參百八拾參圓七拾參錢貳厘

臨時部

第四款 學術探檢費 金五千參百八拾參圓七拾參錢貳厘
第一項 新領地探檢費 金五千參百八拾參圓七拾參錢貳厘

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ別ニ御異議ナシト認メマシテ原案ニ決シマス、表題即チ各特別會計豫算ト云フ此表題ヲ問題ニ供シマス

各特別會計豫算

明治二十九年海軍省所管橫須賀鎮守府造船材料資金、吳鎮守府造船材料資金、佐世保鎮守府造船材料資金、文部省所管帝國大學ノ各特別會計豫算追加額及其款項ノ金額ハ別冊各特別會計豫算ニ據ルヘシ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマス、次ニ明治二十九年度特別會計歳入歳出豫算追加(乙)號……甲號乙號ト之ハ爲テ居リマス、大藏省所管特別資金ト云フ所、乙號ノ方ノ歳出第一款特別資金支出ト云フ所此分デゴザイマス、全部ヲ問題ニ供シマス、餘程紛ハシウゴザイマスガ御分ニナリマシタカ

大藏省所管

特別資金

歲入

第一款 特別資金收入 金八千五百四拾壹萬六千六圓七拾五錢五厘
第一項 償金 金八千五百四拾壹萬六千六圓七拾五錢五厘

歲出

第一款 特別資金支出 金四千九萬參千參百八拾八圓六拾七錢六厘
第一項 歳入臨時部歳入 金四千九萬參千參百八拾八圓六拾七錢六厘

歳出第一款特別資金支出第一項

說明

一般會計歳出ノ財源ニ充ツルモノニシテ其支出ニ伴フヘキモノナルヲ以テ甲年度ノ支出殘額ヲ乙年度ニ繰越使用スルヲ要ス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ原案ニ決シマス、特別會計豫算ト云フ表題ノ所ヲ問題ニ供シマス

特別會計豫算

第一條 明治二十九年海軍省所管特別資金歳入歳出豫算額及其款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 明治二十九年海軍省所管特別資金歳入歳出豫算別冊乙號所掲ノ支出ハ年度末支出殘額ヲ翌明治三十年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマス、次ニ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、問題ニ供シマス

航路擴張費トシテ明治二十九年海軍省所管特別資金歳入歳出豫算額及其款項ノ金額五厘同三十年度以降四箇年間毎年五拾六萬六千五百五拾七圓七拾八錢八厘ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ別ニ御異議ナシト認メマシテ原案ニ決シマス、次ニ明治二十九年海軍省所管特別資金歳入歳出總豫算追加案(戊)號即チ臺灣ノ事ニ關スル豫算デゴザイマス、是モ全部ヲ問題ニ供シマス

歳入經常部

第六款 臺灣歳入 金六百六拾八萬貳千貳百參拾六圓六拾錢參厘
第一項 臺灣歳入 金六百六拾八萬貳千貳百參拾六圓六拾錢參厘

歳入臨時部

第九款 前年度歳入金 金千貳百拾七萬七百八拾七圓貳拾貳錢
第一項 前年度歳入金 金千貳百拾七萬七百八拾七圓貳拾貳錢

第十一款 臨時軍事費資金 金千九百五拾六萬四百八拾四圓壹錢九厘
第一項 臨時軍事費特別會計剩餘金歳入 金千參百六拾萬七千九百八拾四圓壹錢九厘

第一項 會計剩餘金歳入 金千參百六拾萬七千九百八拾四圓壹錢九厘

第二項 一時賜金充用軍事公債 金五百九拾五萬貳千五百圓
 歲入臨時部合計金參千七百七拾參萬貳千七百七拾參圓貳拾參錢九厘
 歲入總計金參千八百四拾壹萬參千五百七拾七圓八拾四錢貳厘
 歲出經常部
 大藏省所管

第十九款 臺灣諸費 金六百參萬千七百拾五圓七拾貳錢參厘
 第一項 民政費 金參百拾七萬千六百參拾八圓五拾六錢壹厘
 第二項 稅關費 金拾九萬九千八百五拾七圓八拾壹錢五厘
 第三項 遞信費 金七拾六萬七千參百八拾八圓參拾四錢七厘
 第四項 製藥所費 金百八拾五萬四千四百參拾壹圓
 第五項 機密費 金參萬八千四百圓

第二款 陸軍省所管
 第一項 軍事費 金六百參拾七萬八千貳百七拾壹圓拾參錢六厘
 第二項 俸給及諸給 金九拾參萬八千八百九拾參圓八拾貳錢六厘
 第三項 諸手当 金七萬七千四百七拾五圓拾八錢八厘
 第四項 糧食費 金貳百參拾四萬九千四百六拾五圓五拾壹錢七厘
 第五項 被服費 金百貳拾九萬七千四百九拾八圓九拾壹錢九厘
 第六項 兵器彈藥費 金貳拾七萬參千四百拾壹圓貳拾錢九厘
 第七項 馬匹費 金貳拾四萬八千八百八拾參圓七錢七厘
 第八項 演習費 金壹萬貳千八百八拾參圓貳拾錢
 第九項 患者費 金拾四萬九千九百九拾參圓四拾八錢壹厘
 第十項 軍隊需用品費 金九萬九千九百貳拾六圓拾錢八厘
 第十一項 修繕費 金八萬千六百貳拾五圓七錢貳厘
 第十二項 死傷手当 金七千六百貳拾五圓
 第十三項 囚徒費 金九千八百參圓八拾七錢貳厘
 第十四項 賠償及訴訟費 金參百圓
 第十五項 旅費 金參拾參萬貳千七百四拾圓九拾九錢五厘
 第十六項 雜給及雜費 金參拾九萬五千九拾四圓貳拾七錢四厘
 第十七項 機密費 金貳萬六千參百圓
 第十八項 憲兵費 金百五拾壹萬六千貳百參拾壹圓拾五錢壹厘
 第十九項 俸給及諸給 金參拾九萬千八百八拾參圓四錢
 第二十項 諸手当 金參萬八千貳百壹圓拾七錢
 第二十一項 被服費 金貳拾參萬六千貳百七拾八圓八錢壹厘
 第二十二項 兵器彈藥費 金拾四萬參千四百五拾九圓六錢四厘
 第二十三項 馬匹費 金拾四萬參千四百五拾九圓六錢四厘
 第二十四項 廳費 金參萬參千貳百六拾六圓九拾參錢貳厘
 第二十五項 死傷手当 金四千貳百參拾五圓
 第二十六項 囚徒費 金五千五百四拾圓四拾四錢
 第二十七項 旅費 金參萬七千四百九拾五圓七拾七錢
 第二十八項 雜給及雜費 金拾六萬千六百七拾四圓貳拾參錢參厘
 第二十九項 機密費 金六千五百拾圓
 第三十項 糧食費 金四拾參萬五千五百四拾四圓九拾六錢九厘
 第三十一項 陸軍省所管合計金七百八拾九萬四千五百貳圓貳拾八錢七厘
 海軍省所管
 第一項 軍事費 金貳拾貳萬九千四百五圓五拾四錢壹厘
 第二項 俸給及諸給 金四萬八千六百八圓貳拾四錢壹厘

第二項 諸手当 金壹萬五百貳拾貳圓四錢八厘
 第五項 糧食費 金壹萬九千九拾六圓五拾六錢貳厘
 第六項 被服費 金貳千五百五拾七圓九拾八錢四厘
 第十項 患者費 金貳千八百參拾四圓拾錢
 第十一項 廳費 金貳萬七千貳百九拾六圓六拾錢
 第十二項 軍港要港費 金貳萬七千七百八拾五圓九拾錢
 第十三項 艦營費 金五萬參千五百七拾貳圓參拾九錢壹厘
 第十四項 修繕費 金壹萬四千九百拾壹圓五拾五錢四厘
 第十五項 死傷手当 金貳千五百圓
 第二十項 旅費 金壹萬五千九百參拾八圓七拾六錢
 第二十一項 雜給及雜費 金七千八百六拾五圓拾錢壹厘
 第二十三項 機密費 金貳千四百圓
 歲出經常部合計金千四百拾五萬五千六百貳拾參圓五拾五錢壹厘
 歲出臨時部
 大藏省所管
 第十款 臺灣事業費 金四百六拾九萬七千四百圓貳拾七錢貳厘
 第一款 臺灣事業費 金四百六拾九萬七千四百圓貳拾七錢貳厘
 第一款 陸軍省所管
 第一項 臨時軍事費 金千八百六拾六萬參千九百參拾七圓貳拾四錢壹厘
 第二項 臨時軍事費 金千八百六拾六萬參千九百參拾七圓貳拾四錢壹厘
 海軍省所管
 第十一款 臨時軍事費 金九拾五萬六千五百四拾六圓七拾七錢八厘
 第一款 臨時軍事費 金九拾五萬六千五百四拾六圓七拾七錢八厘
 歲出臨時部合計金貳千四百四拾壹萬參千五百七拾七圓八拾四錢貳厘
 歲出總計金參千八百四拾壹萬參千五百七拾七圓八拾四錢貳厘
 ○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御異議ガゴザイマセカ
 ○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ是レ亦原案ニ決シマス、表題豫算ト云フ所ヲ問題ニ供シマス
 豫算
 明治二十九年年度歲入歲出追加額ヲ各參千八百四拾壹萬參千五百七圓八拾四錢貳厘ト定ム其款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ
 ○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマス、次ニ社寺上地林保管法案衆議院提出第一讀會ヲ開キマス、提出文ノミヲ朗讀致サセマス

(山本書記官朗讀)
 社寺上地林保管法案
 右憲法第三十八條ニ依リ貴院ニ提出候也
 明治二十九年三月二十三日
 衆議院議長楠木正隆

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿
 (左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

社寺上地林保管法案
 第一條 社寺境外上地林ニシテ現ニ官有ニ屬シ官用又ハ公用ニ供セサルモノハ農商務大臣ニ於テ其ノ社寺ノ申請ニ依リ之ヲ保管セシムルモノトス
 第二條 社寺ニ於テ社寺上地林ヲ保管スルニハ神社ハ神職氏子總代寺院ハ住職檀徒總代(氏子檀徒ナキモノハ信徒總代)ヲ以テ管理者トス

第三條 社寺上地林三十町歩以上ノモノハ看守人ヲ設ケ大林區署長ニ届出

第四條 社寺上地林ハ大林區署長ノ監督ヲ受クヘシ

第五條 社寺上地林ハ風致其ノ他國土保安ニ關スル樹竹樹根落葉柴草土石

ハ採收スルコトヲ得ス

第六條 社寺上地林ヲ使用シ變更シ又ハ建造物ヲ設ケムトスルトキハ大林

區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 社寺ハ修繕建築ノ爲必要アル場合ニ於テ營林上差支ナキ郡分ニ限

リ大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ樹竹土石ヲ採收スルコトヲ得

第八條 社寺上地林ニ於テ營林上伐採ヲ要スル樹竹ハ大林區署長ノ許可ヲ

得テ其ノ樹竹ヲ採收スルコトヲ得

第九條 社寺上地林ノ副産物(樹實、菌蕈、落枝、落葉、下草、晚筍ノ類)ハ豫メ

大林區署長ノ認可ヲ受ケ採收スルコトヲ得

第十條 本法第七條第八條ニ依リ樹木ヲ伐採シタルトキハ其ノ跡地ニ三年

以內ニ樹苗ヲ植栽スヘシ

第十一條 社寺ハ社寺上地林ヲ保護愛養シ無立木地ニハ樹苗ヲ植栽スヘ

シ

第十二條 官用又ハ公用ノ爲社寺上地林ヲ供用スルノ必要アルトキハ其ノ

部分ニ限リ社寺ノ保管ヲ解除スルコトアルヘシ

第十三條 製鐵其ノ他官用ノ爲大樹ノ必要アルトキハ政府ニ於テ伐採スル

コトアルヘシ

第十四條 政府ニ於テ植樹ノ必要ヲ認ムルモ社寺其ノ植付ヲ爲シ能ハサル

トキハ政府ニ於テ苗木ヲ植付クルコトアルヘシ

第十五條 本法第五條第七條第八條ニ違背シタルトキハ其ノ樹竹土石ヲ官

沒シ賣却シタルモノハ其ノ代金ヲ追徴シ管理者ヲ二圓以上百圓以下ノ罰

金ニ處ス

第十六條 本法第六條ニ違背シタルトキハ管理者ヲ二圓以上五十圓以下ノ

罰金ニ處ス

但變更地ハ原形ニ復セシメ建造物ハ解除セシムルコトアルヘシ

第十七條 本法第九條第十條及第十一條ニ違背シタルトキハ管理者ヲ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十五條第十六條ノ處罰ヲ受ケタルトキハ農商務大臣ニ於テ其

ノ保管ヲ解除スルコトアルヘシ 第十九條 此ノ法律ニ關スル施行細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十条 此ノ法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

(政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル)

○政府委員(高橋琢也君) 政府ハ本案ニ對シマシテモ不同意ノ廉ガゴザイマ

スルガ其段ハ委員會テ申上ゲマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リ

マス

○伯爵大原重朝君 此特別委員ハ成規ノ通ニシテ其選定ヲ議長ニ任カセルト

云フ勸議ヲ提出致シマス

○男爵西五辻文仲君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 選定ヲ議長ニ託スルト云フ大原伯爵ノ勸議デゴ

ザイマス、別ニ御異議ハゴザイマセヌカ

貴族院議事速記第四十二號

明治二十九年三月二十五日

特別委員ノ選舉

國勢調查ニ關スル建議案 會議

六二九

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ其事ニ決シマス、次ニ國勢調查ニ關スル

建議案、船越衛君外一名發議、會議ヲ開キマス、朗讀ヲ致サセマス

(山本書記官朗讀)

國勢調查ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治二十九年三月二十一日

發議者 船越 衛 外一名

贊成者 伯爵大原重朝 外六十三名

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

國勢調查ニ關スル建議案

統計ハ國家ノ現狀ヲ查察シ事物ノ變遷ヲ推定スル羅針ナリ故ニ統計ニシテ

明確ナラサルトキハ公私百般ノ事業ハ茫乎トシテ據ル所ナク往々誤謬ニ陷

ルコトヲ免レサラムトス而シテ統計ノ正確ナルコトヲ欲セハ全國人民ノ現

狀ヲ調査スルヨリ急且先ナルハナシ我國亦久シク人口調査ヲ行フト雖戶籍

トヲ得ス加之遺漏ノ疑アリテ既ニ全國人口ニテモ本籍調ト現住調トハ毎年

六七十萬ノ差異アリ都會ニ至リテ其ノ差殊ニ甚シトス人口既ニ此ノ如シ其

ノ産業ノ調査ノ如キ正確ナルヲ得サルハ固ニ宜ナリトス我國公私百般ノ事

業新ニ振興スルノ日ニ方リテ統計ノ正確ナルヲ始メテ此ノ如シ豈一大闕典ト謂

ハサルヘケムヤ北米合衆國ノ如キハ建國ノ始ヨリ憲法ニ於テ之ヲ規定シ十

年一回ノ大調査ヲ施行シ歐洲各國ニ在テハ概ネ五年若ハ十年ニ一回之ヲ實

施セリ昨年七月瑞西國伯爾奴國ニ開キタル萬國統計會ニ於テ次會ノ調査期

限ヲ議決シ西曆一千九百年即チ我明治三十三年ト定メ從來各國ノ執行期ノ

之ニ先ツモノハ之ヲ延ハシ後ル、モノハ之ヲ線上ケ萬國同一時日ニ其ノ調

査ヲ執行セムコトヲ望ミ各政府ニ其ノ承諾ヲ求メ既ニ我國ヘモ照會アリシ

ト聞ケリ故ニ政府ハ之ニ應ジテ明治三十三年ヲ第一期トシ爾後每十年ニ調

査スルコト、爲シ速ニ其ノ計畫ヲ定メラレムコトヲ望ム因テ茲ニ建議ス

明治二十九年三月 日

(船越衛君演壇ニ登ル)

○船越衛君 本案ハ本會期ノ初メ或ハ半バ頃ニ提出致スベキ見込デゴザイマ

シタガ彼レ是レ取調ナベキ事モ多少ゴザイマシテ、遂ニ今日マデ延引致シマ

ヤウデゴザイマスガ此調査ニ就キマシテハ段々必要缺クベカラヌ準備モゴザイマス...

○船越衛君 是ハ統計年鑑デゴザイマス ○子爵小笠原壽長君 今一ツ伺ヒマス...

○船越衛君 左様デアリマス ○子爵小笠原壽長君 スルト全國ニナリマス...

○菊池大麓君 質問デアリマス ○菊池君ハ質問デアリマス...

○議長(侯爵須賀茂昭君) 森林法案特別委員會ニ於キマシテ特別委員長ニ...

○議長(侯爵須賀茂昭君) 森林法案特別委員會ニ於キマシテ特別委員長ニ...

○議長(侯爵須賀茂昭君) 大分又人が出テ參ッタヤウデアリマス...

(中根書記官長期讀)

- 第一 輸入棉花海關稅免除法律案(政府提出)
第二 東京府下郡廢置法律案(政府提出)
第三 香川縣下郡廢置法律案(政府提出)
第四 臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律案(政府提出)
第五 明治二十九年年度歲入歲出總豫算追加案
第六 明治二十九年年度特別會計歲入歲出總豫算追加案(丁)
第七 明治二十九年年度特別會計歲入歲出總豫算追加案(丙)
第八 明治二十九年年度歲入歲出總豫算追加案(癸)
第九 豫算外國庫(負擔)ナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(政府提出)
第十 清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法案(衆議院提出)
第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十二 北海道鐵道敷設法案(本院提出)
第十三 國勢調査ニ關スル建議案(船越衛君外一名)
第十四 農商工會設置ニ關スル建議案(前田正名君發議)
第十五 神祇ニ關スル官衙設置ノ建議案(丸山作樂君外一名)
第十六 國費ヲ以テ國學院ヲ保護スルノ建議案(子爵平松時厚君外一名)
第十七 復祿及復族祿ノ請願
第十八 筑後川改修工事ノ請願
第十九 蠶種検査法實施ノ請願
第二十 假屋灣ヲ貿易港ト爲スノ請願
第二十一 電信線架設ノ請願
第二十二 明治七年以後戰死者遺族弔祭料下賜ノ請願
第二十三 停車場設置ノ請願
第二十四 遠賀川河身改修ノ請願
第二十五 朝鮮貿易港開設ノ請願
議長(侯爵須賀茂昭君) 本日ハ散會 午後四時二十五分散會